

秋田県文化財調査報告書第72集

片符沢遺跡Ⅰ発掘調査報告書

1980・3

秋田県教育委員会

序

由利郡東由利町に所在する片符沢遺跡は、昭和54年度県営圃場整備事業に係る遺跡であります。そこで県農政部と協議し、国庫補助を得て事前発掘調査を実施したものです。本報告書はその調査結果をまとめたものです。

調査の結果、縄文時代後期初頭の土坑、それに伴う土器、土偶、円盤状土製品など数多くの遺物が発見されました。縄文時代後期初頭の遺跡の発掘例は少なく、研究も遅れているところであり、今度発見されたものは、それを補充する貴重な資料と考えられます。

本報告書が文化財の保護はもちろん、学問的にも活用していただければ幸いに存じます。

最後にこの発掘調査にご協力いただいた東由利町教育委員会ならびに由利農村事務所の方々に心から感謝の意を表します。

昭和55年3月

秋田県教育委員会

教育長 畠山 芳郎

例　　言

1. 本書は、秋田県教育委員会が昭和54年度に発掘調査を実施した片符沢遺跡の調査報告書である。
2. 本書の作成にあたり、以下のように分担して執筆した。

目次の第4章第1節の2、第5章.....	富樫 泰時
第1章、第3章、第4章第1節の1.....	橋本 高史
第2章.....	佐藤 和弘
3. 遺跡の写真撮影は富樫、橋本が行った。遺物の写真撮影は佐藤(和)鈴木(功)が行った。
4. 本書中の出土遺物の実測図は第57図13を除いて(これだけ $\frac{1}{4}$)、全て $\frac{1}{2}$ に統一した。出土土器の拓影は $\frac{1}{2}$ 、 $\frac{1}{3}$ とした。全体図及び遺構実測図は任意の縮尺であり、それぞれにスケールを付した。方向は全て磁北である。
5. 土色の表記は主に小山正忠・竹原秀雄「新版標準土色帳」を活用した。
6. 土偶等の実測に際しては、秋田県立博物館 庄内昭男氏の協力を得た。
7. 遺構外からも大量の遺物が出土しているが、時間と費用の関係で、大部分を割愛せざるを得なかった。これらについては、後の機会に公表するつもりである。

目 次

序

第1章 はじめに	1
第1節 発掘調査に至るまで	1
第2節 調査の組織と構成	1
第2章 遺跡の立地と環境	4
第1節 立地と環境	4
第2節 歴史的環境と周辺遺跡	4
第3章 発掘調査の概要	6
第1節 遺跡の概要	6
1. 遺跡の層序	6
2. 遺構の分布	6
3. 遺物の検出状況	9
第2節 調査の方法	9
第3節 調査の経過	9
第4章 調査の記録	13
第1節 遺構と遺物	13
1. 遺構について	13
2. 遺物について	46
第5章 まとめ	96

挿 図 目 次

第1図 遺跡位置図	3	第30図 S K09出土土器	57
第2図 遺跡全体図	7	第31図 S K11出土土器	58
第3図 遺構配置図	11	第32図 S K12出土土器	59
第4図 S K101・102・103土塙	14	第33図 S K13出土土器	59
第5図 S K106・41・44土塙	16	第34図 S K14出土土器	60
第6図 S K40・39・43土塙	18	第35図 S K15出土土器	61
第7図 S K42・38・28土塙	20	第36図 S K16・18・19・20出土土器	62
第8図 S K36・32・47土塙	22	第37図 S K17出土土器	63
第9図 S K46・45・35土塙	24	第38図 S K22出土土器	64
第10図 S K29・30・20土塙	26	第39図 S K23出土土器	65
第11図 S K22・27・24土塙	28	第40図 S K24・25出土土器	66
第12図 S K23・33・05土塙	30	第41図 S K26出土土器	67
第13図 S K25・26・04土塙	32	第42図 S K27出土土器	68
第14図 S K17・16・15土塙	34	第43図 S K28出土土器	69
第15図 S K34・31・19土塙	36	第44図 S K28出土土器	70
第16図 S K18・07・06土塙	38	第45図 S K29・30・32・33出土土器	71
第17図 S K03・02・01土塙	40	第46図 S K31出土土器	72
第18図 S K11・14・12土塙	42	第47図 S K35出土土器	73
第19図 S K13・09土塙、S X21埋甕	44	第48図 S K36・37・39・40出土土器	74
第20図 S K01出土土器	48	第49図 S K43出土土器	74
第21図 S K02出土土器	49	第50図 S K38出土土器	75
第22図 S K02出土土器	50	第51図 S K41出土土器	76
第23図 S K03出土土器	51	第52図 S K42出土土器	77
第24図 S K03出土土器	52	第53図 S K47出土土器	78
第25図 S K05出土土器	53	第54図 S K101・106出土土器	79
第26図 S K06出土土器	54	第55図 S X21埋甕実測図	80
第27図 S K06出土土器	55	第56図 土器実測図	81
第28図 S K07出土土器	56	第57図 土器実測図	82
第29図 S K08出土土器	57	第58図 土器実測図	83

第59図 土器実測図	84	第65図 II区出土土器底部	90
第60図 土製品実測図	85	第66図 II区出土土器底部	91
第61図 土偶実測図	86	第67図 II区出土土器底部	92
第62図 土偶実測図	87	第68図 II区出土土器底部	93
第63図 円盤状土製品	88	第69図 土坡出土土器	94
第64図 I区出土土器底部	89	第70図 上坡出土石器	95

図 版 目 次

図版1 遺跡遠景・I区及びII区北部	図版16 S X21埋葬
図版2 II区全景	図版17 土坡内遺物出土状況
図版3 II区南部・III区全景	図版18 II区北部遺物出土状況
図版4 IV区全景・発掘風景	図版19 II区南部遺物出土状況
図版5 S K41・40・39土坡	図版20 III区遺物出土状況・土偶出土状況
図版6 S K44・43・42・38土坡	図版21 途横外出土土器
図版7 S K46・28・32・47土坡	図版22 途横外出土土器
図版8 S K45・35・29・30土坡	図版23 途横外出土土器
図版9 S K24・22・27土坡	図版24 途横外出土土器
図版10 S K05・23・33土坡	図版25 途横外出土土器
図版11 S K04・25・17土坡	図版26 途横外出土土器
図版12 S K16・15・34・31土坡	図版27 途横外出土土器
図版13 S K19・07・06・03土坡	図版28 途横外出土土器
図版14 S K02・08・01・11土坡	図版29 途横外出土石器
図版15 S K14・12・13・09土坡	図版30 途横外出土石器

付 図

付図1 土坡上面礫分布図	付図3 土坡分布図
付図2 土坡上面出土土器分布図	

第1章 はじめに

第1節 発掘調査に至るまで

片符沢遺跡Ⅰは、昭和37年秋田県教育委員会の行った遺跡分布調査の際確認された周知の遺跡である。この地域は、昭和53年度の県営圃場整備事業東由利地区の計画地域内にあり、その処置について由利農林事務所から連絡があった。

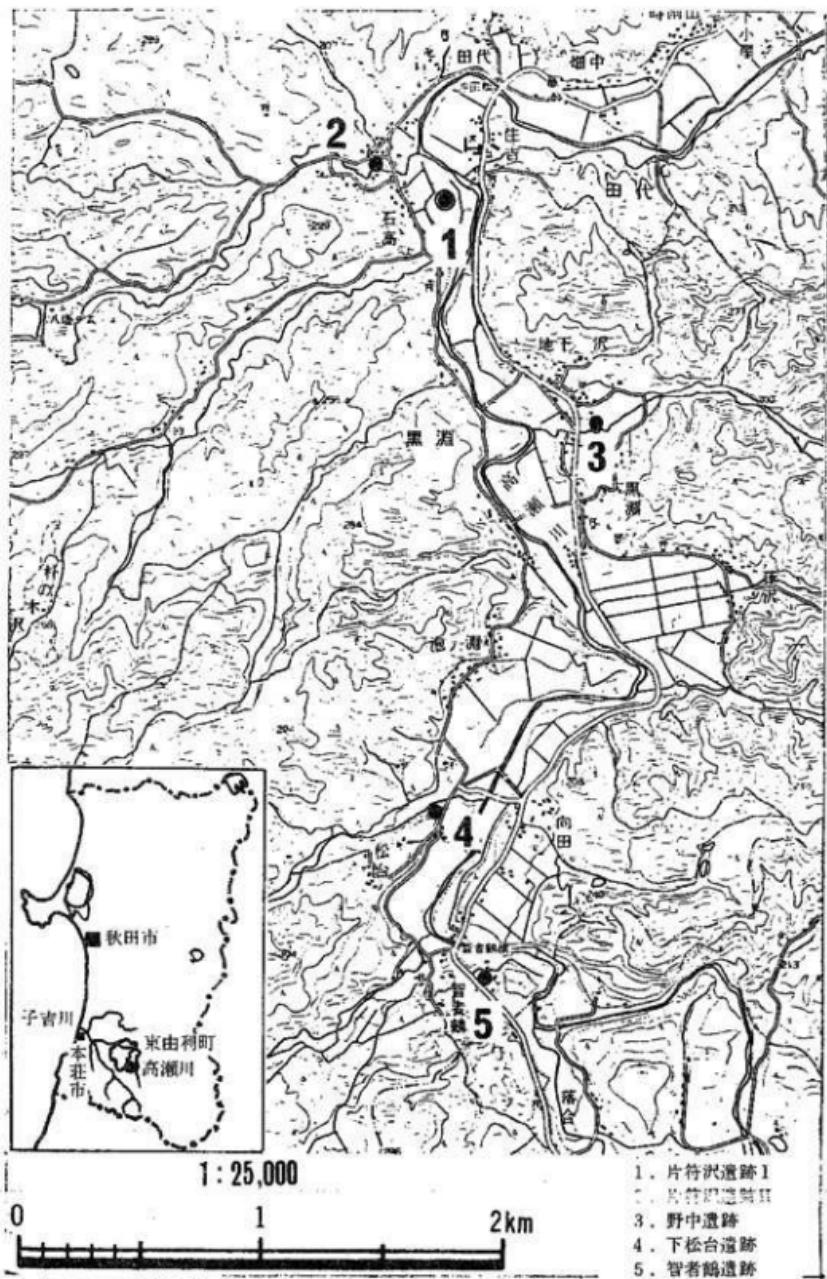
計画どおり工事が行われると、水田下の遺跡が破壊される恐れがあるので、由利農林事務所と文化課が協議して、工事着手前に発掘調査を実施し、記録保存をはかり、今後の資料とするものとした。

その後、この地域の圃場整備事業が昭和54年度に変更になったため、発掘調査を昭和54年度に行うこととし、片符沢遺跡Ⅱと並行して6月18日から調査が開始された。調査対象面積は約7,000 m²である。

第2節 調査の組織と構成

調査目的	県営圃場整備事業（東由利地区）に伴い消滅する片符沢遺跡Ⅰを、工事に先立って発掘調査し、その記録保存をはかり、地域社会での埋蔵文化財の活用に資する。
調査主体	秋田県教育委員会
調査担当者	富樫泰時、島山憲司、橋本高史（秋田県教育庁文化課）
調査補助員	佐藤和弘、高橋俊宏
事務補助員	島山京子
調査協力機関	秋田県由利農林事務所 東由利町土地改良区 東由利町教育委員会 東由利町立住吉小学校
遺跡所在地	秋田県由利郡東由利町田代字石高8番地
調査期間	昭和54年6月18日～8月11日
調査対象面積	7,000 m ²
調査面積	2,048 m ²

発掘調査協力者	及川昭、高橋忠太郎、川崎洋督、岸本正憲、小松輝男、高井勉、東松琢郎、熊谷恭子、齊藤知子、佐々木郁子(以上秋田大学学生)、大阪幸一、小野企藏、小野庄治、小野廣世、木島賢一、木島利久、斎藤正志、佐藤銀一郎、佐藤隆、佐藤吉二、佐藤房藏、佐藤満、千葉重喜、長谷山武美、長谷山義雄、皇山洋、畠山運治、村上作藏、渡辺忠、渡辺忠一郎、渡辺房吉、渡辺与八、小野幸子、小野タケ、木島のりこ、小松ツルノ、佐藤金子、佐藤サカエ、佐藤節子、佐藤ルリ子、千葉ナツヨ、渡辺サキ、渡辺チヨ、渡辺ミチ、渡辺ユミ
遺物整理協力者	渡辺健太郎、鈴木秋良、花田幹雄、桑原隆、高橋浩樹、大石俊雄、鈴木功、天野恵了、荒沢孝子、石川静、石黒紀子、越智孝子、金子千賀子、神居トシ、熊谷恭子、小潤悌子、小町順子、佐藤昌子、佐藤連子、進藤ひとみ、諏訪節子、田松志津子、鶴谷左絵子、林ヒサコ、藤島アツ子、牧野一枝、山崎節子、山田文子



第1図 遺跡位置図

第2章 遺跡の立地と環境

第1節 立地と環境

片符沢遺跡は、秋田県由利郡東由利町田代字石高8番地に所在する。東由利町は、秋田県の中央部から西南部に広がる出羽丘陵にある山あいの町で、古くから山利海岸と内陸横手盆地を結ぶ中繼点に位置し、現在は本荘と横手を結ぶ国道107号線がその中心的な役割をはたしている。

この東由利町を南東から北西に貫流する高瀬川は、蛇行しながら肥沃な沖積地を形成し、現在はその周囲のほとんどが水田で、すでに周知の湯出野遺跡を含め多くの遺跡が点在している。

雄勝郡羽後町に源を発し西流する高瀬川は、本町石高で急に北に流路を変える。本遺跡は、その屈曲部から約100m上流の左岸最低位段丘上にある。又、西側に東由利町最高峰である八塙山(713m)が近接し、四方を山に囲まれ、国道107号線と県道羽後・向田・館合線との分岐点から約4km南下した小盆地にある。遺跡のある河岸段丘は高瀬川が大きく東へ蛇行して形成されたもので、南側がやや高くなっている。遺跡の標高は、149~151mで高瀬川水面との比高は4~5mである。

第2節 歴史的環境と周辺遺跡

高瀬川流域には、確認されている縄文時代の遺跡が片符沢遺跡Iの他7遺跡がある。そのほとんどが、高瀬川及びその支流が形成した河岸段丘上にある。時期的に見ると、縄文時代前期のものとして片符沢遺跡II、縄文時代中期のものとしては大木7・8式土器が出土している向山遺跡、同じく大木b式土器が出土している野中遺跡があり、縄文時代後期遺跡である片符沢遺跡Iと同じ時代のものとして縄文時代中期から後期にわたっている台山遺跡II、下松台遺跡等がある。縄文時代晩期のものとしては、晩期全般にわたっている湯出野遺跡、大洞C式土器が出土した智者鶴遺跡がある。これらの遺跡の立地を見ると、片符沢遺跡I・智者鶴遺跡は川の流域のすぐそばの低位河岸段丘上にあり、野中遺跡・向山遺跡など、中期遺跡は河川から少し離れ、高い位置の洪積台地上に立地している。片符沢遺跡Iと同時代の台山II・下松台の遺跡はそれらの中間的高さをもつ台地上に存在している。

又、古代の遺跡としては、台山遺跡I・岩井堂遺跡があり、中世のものとしては、下村城跡・玉米城跡・根城城跡・高建城跡があり、根城城跡・高建城跡は中世、卜柯城跡は中世末のも

のとされている。遺跡の所在する田代地区は、中世において矢島・雄勝方面への主要な交通路
・文化の中継地点としての役割をはたしたものと思われる。

第3章 発掘調査の概要

第1節 遺跡の概観

1、遺跡の層序

遺跡は子吉川の支流高瀬川の左岸の第一河岸段丘上に位置している。今回の調査対象地域はほとんどが水田であり、一部耕地整理等により破壊された箇所もある。遺跡の中心部における標準的層位は以下の通りである。

第Ⅰ層 暗褐色土 いわゆる表土できめの細かいろぼく土。(20cm)

第Ⅱ層 黒褐色土 炭化物、赤色粒子を含む粘性のある土。多量の礫を混入する。遺物包含層。(20cm)

第Ⅲ層 黒褐色土 粘性のあるきめの細かい土で炭化物を含む。赤色粒子も混入するが、第Ⅱ層程多くない。第Ⅲ層上面にて土塙が検出された。遺物包含層。(10cm)

第Ⅳ層 黄灰色土 段丘礫層、または粘質土のいわゆる地山。

2、遺構の分布

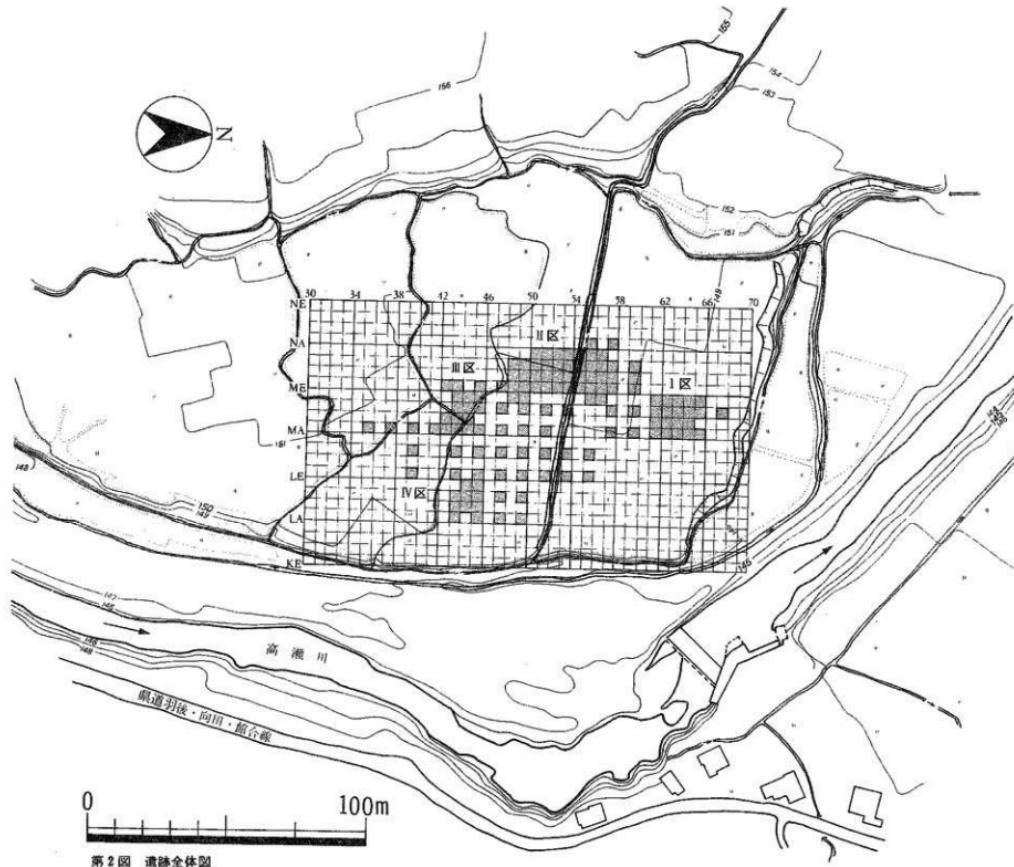
片符沢I遺跡は遺跡西側北部(I区)、西側中央(II区)、西側南部(III区)、東側(IV区)に分けられる。それぞれの区ごとに遺物の分布及び検出状況について述べてみる。

I区において検出された遺構は土塙4基である。SK101~103はほぼ同タイプの土塙でまとめて検出された。SK106はそれよりやや東側へ離れて位置し、形態も異なる。いずれの土塙も第Ⅲ層上面にて検出された。

II区は、この遺跡の中心部とみられ、土塙41基、埋甕1基を検出した。遺構はMC50付近に環状に配置されているようである。SK05は土塙のまわりを黄褐色土が環状に囲む形態をしており、他の土塙とは違う役割を持ったものであろう。第Ⅱ層中から礫を伴って大量の土器が出士した。

III区にては土塙5基が検出された。ほぼ同様の広がりをもって分布しているが、形態的にはかなりの差異がみられた。III区もII区同様に第Ⅱ層上面に礫を伴って土器が大量に出土し、その下に土塙がある。

IV区においては遺構は発見されなかった。



第2図 遺跡全体図

3、遺物の検出状況

片符沢Ⅰ遺跡において出土した遺物の量は整理箱で50箱程度である。遺物は標準層位における第Ⅱ・Ⅲ層中からある程度まとまった状態で出土するものもあったが、投げ棄てられたものらしく、ほぼ完形として復元できるものは数個にすぎなかった。また遺物はⅡ層中から出土したもののが最も多く、遺構埋土中からのものと第Ⅲ層出土のものは少ない。土丘間の遺物出土量はかなりの開きがある。概して、深く掘り込まれた比較的大きい土堆で遺物の出土が多い。

第2節 調査の方法

片符沢Ⅰ遺跡は周知の遺跡であり、台地部分約12,000m²あったと推定されるが、数回にわたる耕地整備等のため段丘上の山側の約半分は削られて破壊されてしまっていた。そこで、河岸段丘の河川側で坪振りを行い、北側に遺物が多く出土したので、北側のはば半分、約7,000 m²を調査対象として発掘調査を行うことにした。

遺跡中央部に任意の基準杭を打ち、これを原点(MA50)とした。トランシットにより磁北を定め、東西南北の基線を決定した。これから4m毎に東西基線はアルファベット2文字の組み合わせ、南北基線は2桁の数字の組み合わせを用いた。すなわち、東西基線は8グリッド32mで2文字の前の方を替え、4m毎に後の方を替えた(西へMA、MB、MC、……、MG、MH、NA、……、NH、OA、……)。また南北基線の数字は4m毎へ北に行くにつれ1ずつ増えることとした(北へ50、51、52、……、59、60、……)。各グリッドの名称は東西南隅の交点のアルファベット2文字と数字2文字からなる4個の組み合わせを用いることにした(MA50、MB51、……)。

発掘調査は前述したグリッド名称を用いて、4m×4mのグリッド法により、隨時拡張していくことにした。実測は16m毎の基準杭を基にして間尺を用いて、原則として1/20縮尺で行った。土色は「新版標準土色帳」によった。遺構番号は検出順に01から番号をふり、その後遺構でないと確認されたものはそのまま欠番とした。

第3節 調査の経過

片符沢遺跡Ⅰは周知の遺跡であるが、昭和54年度の圃場整備地域内となったため、昭和54年6月18日～8月11日までの間、発掘調査を行った。調査の全般的な経過は次のとおりである。

6月18日～21日に片符沢遺跡Ⅰの範囲確認調査を行い、遺跡面積を約7,000 m²と推定し、これを調査対象とし、25日から本格的発掘調査にはいった。最初に遺跡のはば中央部に任意の基

準杭を打ち、MA50と定めた。27日から、範囲確認調査の際に土器が多く出たMC51周辺と、LG45周辺を中心にして掘り始めたが、連日の雨のため表土下を掘り下げることが困難だったため南北に表土剥ぎ区域を広げていった。

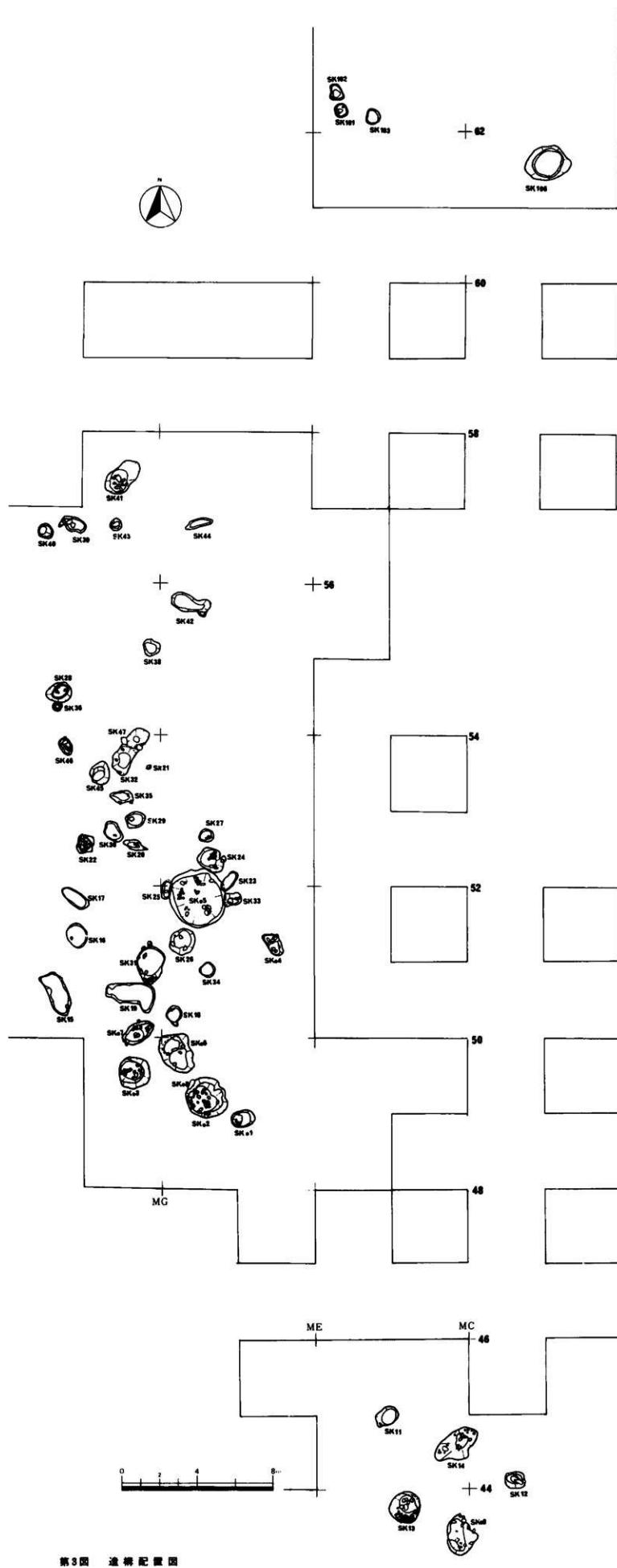
7月9日から第Ⅱ層の掘り下げにはいり、LA45、MF55等の第Ⅲ層中から多量の土器を確認した。16日からは第Ⅱ層中の土器を実測、写真撮影した後、取り上げて第Ⅲ層上面で精査し、遺構の確認に努めたところ、追跡らしきものは検出されたが、プランが明確でなかったため第Ⅲ層の掘り下げにはいった。その結果MF49付近で3つの土坑らしきものが確認された。その後はさらに北の地域を掘り下げてそれぞれSK01～遺構番号を付した（この区域をⅡ区とした）。

7月24日からは遅れていた遺跡南側（Ⅲ区）の掘り下げを行い5基の土坑を確認し、SK09～14（SK10は精査したところ土坑でないことが判明したため欠番とした）とした。

7月30日にⅠ区のSK05付近を掘り下げ、SK05を中心として、多数の土坑を検出した。それぞれ土坑を半蔵し、断面図を実測した後、すべて掘り下げた。

8月6日に遺跡北側（1区）の拡張および掘り下げを行い、土坑を4基確認し、実測その他を行った。

11日に残るⅡ区北側の土坑の実測及び遺跡全体の写真撮影を行い、片荷沢1遺跡の発掘調査を終了した。



第3圖 造橋配置圖

第4章 調査の記録

第1節 遺構と遺物

1、遺構について

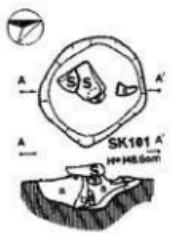
片符沢遺跡Iにて検出された遺構は土塙51基 埋甕1基である。いずれの遺構も第Ⅲ層上面にて検出されるもののプランは極めて不明確だったので、この層を掘り下げ第Ⅳ層上面で平面観察を行った。また、第Ⅱ層中からは縄文時代後期前～中葉の遺物が多量に出土し、ある程度のまとまりをもって出土した箇所も多かった。土塙とその上面に位置する石及び土器の関連について考察を加えてみることとする。（付図1～3）

遺跡全体において、第Ⅱ層中から出土する土器のはほとんどは、こぶし大～人頭大の疊を伴って棄てられた状態で出土した。特にⅢ区においては疊と疊の間に土器片が散在している傾向があつた。土器と疊はほぼ同一レベルであるが、疊の方がやや高いレベルにある。土塙とその上面の疊との関係は、数個の疊が配されているものもあるものの、顕著な例はあまりない。わずかにSK31・34に土塙上面に疊が集中する傾向がみられるのみである。土塙とその上面の土器との関係についても同様な事が言え、SK07・26・30・34の上部に土器が集中して存在するが、その他はむしろ土塙の上面の周囲に土器が集中してある傾向が強い。概していと、土塙の上面には土器・疊ともにはとんどなく、その周囲に土器と疊がほぼ同一レベルで混在している傾向が強い。

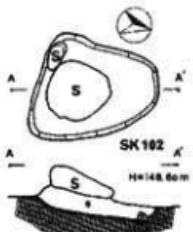
土塙は形態的にいくつかの違うタイプのものがあるので、これを次のタイプ別に分類した。後述する土塙の記述中の“分類”はこのことをさす。

第1に、平面形によりA～楕円形または不正楕円形、B～ほぼ円形の2種に分けた。第2に、断面形及び規模により1～深いもの、2～浅い小形のもの、3～浅い中形のもの、4～深い大形のものの4種に分けた。第3に、埋土中及び底面にa～石のあるもの、b～石のないもの、c～粘土をもつものの3種に分けた。以上3種の記号及び数字の組み合わせによって分類を試みた。その結果を個数でみると、A1a-3、A1b-1、A2a-7、A3a-12、A3b-2、A4a-6、A4b-1、B1a-5、B1c-1、B2a-7、B2b-2、B3a-1、B3b-1、B4a-1となり、概していと、Aタイプのものは1～2mの長径をもち深いものが多く、Bタイプのものは中形で深いものと小形で浅いものが多い。これらの土塙の中でもSK05はまったくタイプの異なる土塙である。SK03の粘質土の混入も変わったものといえよう。

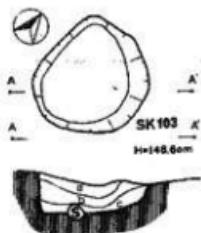
以下、それぞれの土塙について述べてみる。



a 赤黒色 (5YR1/2)	粘土質。木炭若干あり。
b 灰褐色 (7.5YR2/5)	粘質。少量砂を混入。
c 褐色 (7.5YR3/4)	粘土質。



a 灰褐色 (7.5YR3/4)	
------------------------	--



a 黒褐色 (7.5YR1/3)	粘土質。
b 黒褐色 (7.5YR1/3)	木炭まじり。
c 灰褐色 (7.5YR1/4)	粘土。

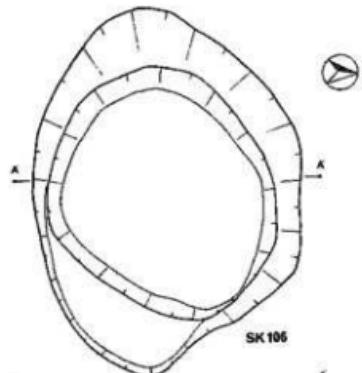


第4図 SK 101-102-103 土壌

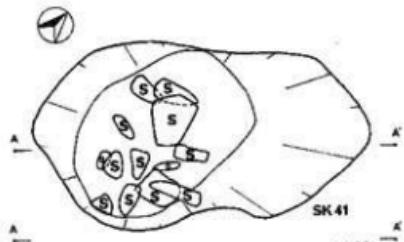
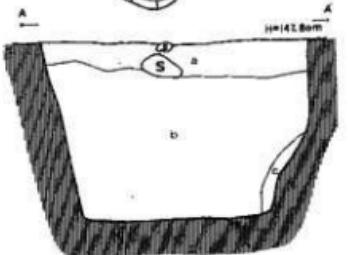
第101号 土塁		検出地点	I区 MD62	主軸方位	円形
法量	長軸 0.70 m. 短軸 0.64 m. 最深の深さ 0.22 m	分類	B2a タイプ		
形態	ほぼ円形を呈し、内部や上部に10~25cmの跡をもつU字状の浅い小土塁である。				
遺物出土状態	土器片が一片のみ出土した。				
遺物	P.79 第54図13に示される土器が出土した。				
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第4図	図版番号	
備考					

第102号 土塁		検出地点	I区 MD62	主軸方位	N15°W
法量	長軸 0.82 m. 短軸 0.56 m. 最深の深さ 0.12 m	分類	A2a タイプ		
形態	中央部上面に径40cmの石を持つ、上縁が広がる浅い小土塁である。				
遺物出土状態	遺物は出土しなかった。				
遺物					
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第4図	図版番号	
備考					

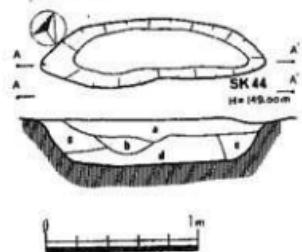
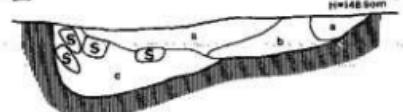
第103号 土塁		検出地点	I区 MD62	主軸方位	円形
法量	長軸 0.77 m. 短軸 0.75 m. 最深の深さ 0.28 m	分類	B2a タイプ		
形態	ほぼ円形を呈し、上縁が広がる浅い小土塁である。				
遺物出土状態	遺物は出土しなかった。				
遺物					
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第4図	図版番号	
備考					



a 黒褐色 (2.5Y 3/1)	酸化鉄の多い筋が多い、炭化物・土器片も多い。こぶし大から半頃大の河原石もある。柔かい。
b 黒褐色 (7.5Y 3/1)	柔かく粘性がある。ブロック状にオリーブ灰の粘質土がはいる。炭化物・土器片とも多い。
c オリーブ灰色 (10Y5/2)	オリーブ灰の独立したところ。



a 黒褐色 (10YR3/2)	ミサバサ。褐鉄鉱粒、炭化物、遺物を含む。
b 暗褐色 (10YR3/3)	褐鉄鉱粒を多量に含む。炭化物も含む。遺物はaより少ない。
c 黒褐色 (2.5YR3/1)	粘性あり。均質。



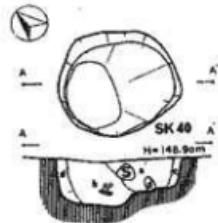
a 黒褐色 (10YR2/1)	褐鉄鉱粒、炭化物、遺物を含む。小礫を含む。
b 黒褐色 (10YR2/1)	不純物を含まない、ベタベタしている。(粘性あり)小礫を含む。
c 褐色 (10YR4/6)	地山。砂質。小礫を含む。
d 灰色 (5YR4/1)	地山。砂層。

第5図 SK 106-41-44 土壌

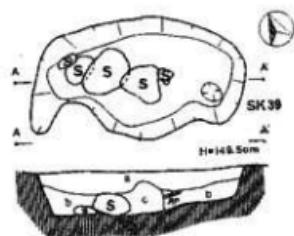
第106号 土塁		検出地点	I区 MA61	主軸方位	円形
法量	長軸 2.42 m, 短軸 1.75 m, 最深の深さ 1.17 m	分類	B 1a タイプ		
形態	不整橢円形を呈し、直角に近く掘り込まれた深さのある土塁である。				
遺物出土状況	遺物出土量は中間である（多少の判断は本遺跡における相対的評価に基づき、以下の土塁についても同様である。）				
遺物	P. 79 第54図1～12に示される土器が出土した。				
時期	縄文時代後期前葉と思われる。	挿図番号	第5図	図版番号	
備考	第54図10・11に示した網代痕を持つ土器底部が出土した。また12に示した耳栓も出土した。				

第41号 土塁		検出地点	II区 MG57	主軸方位	N 1° E
法量	長軸 2.21 m, 短軸 1.23 m, 最深の深さ 0.49 m	分類	A 4a タイプ		
形態	下面は上面より主軸が偏東しており、北東側の上縁がゆるく広がる。				
遺物出土状況	遺物出土量は中間的である。遺物はa・b層から出土するが、b層中に多く含まれている。遺物はまとまりなく、土塙埋土の上半分から出土した。				
遺物	P. 76 第51図に示される土器と、P. 95第70図4に示される凹石が出土した。				
時期	縄文時代後期前～中葉と思われる。	挿図番号	第5図	図版番号	図版5
備考	第51図11に示した網代痕を持つ土器が出土した。				

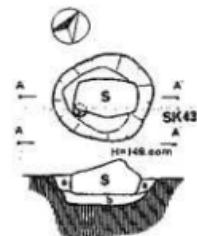
第44号 土塁		検出地点	II区 MF56	主軸方位	N 75° E
法量	長軸 1.49 m, 短軸 0.42 m, 最深の深さ 0.30 m	分類	A 3b タイプ		
形態	上縁が広がる不整長橢円形を呈する。				
遺物出土状況	遺物は出土しなかった。				
遺物					
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第5図	図版番号	図版6
備考					



a 褐 色 (10YR3/2)	砂質で固い。炭化物褐鐵鉱粒、遺物を含む。
b 黒 色 (10YR2/2)	粘質で柔かい。炭化物褐鐵鉱粒、遺物を含む。
c に赤い黄褐色 (10YR5/4)	塊山のブロック。粘性が強い。遺物は含まれない。
d 黄 灰 色 (2.5YR5/1)	粘土、不純物を含まず均質。



a 黑 色 (10YR3/2)	ハサハサ。炭化物遺物、褐鐵鉄鉱粒を含む。
b 暗 褐 色 (10YR3/3)	aより粘性あり。遺物、炭化物、褐鐵鉄鉱粒を含む。
c 明オリーブ灰 (5GY5/1)	均質な粘土。特殊な上で、ブロック状にはいる。不純物なし。(SK06(b)に同様な物が見られる)



a 黑 色 (10YR3/2)	ハサハサ。遺物が多い。炭化物、褐鐵鉄鉱粒を含む。
b 暗 褐 色 (10YR3/3)	aより粘性あり。炭化物、褐鐵鉄鉱粒を含む。

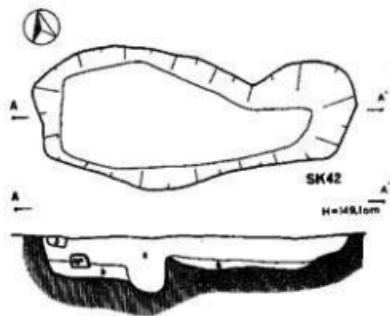


第6図 SK 40・39・43 土塚

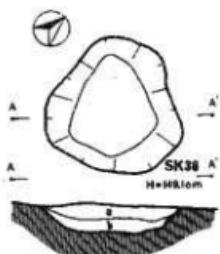
第40号 土塙		検出地点	II区 MH56	主軸方位	円形
法量	長軸 0.77m, 短軸 0.71m, 最深の深さ 0.32m	分類	B 2a タイプ		
形態	不整橢円形。断面形はU字状を呈する。西方がやや深くなっている。				
遺物出土状況	遺物出土量は少ない方に偏する。ほとんどの遺物はa、b層のやや底面よりからまとまりなく出土した。				
遺物	P.74 第48図5~8に示される土器が出土した。				
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。		挿図番号	第6図	図版番号 図版5
備考					

第39号 土塙		検出地点	II区 MH56	主軸方位	N72°W
法量	長軸 1.35m, 短軸 0.81m, 最深の深さ 0.28m	分類	A 3a タイプ		
形態	不整橢円形を呈し、底面には蹠がはいる。断面形は逆台形を呈する。				
遺物出土状況	遺物は土器が数片出土したのみである。いずれの遺物もa・b層からまとまりなく出土した。				
遺物	P.74 第48図4に示される土器が出土した。				
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。		挿図番号	第6図	図版番号 図版5
備考					

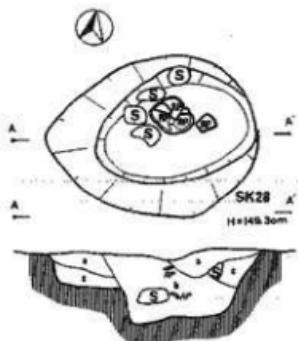
第43号 土塙		検出地点	II区 MG56	主軸方位	円形
法量	長軸 0.61m, 短軸 0.59m, 最深の深さ 0.19m	分類	B 2a タイプ		
形態	ほぼ円形を呈し、土塙中央上部に39×26cm、厚さ24cmの石がある小土塙である。				
遺物出土状況	遺物出土量は少ない方である。ほとんどの土器は中央の石と同レベルのa層からまとまりなく出土した。				
遺物	P.74 第49図1~6に示される土器が出土した。				
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。		挿図番号	第6図	図版番号 図版6
備考					



a 黒褐色 (10YR3/2)	ベサバサ。褐鐵鉱粒、炭化物を含む。遺物あり。
b 暗褐色 (10YR3/3)	褐鐵鉱粒を多量に含む。遺物あり。種が混入。



a 黒褐色 (10YR2/3)	炭化物を含む。褐鐵鉱粒を含まない。
b 暗褐色 (10YR3/3)	褐鐵鉱粒を多量に含む。



a 黒褐色 (10YR3/2)	炭化物、褐鐵鉱粒、遺物を含む。粘性あり。
b 黒褐色 (10YR2/1)	均質で、不純物はほとんど含まれない。遺物が多い。下部にいくと砂利が多くなり砂利を含む。
c 褐色 (10YR4/4)	地山ブロック。遺物は含まれない。粘性強い。

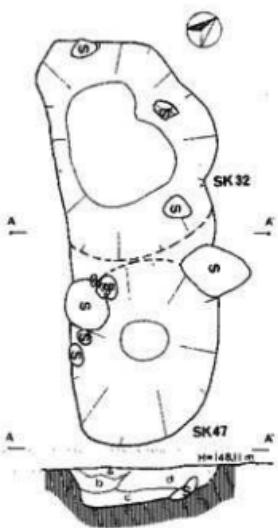
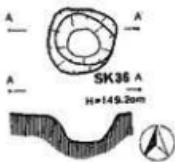


第7図 SK 42・38・28 土壌

第42号 土塁		検出地点	II区 MF55	主軸方位	N68°E
法量	長軸 2.04 m, 短軸 0.89 m, 最深の深さ 0.37 m	分類	A 4a タイプ		
形態	不整橢円形を呈する。土塁中央部に30cm程の掘り込みが見られる。				
遺物出土状況	遺物出土量は、やや多い方に属する。円盤状土製品も1個出土している。いずれもaとb層の中間付近からまとまりなく出土した。				
遺物	P.77 第52図に示される土器が出土した。				
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第7図	図版番号	図版6
備考	第52図12に示した網代痕を持つ土器底部が出土した。				

第38号 土塁		検出地点	II区 MG55	主軸方位	円形
法量	長軸 0.90 m, 短軸 0.86 m, 最深の深さ 0.20 m	分類	B 2a タイプ		
形態	ほぼ円形を呈する。断面形は鍋底状である。				
遺物出土状況	遺物出土量は少ない方である。遺物はb層中からまとまりなく出土した。				
遺物	P.75 第50図に示される土器が出土した。				
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第7図	図版番号	図版6
備考					

第28号 土塁		検出地点	II区 MH54	主軸方位	N48°E
法量	長軸 1.05 m, 短軸 0.74 m, 最深の深さ 0.48 m	分類	A 3a タイプ		
形態	不整橢円形を呈し、断面形は鍋底状である。				
遺物出土状況	第43図1に示した土器が七塚のはぼ中央部のb層中から棄てられたような状態で出土した。他の遺物はa・b層から出土したがほとんどがb層中である。				
遺物	P.69-70第43-44図に示される土器片が出土した。第43図17に示した舟形土器が出土している。				
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第7図	図版番号	図版7
備考	SK28の西側に浅い土塁が重複している。これをSK28'とする。SK28'は長軸 1.38 m、短軸 1.09 m、深さ 0.24 m、主軸方位 N87°E の、浅い鍋底状の土塁でSK28よりも古いものである。遺物は出土しなかった。				



a 黒色 (7.5YR1/2)	
b 黒色 (7.5YR1/2)	
c 黒色 (10YR1/2)	
d 黒褐色 (10YR1/2)	土器を多く含む。やや黒味が強い。

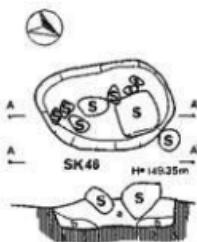


第8図 SK 36-32-47 土域

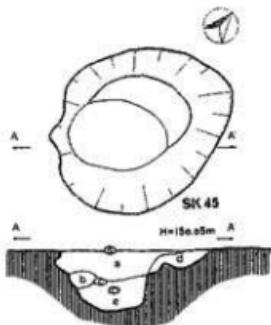
第36号 土塁		検出地点	II区 MH54	主軸方位	円形
法量	長軸 0.48 m. 短軸 0.42 m. 最深の深さ 0.19 m	分類	B 2b タイプ		
形態	ほぼ円形を呈する浅い小土塁である。				
遺物出土状況	遺物は1片が出土したのみであった。				
遺物	P. 74 第48図1に示される土器が出土した。				
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第8図	図版番号	
備考					

第32号 土塁		検出地点	II区 MG53	主軸方位	N 6° E
法量	長軸 1.51 m. 短軸 1.08 m. 最深の深さ 0.26 m	分類	A 3a タイプ		
形態	不整橢円形を呈し、上縁の広がった土塁である。				
遺物出土状況	遺物は数片が出土したのみであった。ほとんどの遺物は上面のd層中からまとまりなく出土した。				
遺物	P. 71 第45図6・7に示される土器が出土した。				
時期	縄文時代後期中葉のものと思われる。	挿図番号	第8図	図版番号	図版7
備考	東南のSK47と一部重なっているが、土の色が不明確なため新旧の判断はつかない。				

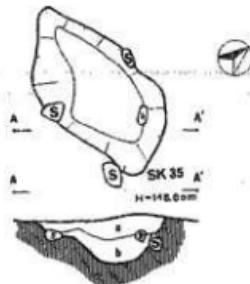
第47号 土塁		検出地点	II区 MG53	主軸方位	N 42° E
法量	長軸 1.22 m. 短軸 0.92 m. 最深の深さ 0.37 m	分類	A 3a タイプ		
形態	不整橢円形を呈し、上縁が広がる土塁である。				
遺物出土状況	遺物出土量は少ない方である。ほとんどの土器は上半分から出土した。				
遺物	P. 78 第53図に示される土器が出土した。				
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第8図	図版番号	
備考	SK32と重なっているが既述したように新旧の判断はつかなかった。第53図6・7に示した土器はSK23出土のものと酷似するが接合はしなかった。				



a 黒褐色 (7.5YR2/2)	褐鉄鉱少量含む。遺物を含む。しまりなし。
b 褐褐色 (7.5YR4/3)	褐鉄鉱、やや多量に含む。粘性ややあり。



b 黒褐色 (7.5YR2/1)	炭化物含む。褐鉄鉱小量含む。 殻が無い。しまりなし。 遺物、珪を含む。
b 黒褐色 (10YR2/2)	褐鉄鉱含む。粘性あり。小礫を少量含む。
c 暗褐色 (10YR3/4)	均質。粘質あり。
c' 暗褐色 (10YR3/4)	均質。粘質あり。
d 黒褐色 (10YR3/2)	褐鉄鉱、多量に含む。しまりよし。
e 黒褐色 (10YR2/1)	粘性あり。小礫を少許含む。しまりなし。



a 黒褐色 (10YR3/2)	粒子が粗く砂っぽい。小礫を含む。炭化物を含む。
b オリーブ黒 (7.5Y 3/1)	a に比して柔かい。粘質

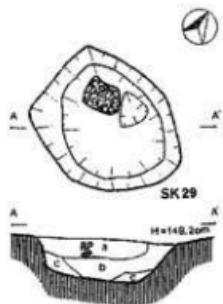


第9図 SK 46・45・35 土壌

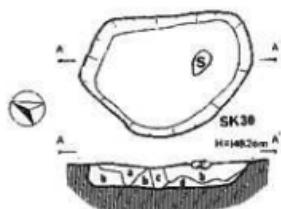
第46号 土塁		検出地点	II区 MH53	主軸方位	N30°W
法量	長軸 0.88m, 短軸 0.61m, 最深の深さ 0.18m	分類	A 2a タイプ		
形態	不整椭円形を呈し、上半に礫を混入する小土塁である。				
遺物出土状況	遺物は出土しなかった。				
遺物					
時期			挿図番号	第9図	図版番号
備考					

第45号 土塁		検出地点	II区 MG53	主軸方位	N23°E
法量	長軸 1.23m, 短軸 1.01m, 最深の深さ 0.39m	分類	A 1b タイプ		
形態	不整椭円形を呈し、南側が深く掘り込まれている土塁である。				
遺物出土状況	遺物は出土しなかった。				
遺物					
時期			挿図番号	第9図	図版番号
備考					

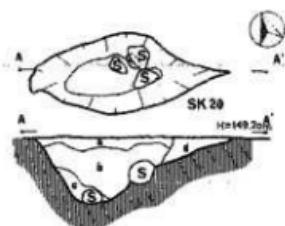
第35号 土塁		検出地点	II区 MG53	主軸方位	N83°W
法量	長軸 1.25m, 短軸 0.64m, 最深の深さ 0.32m	分類	A 3a タイプ		
形態	不整長椭円形を呈し、下面が比較的小さい土塁である。				
遺物出土状況	遺物出土量は中間的である。いずれの土器もa層中からまとまりなく出土した。				
遺物	P.73 第47図に示される土器が出土した。				
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第9図	図版番号	図版8
備考					



a 黒褐色 (10YR3/2)	遺物包含層。赤色粒子を多量に含む。
b 黒褐色 (10YR3/1)	遺物包含層。礫、炭化物微粒子を含む。
c 黒褐色 (10YR2/2)	bと地山の中間層。粘性が強い。



a 黒褐色 (10YR2/1)	炭化物を含む。遺物包含層。
b 黒褐色 (10YR3/2)	炭化物微粒子を少々含む。
c にじみ黄褐色 (10YR4/3)	粘性が強い。黄褐色微粒子を含む。
d 灰黃褐色 (10YR4/2)	しまり良い。細かい粒子状。



a 黒褐色 (10YR2/2)	赤色粒子を含む。
b 黒褐色 (10YR2/1)	遺物包含層。炭化物粒子を含む。
c 黒褐色 (2.5Y3/2)	地山との中間層。礫が多い。
d 黒褐色 (10YR2/3)	赤色粒子を大量に含む。炭化物微粒子を含む。

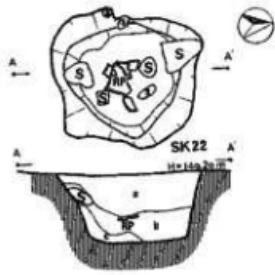


第10図 SK 29・30・20 土壌

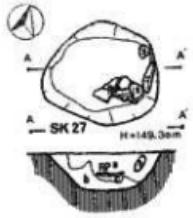
第29号 土 坡		検出地点	II区 MG52	主軸方位	N65°E
法量	長軸 0.98m, 短軸 0.83m, 最深の深さ 0.31m	分類	A 2 a タイプ		
形態	平面形は不整橢円形を呈し、上縁が広がる土坡である。				
遺物出土状況	遺物出土量は少ない方に属する。ほとんどの遺物はb層からまとまりなく出土した。				
遺物	P.71 第45図1~3に示される土器が出土した。				
時期	繩文時代後期中葉のものと思われる。	挿図番号	第10図	図版番号	図版8
備考	土坡の中央や北西寄りの、遺構検出面から約20cm低いレベルで朱喰の石があった。石は長さ26cm、幅18cm、厚さ10cm程である。第29図3に示した併の茎状の痕跡をもつ土器底部が出土した。				

第30号 土 坡		検出地点	II区 MG52	主軸方位	N35°W
法量	長軸 1.14m, 短軸 0.78m, 最深の深さ 0.15m	分類	A 3 a タイプ		
形態	不整橢円形を呈し、上縁が広がる土坡である。				
遺物出土状況	遺物は数片が出土したにすぎなかった。ほとんどの遺物はa層中からまとまりなく出土した。				
遺物	P.71 第45図4・5に示される土器が出土した。				
時期	繩文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第10図	図版番号	図版8
備考					

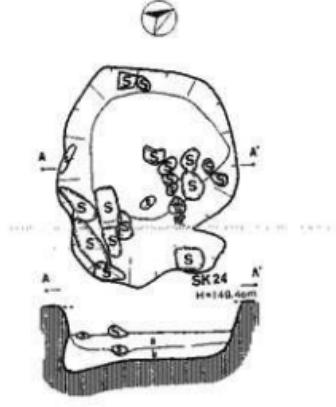
第20号 土 坡		検出地点	II区 MG52	主軸方位	N77°W
法量	長軸 1.29m, 短軸 0.51m, 最深の深さ 0.42m	分類	A 3 b タイプ		
形態	東側に長く、円弧を2つ重ねたような形状を呈する。				
遺物出土状況	遺物出土量は少ない方に属する。ほとんどの遺物はb層中からまとまりなく出土した。				
遺物	P.62 第36図14~16に示される土器が出土した。				
時期	繩文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第10図	図版番号	図版
備考					



^a 黒褐色 (10YR2/2)	遺物包含層。炭化物粒子、赤色粒子を含む。
^b 黒褐色 (10YR1.7/1)	遺物包含層。炭化物粒子、赤色粒子を含む。 a層と類似。
^c 黒褐色 (10YR3/1)	しと地山の中間層。



^a 黒褐色 (7.5YR2/2)	赤色粒子を帶状に大量に含む。遺物包含層、小礫を含む。
^b 黒褐色 (10YR2/3)	赤色粒子を含む。小礫を含む。
^c にじい黄褐色 (10YR4/3)	ブロック状に混入。砂状。



^a 黒褐色 (10YR2/2)	粘性ややあり。粒子はやや荒く、赤褐色の粒子が含まれる。
^b 黒褐色 (10YR3/2)	^a より粘性があり。粒子も細かい。赤褐色の粒子が含まれる。

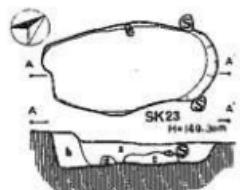


第11図 SK 22-27・24 土塚

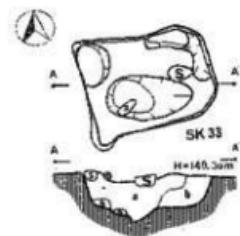
第22号 土塙		検出地点	II区 MG52	主軸方位	円形
法量	長軸 0.91m, 短軸 0.86m, 最深の深さ 0.45m	分類	B 2 a タイプ		
形態	ほぼ円形を呈するやや深さのある土塙である。				
遺物出土状況	遺物出土数は中間的である。ほとんどの土器はa・b層から出土したが、特にb層において多かった。				
遺物	P. 64 第38図1に示される土器と、P. 95第70図2に示される搔器が出土した。				
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第11図	図版番号	図版9
備考					

第27号 土塙		検出地点	II区 MF52	主軸方位	N62° E
法量	長軸 0.76m, 短軸 0.69m, 最深の深さ 0.24m	分類	A 2 a タイプ		
形態	ゆるやかな不整橢円形を呈する小土塙である。				
遺物出土状況	遺物出土量は多い方に属する。第42図1に示される土器はa層中から底部を欠いてほぼ1個体分が押しつぶされたようになってあった。その他の土器もa層中から出土した。				
遺物	P. 68 第42図に示される土器が出土した。				
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第11図	図版番号	図版9
備考	図版17が遺構内の土器出土状態である。第42図1に示した土器は内面黒～茶褐色、外面茶褐色を呈する焼成良好な深鉢形土器である。口縁部に2本の沈線によって区画された幅3cm程の間を磨消してある。				

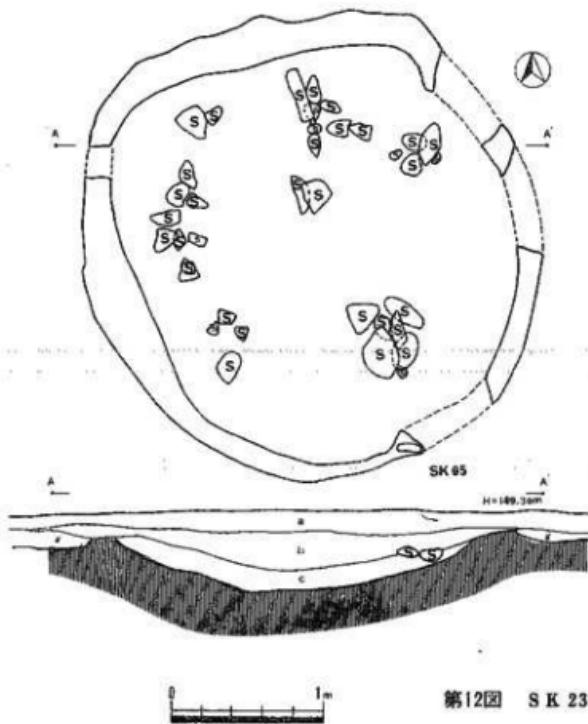
第24号 土塙		検出地点	II区 MF52	主軸方位	円形
法量	長軸 1.43m, 短軸 1.14m, 最深の深さ 0.44m	分類	B 1 a タイプ		
形態	下面はほぼ円形を呈し、南東側はややえぐれている土塙である。				
遺物出土状況	遺物出土量は中間的である。ほとんどの遺物はa層中からまとまりなく出土した。				
遺物	P. 66 第40図1～11に示される土器が出土した。				
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第11図	図版番号	図版9
備考					



a 黒褐色 (10YR3/2)	粘性ややあり。粒子の中には赤褐色のものも含まれている。
b 黒褐色 (10YR2/2)	aに比べ粒子がやや粗い。固しく、赤褐色の粒子を含む。
c 赤褐色 (10YR4/3)	a, bに比べ、粒子も細かく、粘性もある。
d 暗褐色 (10YR3/4)	a, b, cより、さらに粒子が細かく粘性がある。



a 黒褐色 (7.5YR2/2)	粒子はやや粗く、小石や、赤褐色の粒子を含む。粘性がある。
b 深褐色 (7.5YR4/3)	aに比べ、粒径は細かいが、固しく赤褐色の粒子を含んでいる。aより粘性がある。



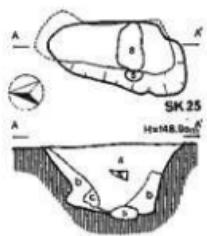
a 黒褐色 (10YR2/3)	種類、本炭を多量に含む。
b 黒褐色 (10YR1/3)	木炭を含む、鉄質。
c 黒褐色 (10YR2/2)	木炭を含む、鉄分多し。

第12図 S K 23-33-05 土壌

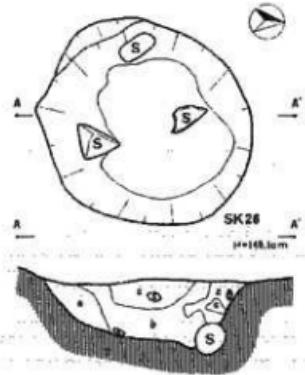
第23号 土 塚		検出地点	II区 MF52	主軸方位	N38°E
法量	長軸 1.09m, 短軸 0.56m, 最深の深さ 0.23m	分類	A 3a タイプ		
形態	長楕円形を呈し、上縁が広がる土塚である。				
遺物出土状況	遺物出土量は少ない方に属する。ほとんどの遺物はa層中からまとまりなく出土した。				
遺物	P. 65 第39図に示される土器が出土している。				
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第12図	図版番号	図版10
備考	SK25, 33とともにSK05を切っており、これらの土塚はSK05より新しいことがわかる。第39図5~7の土器はかなり厚手の土器で外面は無文で、内面に0.3~0.5cmの沈線を施している。SK47にも同種のものが出土しているが、接合できなかった。				

第33号 土 塚		検出地点	II区 MF51	主軸方位	N82°W
法量	長軸 0.84m, 短軸 0.52m, 最深の深さ 0.32m	分類	A 2a タイプ		
形態	方形に近い平面形を呈し、底面はかなり凹凸がある。				
遺物出土状況	遺物出土量は少ない方に属する。ほとんどの土器はa層中からまとまりなく出土した。				
遺物	P. 71 第45図8~16に示される土器が出土した。				
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第12図	図版番号	図版10
備考	SK23・25とともにSK05を切っている。				

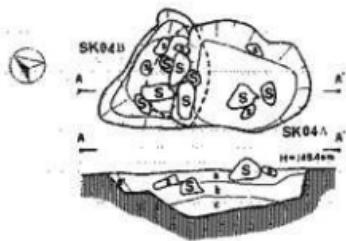
第05号 土 塚		検出地点	II区 MF51	主軸方位	円形
法量	長軸 3.05m, 短軸 2.92m, 最深の深さ 0.51m	分類	B 4a タイプ		
形態	ほぼ円形を呈し、環状に黄褐色土が存在する。断面形はゆるやかな鍋底状を呈する。				
遺物出土状況	遺物出土量は多い方に属する。ほとんどの土器がb層中からまとまりなく出土した。				
遺物	P. 53 第25図に示される土器と、P. 94第69図4に示される凹石が出土した。				
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第12図	図版番号	図版10
備考	SK23・25・33によって切られており、これらの土塚より古いものである。また黄褐色土が環状になる変わった形態を持っており、他の土塚と違う役割を持っていたものであろう。第25図16~19に示した網代痕等を持つ土器底部、20に示した円盤状土製品が出土した。				



a 黒褐色 (10YR3/2)	木炭、遺物を含む。しまりなし。若干より柔かい。褐鉄鉱多し。礫が多くはいり込む。
b 黒褐色 (10YR2/2)	木炭、遺物、褐鉄鉱を若干含む。若干の礫を含む。
c 明褐色 (10YR6/6)	地山ブロック。粘性あり。均質



a 黒褐色 (10YR2/2)	粘性なし。ハサバサ。木炭粒、遺物を含む。若干の褐鉄鉱を含む。
b 褐褐色 (10YR4/4)	粘性中。硬い。木炭粒、遺物を含む。褐鉄鉱を多く含み、小礫がはいり込む。
c 明褐色 (10YR6/6)	粘性あり。地山ブロック。均質



a 黒褐色 (7.5YR3/2)	赤色粒子含む。しまり良し。標準層位の第Ⅱ層。
a' 黒褐色 (7.5YR3/2)	a層に赤色粒子を多量に含む層。
b 黒褐色 (10YR3/2)	赤色粒子含む。小礫多し。
c 黒褐色 (10YR2/2)	しまり悪し。炭化物微粒子含む。遺物包含層。

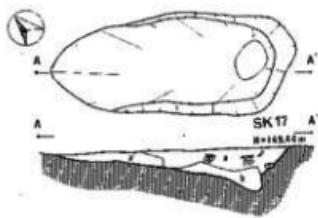


第13図 SK 25・26・04A・04B 土坡

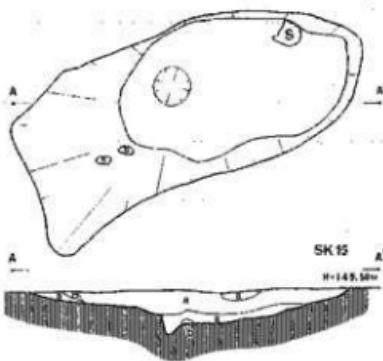
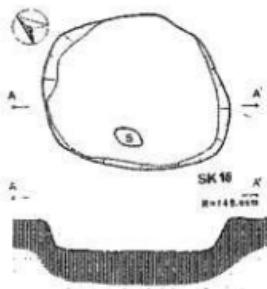
第25号 土塁		検出地点	II区 MF51	主軸方位	N 0°
法量	長軸 0.88 m, 短軸 0.48 m, 最深の深さ 0.46 m	分類	A 2a タイプ		
形態	不整橢円形を呈し北と東側がえぐれている土塁である。				
遺物出土状況	遺物出土量は少ない方である。ほとんどの遺物はa・b層中からまとまりなく出土した。				
遺物	P. 66 第40図12~16に示される土器が出土した。				
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第13図	図版番号	図版11
備考	S K23・33とともにSK 05 を切っている。				

第26号 土塁		検出地点	II区 MF51	主軸方位	円形
法量	長軸 1.44 m, 短軸 1.26 m, 最深の深さ 0.45 m	分類	B 3a タイプ		
形態	ほぼ円形を呈し、深さのある土塁である。				
遺物出土状況	遺物出土量は中間的である。ほとんどの遺物はa・b層からまとまりなく出土した。				
遺物	P. 67 第41図に示された土器が出土した。				
時期	縄文時代後期前葉と思われる。	挿図番号	第13図	図版番号	
備考	第41図13・14に示した網代痕を持つ土器底部が出土した。				

第04号4・B 土塁		検出地点	II区 ME51	主軸方位	(A) N23°W (B) N69°E
法量	A, 長軸 1.03 m, 短軸 0.69 m, 最深の深さ 0.32 m	分類	(A) A 3b タイプ (B) A 2a タイプ		
形態	AはBを切っており、A・Bともに不整橢円形を呈する。				
遺物出土状況	遺物は出土しなかった。				
遺物					
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第13図	図版番号	図版11
備考	AはBより新しい。SK04Bは長軸80cm、短軸60cm、深さ15~20cmの土塁である。				



a 黒褐色 (10YR2/1)	粘性がややあり。粒子はやや荒い。赤褐色の土を混入。
a' 黒褐色 (10YR3/1)	a'に比べ、粘性があり。粒子が細かい。
b 黒褐色 (7.5YR2/1)	a, a'に比べ粘性がかなりあり。粒子も細かい。



a 黒褐色 (7.5YR2/1)	粘性。ややあり。粒子は細かい。遺物を包含している。
a' 黒褐色 (10YR2/2)	a'に比べ、粘性あり。2~5mmの小石が粒子の中に混じっている。
b に少し黄褐色 (10YR3/3)	a, a'より、やや粒子が荒い。粘性あり。

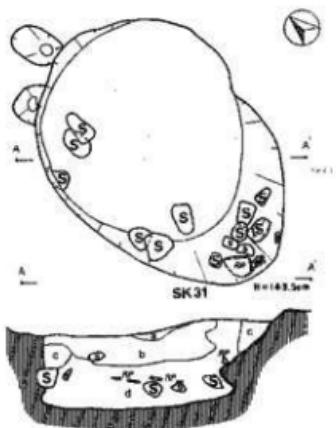


第14図 SK 17-16-15 土坡

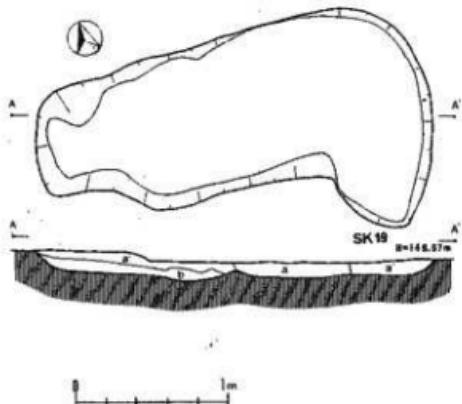
第17号 土塙		検出地点	II区 MG51	主軸方位	N55°W
法量	長軸 1.59m, 短軸 0.68m, 最深の深さ 0.27m	分類	A 3a タイプ		
形態	北西側がゆるく広がる土塙で、南東部には径21cm、深さ12cmの落ちこみがある。				
遺物出土状況	遺物出土量は少ない方に属する。ほとんどの遺物はa層からまとまりなく出土した。				
遺物	P.63 第37図に示される土器が出土した。				
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第14図	図版番号	図版11
備考					

第16号 土塙		検出地点	II区 MG51	主軸方位	円形
法量	長軸 1.19m, 短軸 1.01m, 最深の深さ 0.22m	分類	B 3b タイプ		
形態	ほぼ円形で、上縁が広がる土塙である。				
遺物出土状況	遺物出土量は少ない方に属する。遺物は底面付近からまとまりなく出土した。				
遺物	P.62 第36図1・2に示される土器が出土している。				
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第14図	図版番号	図版11
備考					

第15号 土塙		検出地点	II区 MH50	主軸方位	N26°W
法量	長軸 2.34m, 短軸 0.98m, 最深の深さ 0.29m	分類	A 4a タイプ		
形態	上縁がゆるやかに広がる大土塙である。				
遺物出土状況	遺物出土量は中間に属する。ほとんどの遺物はa層中からまとまりなく出土した。				
遺物	P.61 第35図に示される土器が出土している。				
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第14図	図版番号	図版12
備考	土塙中央部に径24cm、深さ14cmの落ち込みを持つが、その点でSK17と似た形態を持っている。				



a 黒褐色 (10YR3/2)	粘性あり。褐鐵鉱粒を含む。
b にじい黄褐色 (10YR5/4)	多量に地山のブロックを含む。褐鐵鉱粒を含む。無機物。
c 黒褐色 (10YR2/1)	均質。しまり。粘性あり。炭化物を多量に含む。褐鐵鉱粒を含む。
d 黒褐色 (10YR3/3)	砂質。しまりなし。遺物、炭化物、褐鐵鉱粒を多量に含む。砾を含む。



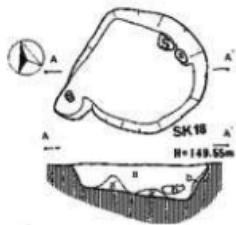
a 黒褐色 (10YR2/2)	粘性なし。粒子はやや大きい。遺物、小さな石を含んでいる。
a' 黒褐色 (10YR2/3)	a に比べ、粘性があり。粒子は細かい。遺物は含まれていないが、炭化物を含んでいる。
b にじい黒褐色 (5YR4/3)	a, a' に比べ粘性があり。粒子は細かい。遺物、炭化物は含まれしていない。

第15図 SK 34・31・19 土壌

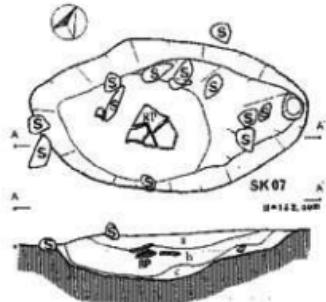
第34号 土塁		検出地点	II区 MG50	主軸方位	円形
法量	長軸 0.75 m, 短軸 0.72 m, 最深の深さ 0.11 m	分類	B 2 b タイプ		
形態	上縁が広がる浅い小土塁である。底面はほぼ平らである。				
遺物出土状況	遺物は少量まとまりなく出土した。				
遺物					
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第15図	図版番号	図版12
備考					

第31号 土塁		検出地点	II区 MG50	主軸方位	円形
法量	長軸 1.96 m, 短軸 1.38 m, 最深の深さ 0.65 m	分類	B 1 a タイプ		
形態	北西側はほぼ直上、南東側が一度くびれてゆるやかに広がる土塁である。				
遺物出土状況	遺物は大量に出土した。いずれもd層の中央部付近からのものが多く、疊を伴なって出土した。				
遺物	P. 72第46図に示される土器が出土した。				
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第15図	図版番号	図版12
備考	第46図13は方形の土器である。色調は灰白～黄褐色を呈し、焼成は良好である。口縁部一辺 6.2 cm, 底辺 2.9 cm, 高さ 4.2 cm である。				

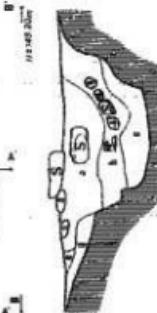
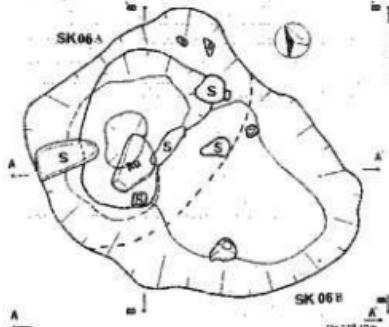
第19号 土塁		検出地点	II区 MG50	主軸方位	N88°W
法量	長軸 2.58 m, 短軸 1.01 m, 最深の深さ 0.12 m	分類	A 4 b タイプ		
形態	上縁が広がる浅い大土塁である。				
遺物出土状況	遺物出土量はやや少ない方である。遺物はいずれもa層中からまとまりなく出土した。				
遺物	P. 62 第36図7～10に示される土器が出土した。				
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第15図	図版番号	図版13
備考	第36図12に示した縦の葉状の痕跡を持つ土器底部が出土した。				



a 黒 色 (7.5YR2/1)	粘性あり。粒子は細かい。遺物を包含している。
a' 黒 暗 色 (10YR2/2)	aより粘性あり。粒子はaより細かい。
b 暗 紫 褐 色 (5YR2/3)	a'より粘性あり。粒子は、a、a'を比べてかなり細かい。



a 黒 色 (10YR2/1)	しより良し。炭化物を含む。赤色粒子を若干含む。
b 黒 暗 色 (10YR2/2)	しより悪し。a層より、やや多量の炭化物を含む。礫多く、遺物包含層。やや粘性あり。赤色粒子を若干含む。
c 風 暗 色 (10YR2/3)	最も粘性が強い。炭化物微粒子を少量含む。赤色粒子を若干含む。



a 暗 褐 色 (10YR3/3)	小礫を含む。砂質。まんべんなく遺物出土。
b 暗 褐 色 (10YR2/4)	柔かく不純物を含まない。まんべんなく遺物出土。
c 風 暗 色 (10YR2/3)	炭化物多し。小礫を多量に含む。シルト質腐殖質の影響大。まんべんなく遺物出土。
d 灰 黄 色 (10YR4/3)	風化層を多量に含む。遺物の急激な変遷を含むものとされる。
e 灰 黄 色 (10YR4/2)	炭化物、腐殖質を多量に含む。遺物含有。
f 明 オ ランジ 色 (2.5GY7/2)	均質な粘土層。しよりより弱い。腐殖質を含む。
g 暗 成 色 (10YR2/3)	均質で粘性が強い。不純物はほとんど含まれない。地山の流れ込みの可能性あり。
h 黄 褐 色 (10YR5/3)	柔かく不純物は少ない。地山がほり込んでいる。

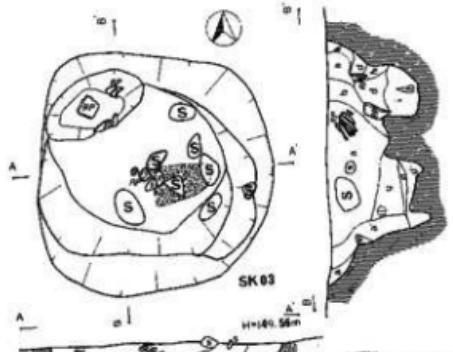
0 1m

第16図 SK 18-07-06 A-06 B・土壌

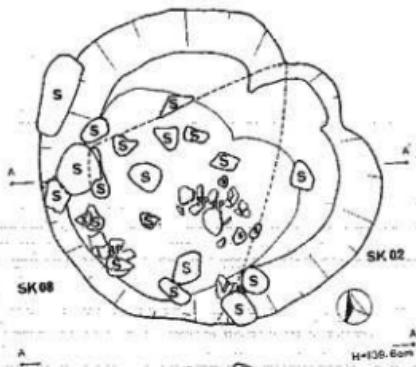
第18号 土 壴		検出地点	II区 MF50	主軸方位	円形
法量	長軸 0.91m, 短軸 0.86m, 最深の深さ 0.22m	分類	B 2a タイプ		
形態	ほぼ円形を呈し、上縁が広がる土壠である。				
遺物出土状況	遺物出土量は少ない方に属する。ほとんどの遺物はa層中からまとまりなく出土した。				
遺物	P. 62 第36図3~6に示される土器が出土した。				
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第16図	図版番号	図版
備考					

第07号 土 壴		検出地点	II区 MG50	主軸方位	N52°E
法量	長軸 1.72m, 短軸 0.98m, 最深の深さ 0.30m	分類	A 3a タイプ		
形態	平面形は不整長楕円形を呈し、断面はゆるやかな鍋底状を呈する。				
遺物出土状況	遺物出土量は中間的である。遺物はほとんどのものが、b層中から出土した。				
遺物	P. 56 第28図に示される土器が出土した。				
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第16図	図版番号	図版13
備考					

第06号 A B 土 壴		検出地点	II区 MF49	主軸方位	(A) N55°E (B) N15°W
法量	A長軸 1.73m, B長軸 1.50m, 短軸 1.20m, 1.44m, 最深の深さ 0.65m, 0.38m	分類	A・BともにA 1a タイプ		
形態	A・Bともに不整楕円形を呈し、Aは深さもかなりある。				
遺物出土状況	遺物はかなり大量に出土しているが、ほとんどがSK 06 Aから出土したものである。遺物はa~e層中より出土したが、a~c層中が特に多かった。				
遺物	P. 54~55 第26・27図に示される上器と、P. 第図5に示される磨製石斧が出土した。				
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第16図	図版番号	図版13
備考	SK 06 Aが06 Bを切っており、06 Aの方が新しい。第16図中のR Qは第69図5に示した磨製石斧で、SK 06 の遺構検出面とほぼ同レベルから出土している。他に第26図20~23に示した網代痕や笛の葉の痕跡を持つ土器も出土している。				

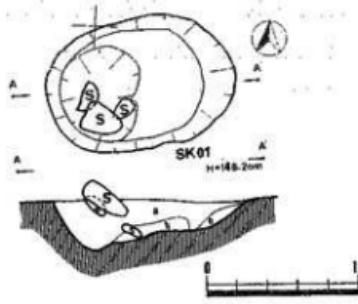


若い粘質土地盤は中央に侵入する。



a 黒褐色 (10YR2/2)	粘性なし。土砂を多量に含む。赤褐色土を含む。
a' 黒褐色 (10YR2/2)	地層より本色を多く含み、赤褐色土、土砂を含む。粒子は粗く、粘性はない。
b 黒褐色 (10YR2/2)	粘性なし。赤褐色土を含み、白い砂を少量含む。
c 黑褐色 (7.5YR2/2)	粒子が細かく強い粘性をもつ。赤褐色粘土を含む。
d 黑褐色 (10YR2/3)	粒子は細かいが、粘性は低い。白っぽい粘土風化を含む。
e 黑褐色 (10YR3/3)	より粒子は更に小さくなるが、粘性は出でてくる。赤褐色土、木炭を含む。
f 黑褐色 (7.5YR3/3)	やや粘性あるが、粒子は荒い。炭化物、赤褐色土を含む。
g 黑褐色 (10YR3/3)	粒子が荒く妙だ。粘性なし。炭化物を多量に含む。
h 黑褐色 (10YR3/2)	gに似ているが、やや色がうすく、土器片を含まない。
i 黑褐色 (10YR3/2)	土器片含む。粒子が荒く、やや粘性あり。赤褐色土を含む。
j 黑褐色 (10YR2/2)	粒子がやや粗かく、粘性なし。赤褐色土を含む。
k 黑褐色 (10YR2/2)	粒子が荒く粘性なし。赤褐色、黒褐色土を混入。
l 黒褐色 (7.5YR2/3)	地山のブロック。黒褐色土、赤褐色土がはり、裂している。
m 黑褐色 (7.5YR2/3)	粒子が荒く、粘性なし。砂粒の赤褐色粒子を多量に含む。

a 黑褐色 (7.5YR2/3)	粘が少ない。
a' 黑褐色 (7.5YR2/2)	塊状。
b 黑褐色 (7.5YR1/3)	木炭を含む。
c 黑褐色 (7.5YR2/4)	粘土。
d 黑褐色 (7.5YR2/2)	木炭、土器を多量に含む。
e 黑褐色 (7.5YR3/2)	
f 黑褐色 (7.5YR3/3)	砂質。



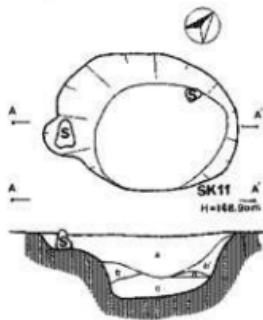
a 黑褐色 (10YR2/1)	炭化物粒子、赤色粒子を含む。小さい(2~3cm) 塊を含む。
b 黑褐色 (10YR2/2)	a層に隣し、しまっている。

第17図 SK 03-02-08-01 土壌

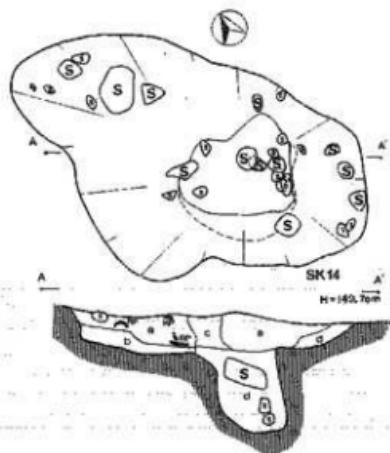
第03号 土塙		検出地点	II区 MG49	主軸方位	円形
法量	長軸 1.72m, 短軸 1.70m, 最深の深さ 0.61m	分類	B 1c タイプ		
形態	上縁がやや広がる深い土塙である。東側と北西側が深くなっている。				
遺物出土状況	遺物は多量に出土している。ほとんどがa層中から出土した。土偶も1個出土しているが、やはりa層のはば中央部から出土した。				
遺物	P. 51・52第23・24図に示される土器と、P. 94第69図3に示される凹石が出土した。				
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第17図	図版番号	図版13
備考	土塙中央やや東寄りに青い粘質土が混入している。第24図27に示した四脚土製品が出土している。もともとは胴部があった土器を底部で削って再利用したものと思われる。同様のものがSK08からも出土している。他に土偶や網代痕を持つ土器底部が出土している。				

第02号 土塙		検出地点	II区 MF49	主軸方位	(02) N78° E (08) N39° S
法量	長軸 2.15m, 短軸 1.70m, 最深の深さ 0.36m 1.96m, 1.40m, 0.56m	分類	02-A 4a タイプ 08-A 1a タイプ		
形態	SK02は上縁が広がる浅い土塙で、その上にSK08が位置する。				
遺物出土状況	遺物はかなり大量に出土している。遺物はほとんどd層からまとまりなく出土した。				
遺物	P. 49・50・57第21・22・29図の土器と、P. 94第69図1・2の搔器と磨製石斧が出土した。				
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第17図	図版番号	図版14
備考	底面はしっかりしているが、埋土は極めて不明瞭である。東南寄りにSK02がありSK08を切っている。さらにその下に土塙があるようでこれをSK02'すると、新←02・08→02'→古となるようである。しかし02'は極めて不明瞭で規模等をつかむことはできなかった。				

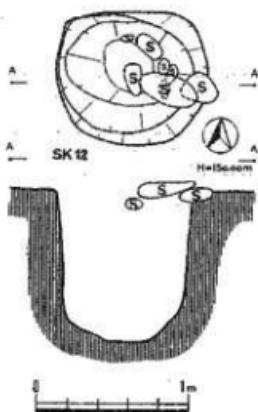
第01号 土塙		検出地点	II区 ME48	主軸方位	N84° E
法量	長軸 1.24m, 短軸 0.86m, 最深の深さ 0.27m	分類	A 3a タイプ		
形態	東側上縁が西側に比してゆるく広がるU字状の土塙である。				
遺物出土状況	遺物出土量はこの遺跡においては中間でいずれもa層から出土した。				
遺物	P. 48 第20図に示される土器が出土した。				
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第17図	図版番号	図版14
備考	第20図9に示した円盤状土製品、10・11に示した網代痕を持つ土器底部も出土している。				



a 黒褐色 (10YR3/2)	遺物包含層。炭化物を混入している。粘性あり。しまり悪い。
b 暗褐色 (10YR3/4)	炭化物、ローム粒子を混入している。しまり悪い。
b' 暗褐色 (10YR3/4)	a層とb層の中間層。
c 黒褐色 (10YR2/2)	ローム粒子を混入。炭化物を少量混入している。しまり良い。



a 黒褐色 (10YR3/2)	炭化物、遺物を多量に含む。粘性あり。薄鉄鉱結晶を多量に含むためにかなり赤っぽい。
b 暗褐色 (10YR3/3)	砂質でサラザクである。均質で不純物を含まない。
c 黒褐色 (2.5YR3/1)	地山を混入している。粘性が強く遺物はほとんど含まない。
d 灰褐色 (5YR5/1)	砂質、不純物を含まず。遺物もほとんど含まない。

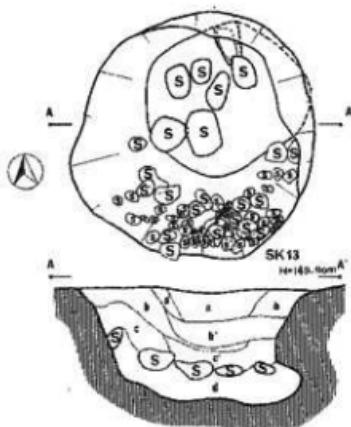


第18図 SK 11-14-12 土壠

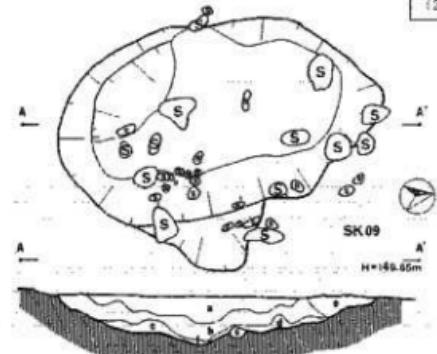
第11号 土塁	検出地点	Ⅲ区 MD44	主軸方位	N54° E
法量 長軸 1.27 m, 短軸 0.86 m, 最深の深さ 0.42 m	分類	A 3 a タイプ		
形態 ほぼ楕円形で、上縁が広がる土塁である。				
遺物出土状況 遺物出土量は少ない方に属する。ほとんどの遺物は a 層中からまとまりなく出土した。				
遺物 P. 58 第31図に示される土器が出土した。				
時期 繩文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第18図	図版番号	図版14
備考 第31図4・5に示した網代痕を持つ土器底部6の笛の葉状の痕跡を持つ土器底部が出土した。				

第14号 土塁	検出地点	Ⅲ区 MC44	主軸方位	N54° E
法量 長軸 2.47 m, 短軸 1.23 m, 最深の深さ 0.78 m	分類	A 4 a タイプ		
形態 上縁が広がる土塁で中央部に径40cm、深さ55cmの落ち込みがある。				
遺物出土状況 遺物出土量はやや多い方に属する。ほとんどの遺物は a 層中からまとまりなく出土した。				
遺物 P. 60 第34図に示される土器が出土した。				
時期 繩文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第18図	図版番号	図版15
備考 落ち込み中の埋土 d 層中からはほとんど遺物が出土しない。かなり大きめの礫が混入している。第34図12に示した円盤状土製品、13~15に示した木葉痕や網代痕を持つ土器底部が出土している。				

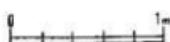
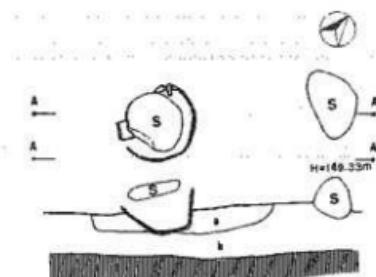
第12号 土塁	検出地点	Ⅲ区 MB44	主軸方位	円形
法量 長軸 1.03 m, 短軸 0.87 m, 最深の深さ 1.00 m	分類	B 1 a タイプ		
形態 ほぼ直上し、深さもある土塁である。平面はほぼ円形を呈する。				
遺物出土状況 遺物の出土量は少ない方である。いずれの土器も底部付近からはあまり出土せず、土塁検出面とほぼ同レベルかやや下面から出土した。				
遺物 P. 59 第32図に示される土器が出土した。				
時期 繩文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第18図	図版番号	図版15
備考 第32図3に示した網代痕を持つ土器底部が出土した。				



a 黒褐色 (5YR1.7/1)	粘性がなく、砂状に近い、赤褐色の粘土が含まれている。遺物の包含層である。
a' 黒褐色 (7.5YR3/2)	aと同質で似ている。
b 暗褐色 (10YR3/4)	砂状ではなく粘土質はなく、炭化物、赤褐色の粘土が、わずかに包含している。遺物が包含している。
b' 暗褐色 (10YR2/3)	赤褐色の粘土が、まばらに混入しているが、粘性は少なく、微細なが炭化物が、見られる。
c 黒褐色 (10YR3/2)	粒子が細くなるが、粘性は少ない。木炭片が含まれている。
c' 黒褐色 (10YR3/1)	粘性が高く、粒子状の木炭片が混入している。
d 黄褐色 (2.5Y4/1)	粘性が高く、細かい砂が混入している。粒子が礫かい。



a 黒褐色 (10YR2/3)	
b 黒褐色 (10YR2/4)	
c 褐色 (7.5YR1/4)	砂質。
d 黒褐色 (10YR2/3)	
e 黒褐色 (7.5YR3/1)	砂質、粘質あり。
f 灰褐色 (7.5YR4/1)	砂質。



第19図 SK 13-09 土壌 S×21埋査

第13号 土塗		検出地点	Ⅲ区	MC43	主軸方位	円形
法量	長軸 1.65m, 短軸 1.54m, 最深の深さ 0.71m	分類	B 1a	タイプ		
形態	北東側がえぐれて深さもある土塗である。北側に小ビットが検出された。					
遺物出土状況	遺物は少ない方に属する。ほとんどの遺物はb層中からまとまりなく出土した。					
遺物	P. 59 第33図に示される土器が出土した。					
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	神岡番号	第19図	図版番号	図版15	
備考	北側の大きめの石はすべてc及びc'層とd層の中間にあった。また南側には直徑約3~10cmの礫が底面一面に敷きつめられたようにあった。第33図5に示した網代痕を持つ土器底部が出土した。					

第09号 土塗		検出地点	Ⅲ区	MC44	主軸方位	N 6°W
法量	長軸 2.16m, 短軸 1.23m, 最深の深さ 0.33m	分類	A 4a	タイプ		
形態	不整楕円形を呈し、上縁がゆるやかに広がる大土塗である。					
遺物出土状況	遺物出土量はやや少ない方に属する。ほとんどの遺物はa及びb層からまとまりなく出土した。					
遺物	P. 57 第30図に示される土器が出土した。					
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	神岡番号	第19図	図版番号	図版15	
備考	第30図3・4に示した円盤状土製品、5・6に示した土偶が出土している。また、この土塗は検出面における平面観察で、暗褐色土が変形C字状に土塗のまわりを囲んでいることが確認された。					

第21号 埋甕		検出地点	Ⅱ区	MG53	実測図	第55図
出土状況	Ⅱ区中央部や北側の第Ⅲ層上面にて検出された。長さ40×幅20×厚さ10cm程の自然石が蓋のようにかぶせてあった。本来は第Ⅲ層上面まであったものと思われるが、胴部は見られなかった。埋甕の約2倍の大きさに掘り込んで埋めたものであろう。土器内の埋土中からの遺物はなかった。					
土器	出土した埋甕は底径15cm、残存する高さ10cmであったが、本来は器高40~50cmで胴部上半に最大径を持つ、深鉢形土器であったと思われる。焼成は良好で、色調は内面茶褐色、外面黄~茶褐色を呈する。文様は5cm程のL R原体の単節繩文を斜位または横位に回転施文しており、その後に幅5~7mmの沈線で区画した内側を磨消して文様体を構成する。縄文時代後期のものと思われる。					

2. 出土遺物について

調査で発見された遺構及びその周辺からは多くの遺物が出土した。遺構内から出土したものには図示したとおりである。それらをもあわせて記述するものとする。

土器 繩文時代後期初頭から中葉頃までの土器が発見された。主体をなす土器は地文に縄文を施し、それにいろいろな沈線文で幾可学的な文様を構成するものである。それらを大別すると次のようになる。器形は深鉢・浅鉢・注口土器・壺・ミニチュア土器などがある。口縁部に突起の付くもの、波状口縁をなすものが多い。第56図に突起の主なものを示した。

1. 縄文を主体とするもの。器面全体に縄文が施されるもので、器形は深鉢形をなし、頸部でくびれるものが多い。(1)口縁部に2~3cmの無文帯を持つもの。(2)頸部に無文帯をもつもの。さらに(3)無文帯との境界に沈線をほどこすもの。(これには上だけ・下だけ・上下両方にあるものがある。)(4)縄線文をほどこすもの。(①と同種の種類がある。)(5)沈線 他

2. 地文に縄文、撫糸文を施し、その上に沈線を施すもの。沈線は(1)棒状の工具で巾広の沈線文で構成するもの。(2)半截竹管による平行沈線文で構成するもの。(3)細く浅い沈線で構成するものなどがある。(1)の沈線で構成される土器は(1)口縁部に文様帯(模式図)を持つもので、器形は胴部から口縁部にかけて直線的に立ち上り、胴部には幾可学的な文様を施すもの。

(2)口縁は平・波状をなし、少し内湾する深鉢形で8字あるいはS字状の文様が縦につけられるもの。あるいは列点文などを施すものなどがある。(3)口縁部に(1)と類似の文様帯をもち、頸部がくびれ(無文帯)それ以下に沈線文の施されるもの。比較的大形のものに多い。

(2)口縁は平で、口縁部に広い文様帯を構成し、頸部に平行沈線、胴部には(1)同様の幾可学的な文様を施すもの。(3)は地文に撫糸文が施されるものが多い。

3. 磨消縄文のあるもの。(1)地文に縄文を施した後、沈線で区画し、その後で磨消するもの。(2)沈線で区画した後に縄文を施すものとがある。本遺跡で出土したものは前者のものが多い。後期前葉のものは、地文の縄文原体が太く、中葉のものは細い。第43図1のように、巾広く帶状に縄文を残し、その中に沈線で文様を施すもの。平行・三角形・菱形・孤形・台形に区画して帶状に磨消し、その部分が少ないもの。第25図1のように大きく磨消するものなどがあり、文様にも種類が多い。第23図12のように、残った縄文の上に刺突文を施すものがあり、この土器のように三重に施すものもめずらしく、普通沈線に沿って1列に刺突されるものが多い。

4. 沈線だけのもの。第57図16のように口縁が内湾する鉢形土器が多い。口縁部には、円形刺突文を間に平行沈線を數本施し、その下に孤状に沈線を施すものが多い。第57図14のようなものもある。その他の土器で注目されるのは、第53図の土器がある。器壁が厚く、器表面は無文、内面下半部に図のような太い沈線で文様が施されているものがあり、遺構外からも数個ある。

5. 土製品。四脚・三脚土器（第29図14）底部は平に作った後に十字（U字状）に切り取り、四脚の底部にしたもので、この他に第60図43など、同38・40のように三脚のものもある。43を除いた他は小形の土器である。器台（第18図）1点出土。四脚の付いた器台である。

土偶（第61図・62図12）。14点出土した。中には同一個体のものもある可能性がある。頭部が前に突き出た独特の形をなす。第62図52の頭・55の左肩の部分にアスファルトが付着している。

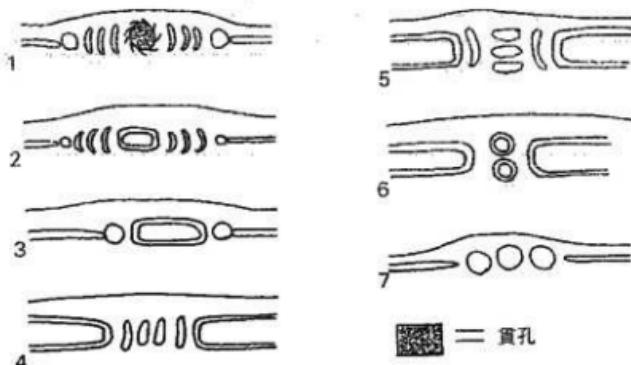
円盤状土製品（第63図）。円盤状土製品は130余点出土している。すべて土器片を利用したものである。他に石製品も4点ある。

船形土器（第48図17）。SK28土坑から発見された上器である。船形をなし、両側に沈線で文様を施している。

この他に環状土製品、耳栓（第54図12）などがある。

石器（図版18～20） 遺構内及び遺構の包含層から多くの石器が出土した。その主なものは、石錐・石錐・石匙・石匙・磨製石斧・凹石・石錐・石棒・石皿・石刀・などがある。

石錐は12点あり、柄のあるもの、基部に抉り込みのあるものである。基部が少しふくらみのあるものなどがある。石錐は26点あり、刃部の長い物5点、剥片の一部に加工を施して錐としたものとがある。石匙は18点あり、縦長のもの・横長のものと二種あり、前者が多い。磨製石斧は36点あり、小型のものは、長さ5cm・巾2cmから大きいもので欠損して14cm・巾7.5cmのものまである。欠損しているものが多い。全て始歯である。凹石は18点で一つ凹むものと二つ凹むものとがある。石鍬は3点ある。いずれも梢円形で扁平な跡を用い、長様の両端を削いて溝をつくり石鍬としたものである。石棒は2点ある。2点とも欠損していて現存する長さは24



土器口縁部文様帶模式図

cm (径 4.5 cm) 14 cm (径 2.5 cm) にある。大きな方の石棒の先端部が少し凹んでいる。石皿は 1 点あり、欠損部分が多く、全体の形は不明。石刀は 1 点あり、欠損しており現存する長さは 14.5 cm で先端部が残っている。巾 3.2 cm・長さ 1.5 cm である。

この他に多くの剥片石器が多く発見されている。

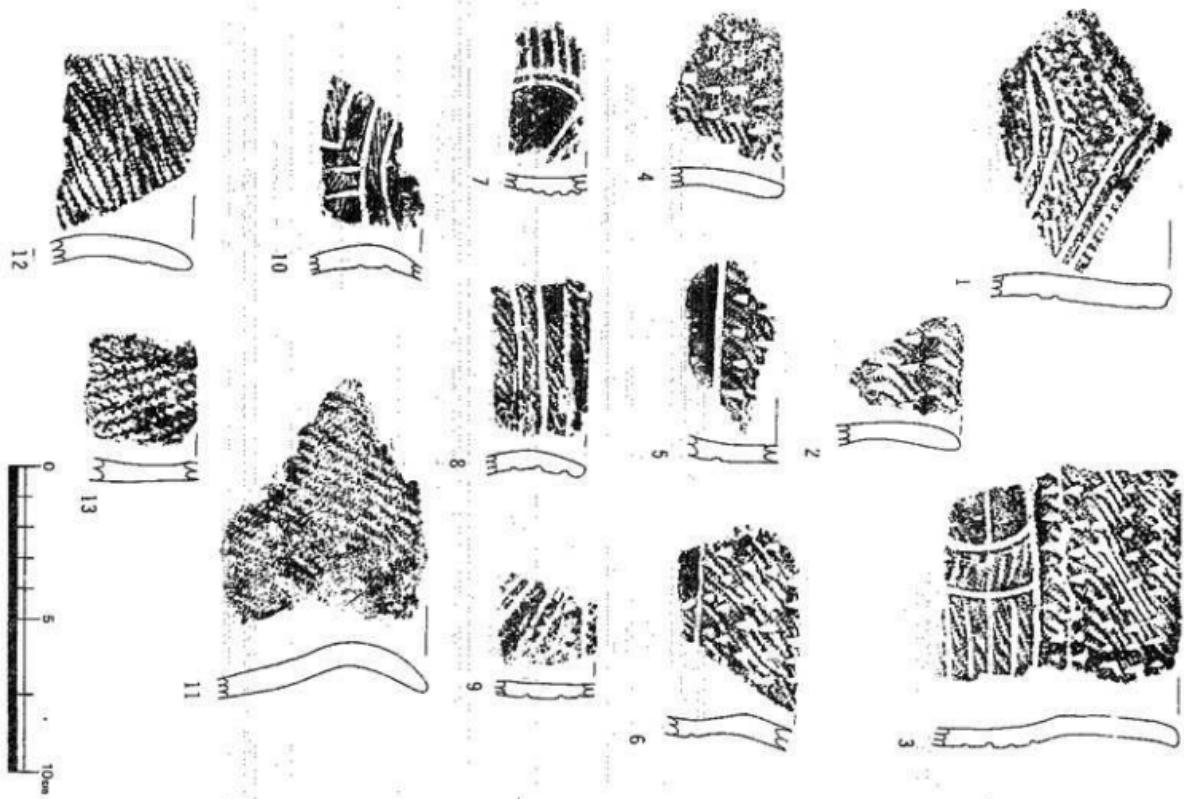
注 綱代痕等を持つ土器底部については P89 に記した。

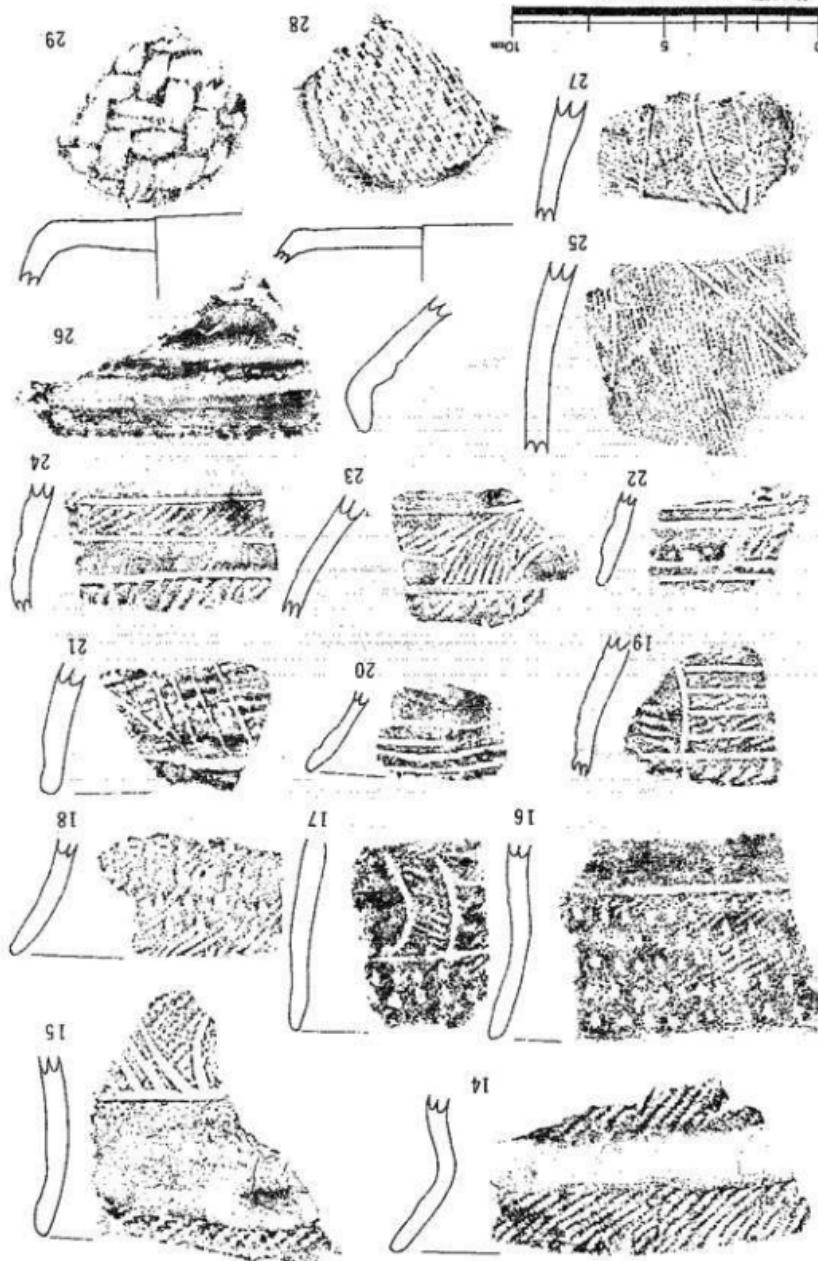
土器・石器の拓影・実測図を 49 図ほど用意し作成したが、事情により割愛せざるを得なかつたため、このような紹介になった。遺構外からは多くの土器が出土した。それらは別の機会を利用して紹介したい。

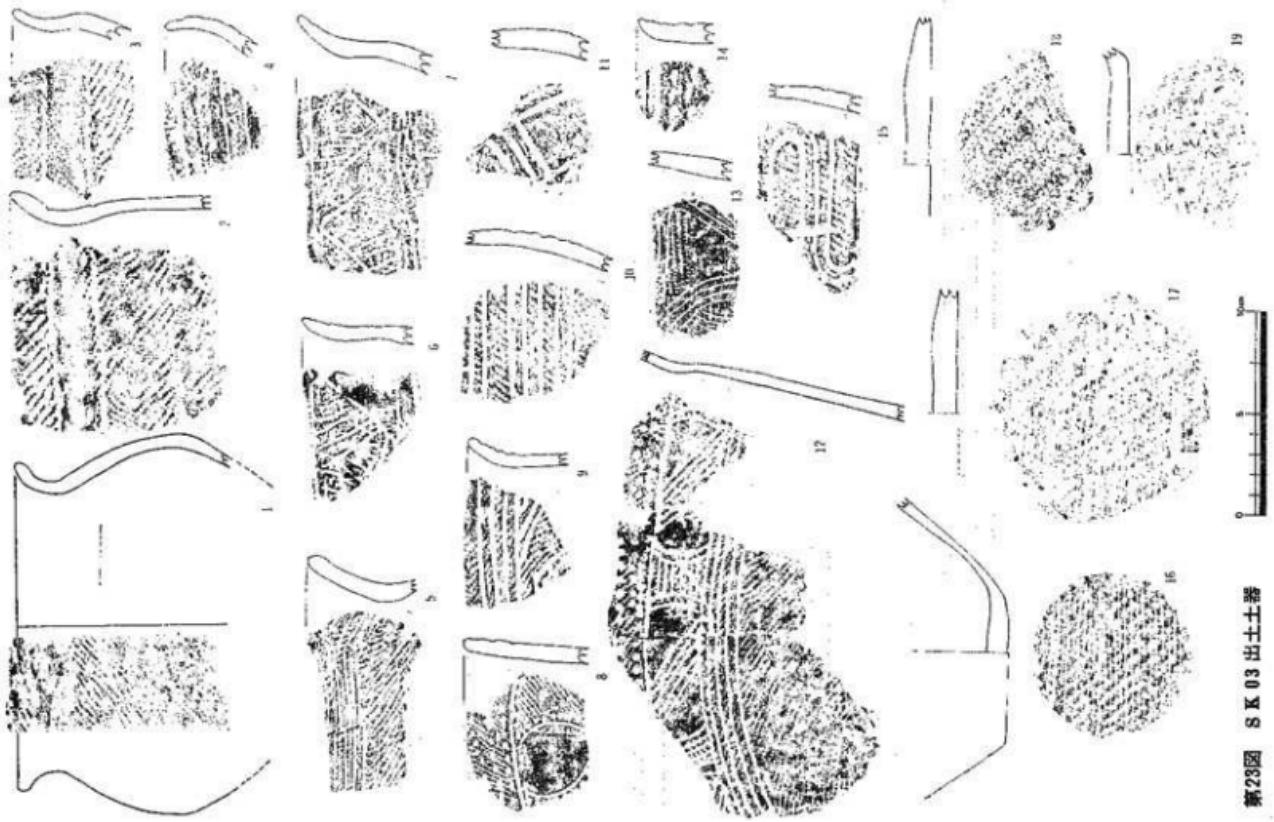


第20図 SK 01 出土土器

第21図 SK 02出土土器

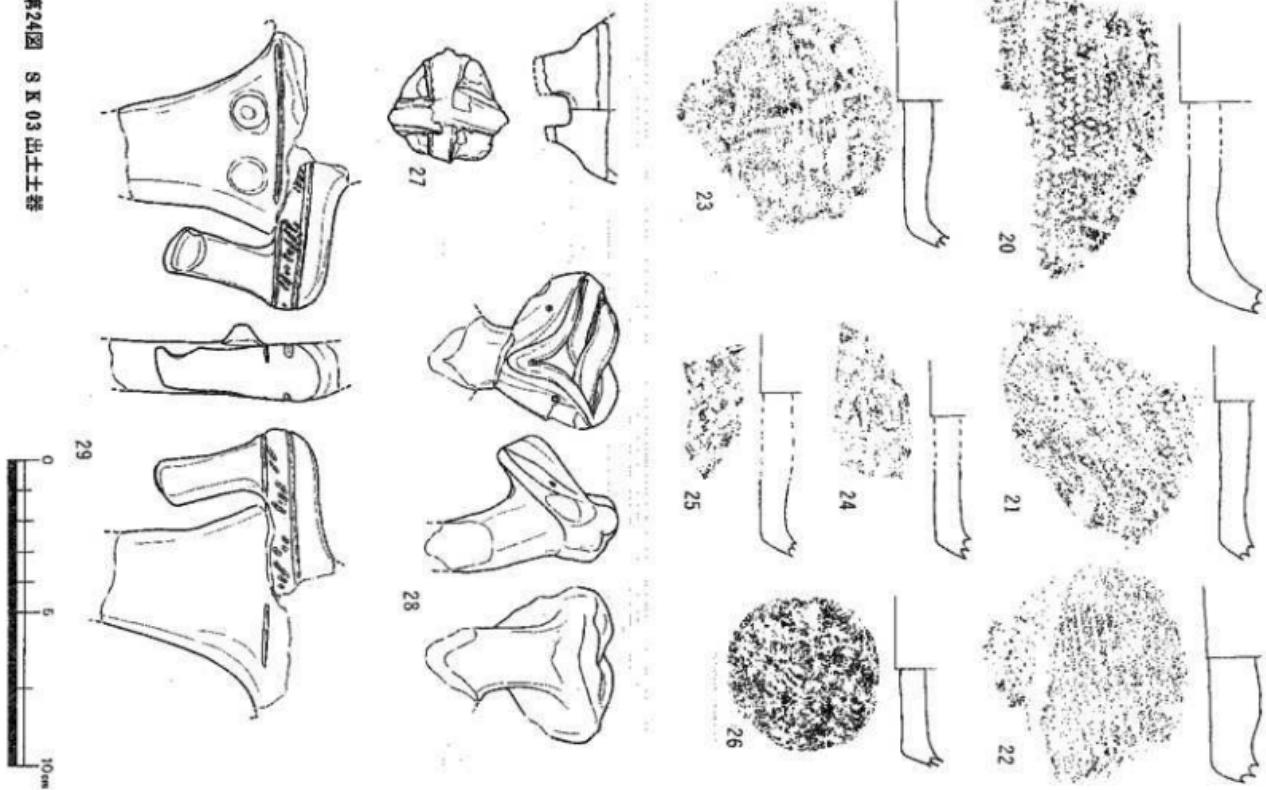




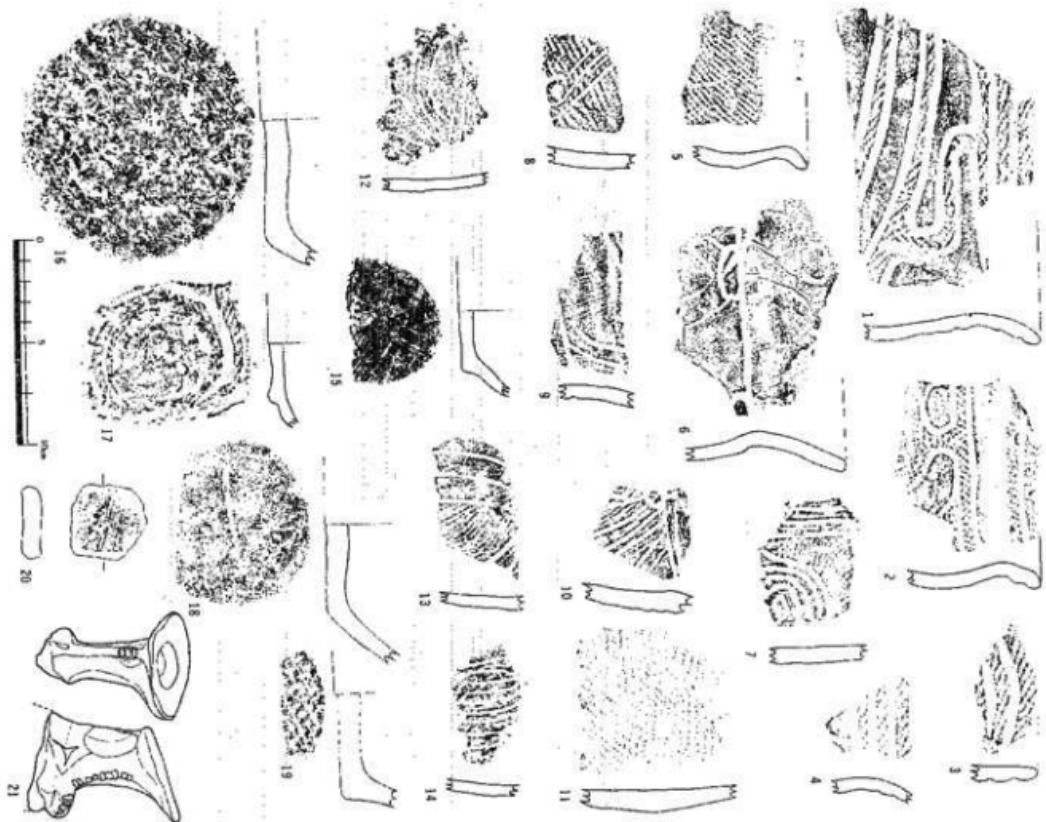


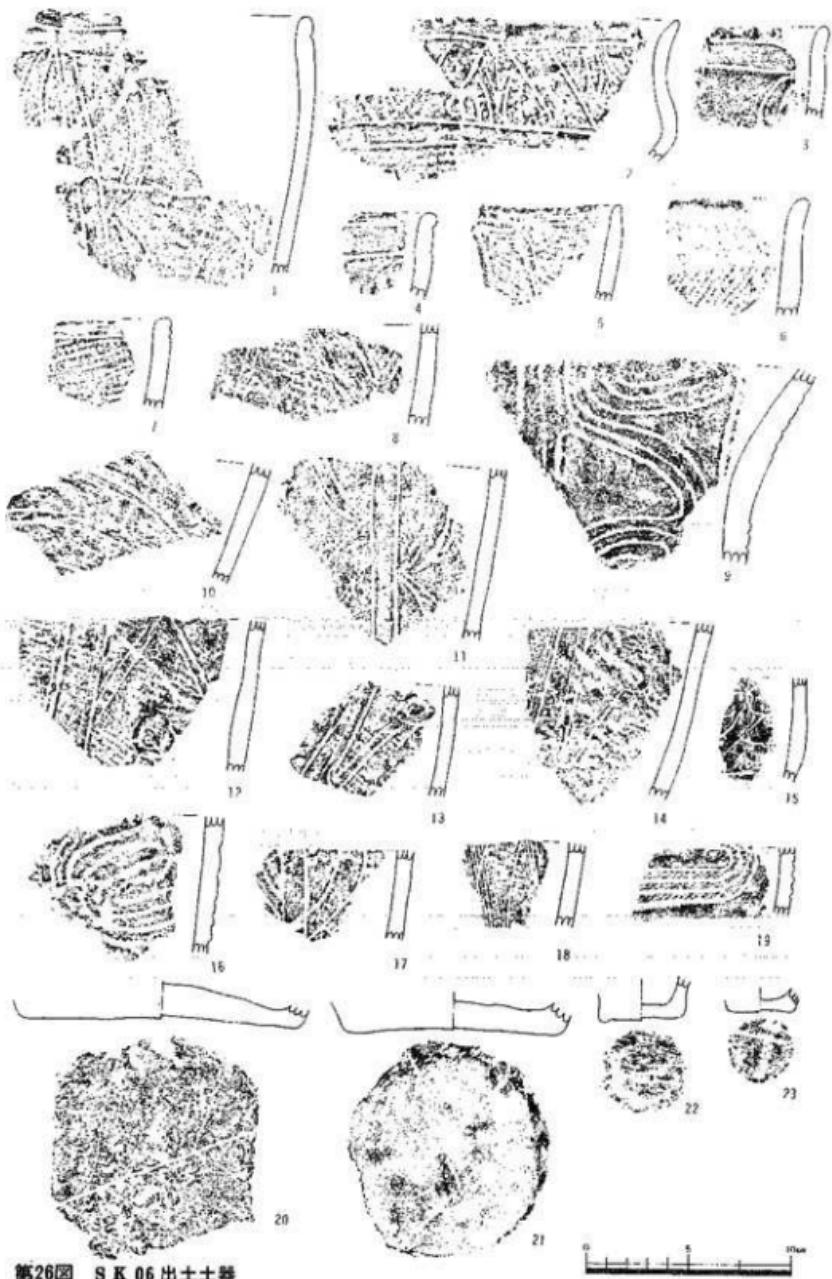
第23图 SK 03出土土器

第24图 SK 03出土土器



第25図 SK 05出土土器





第26図 SK 06出土土器

第27図 SK 06 出土土器

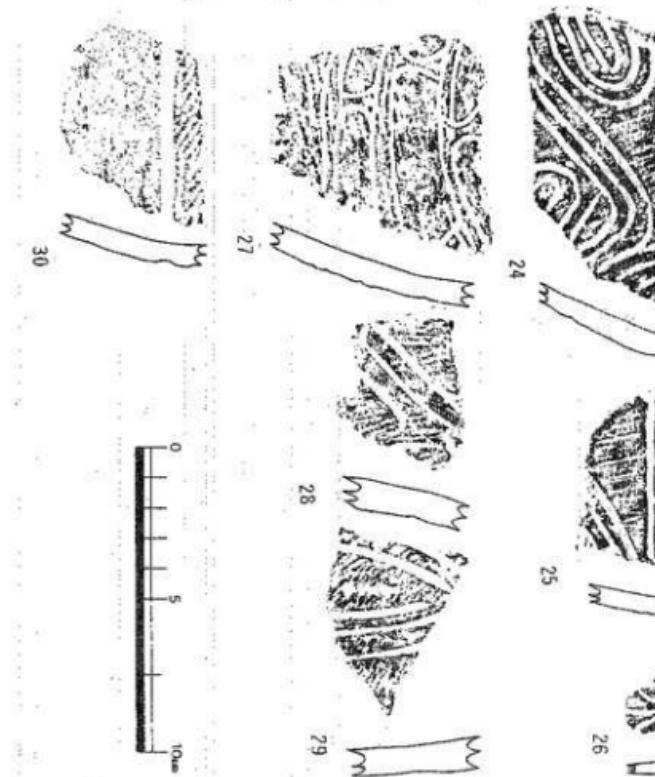
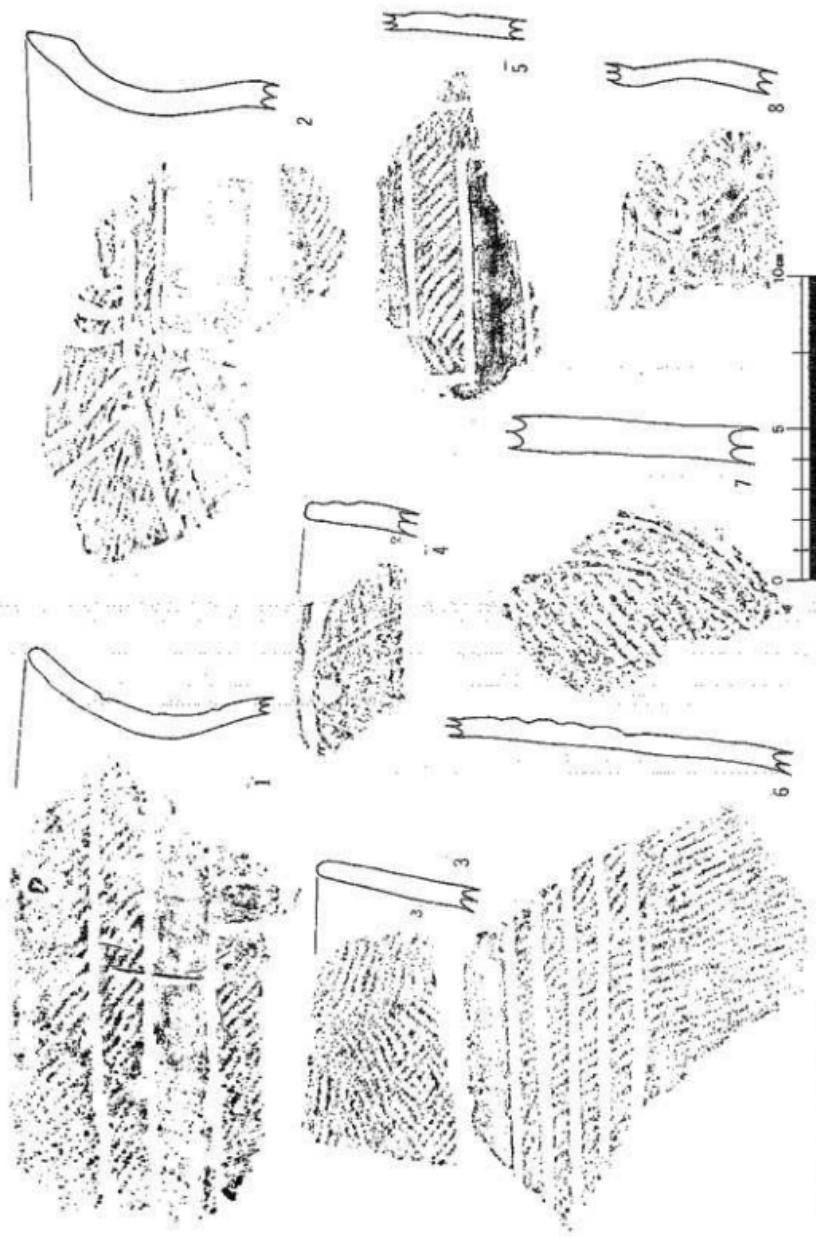
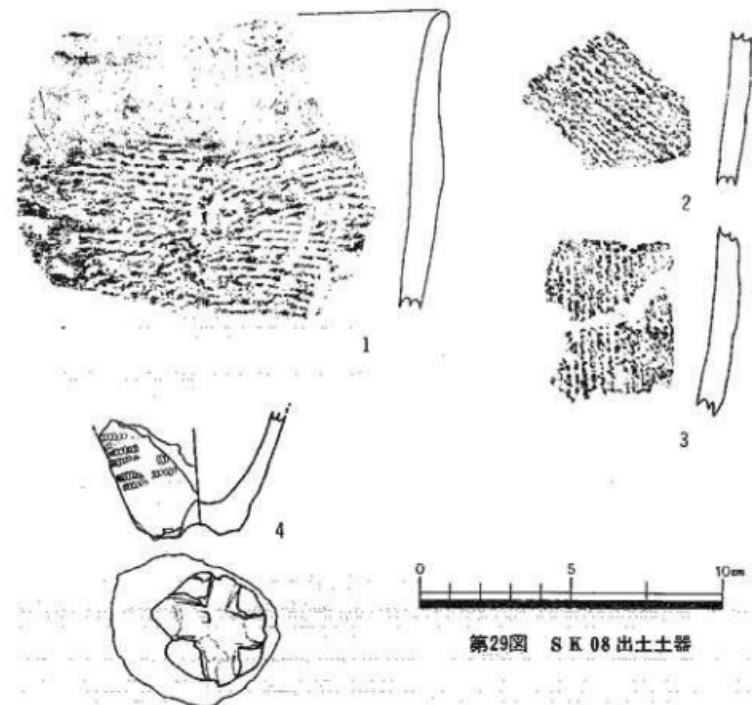
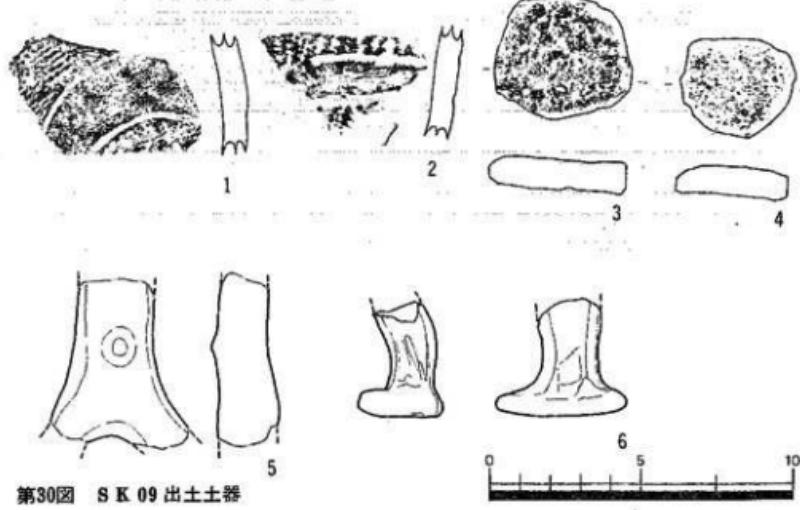


图28 S K 07出土土器



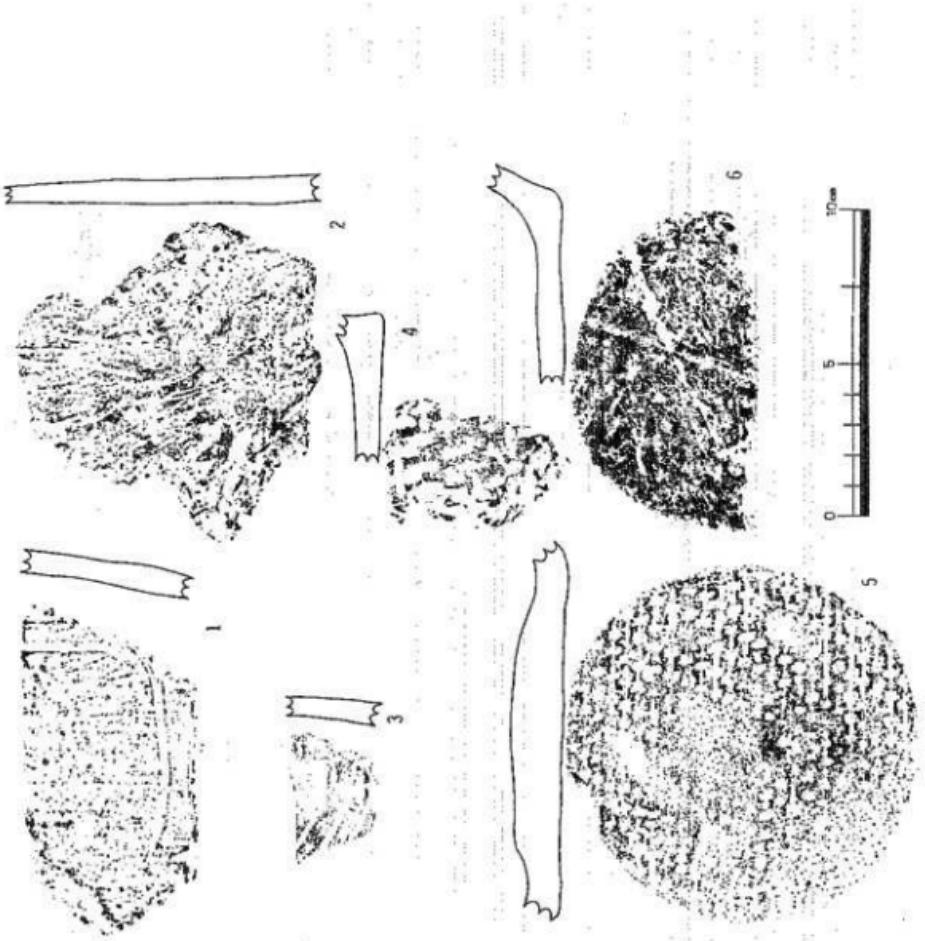


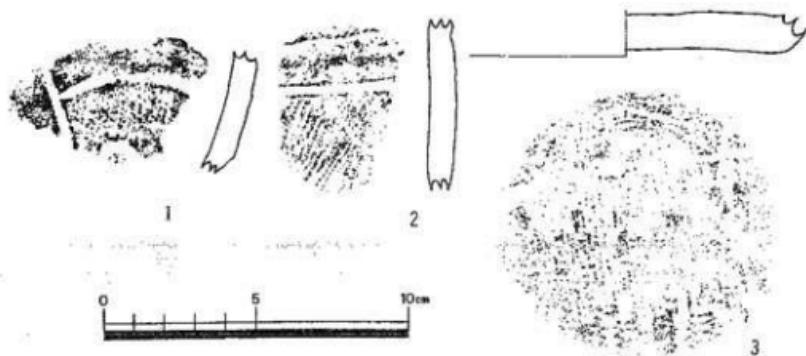
第29図 SK 08 出土土器



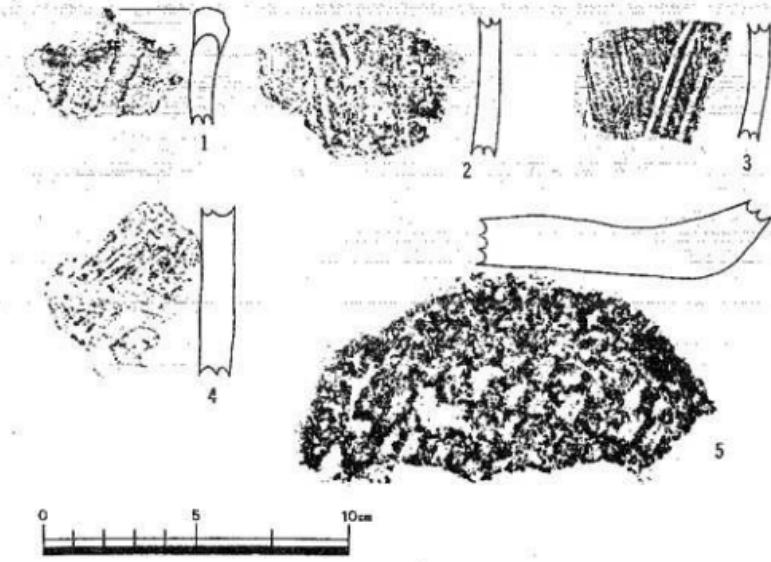
第30図 SK 09 出土土器

第31圖 SK11出土土器

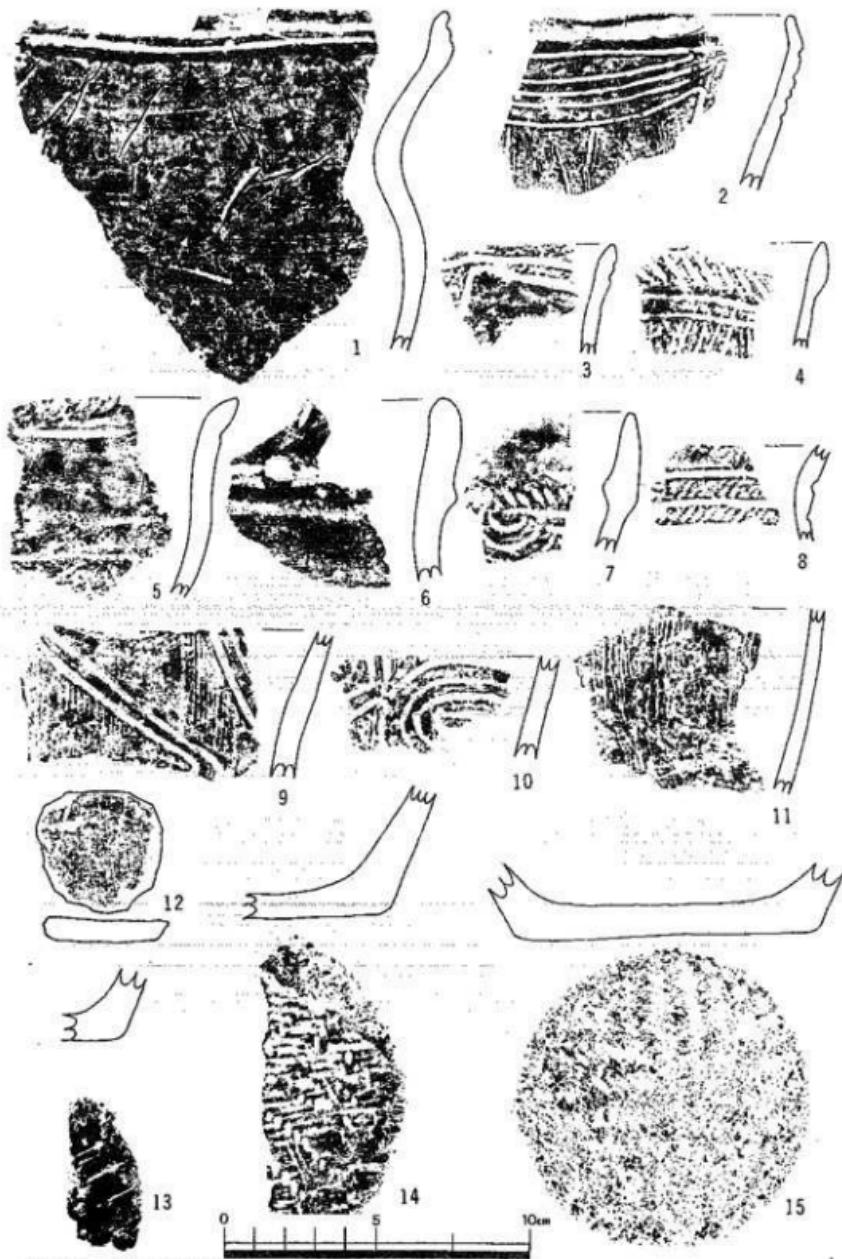




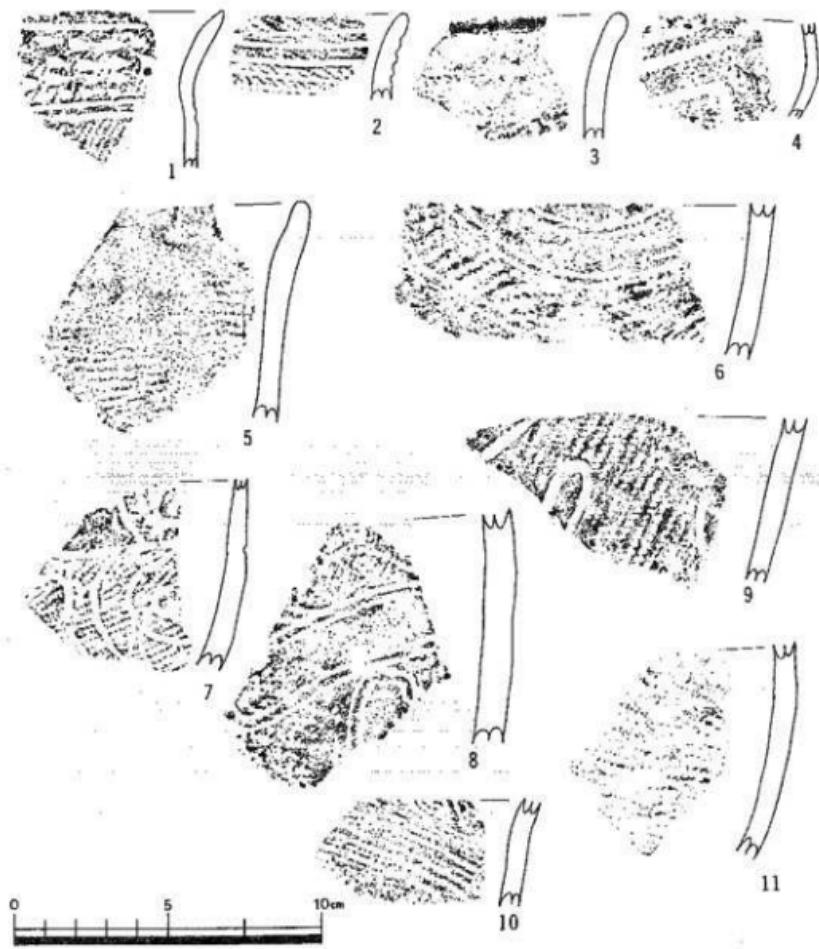
第32図 SK 12 出土土器



第33図 SK 13 出土土器

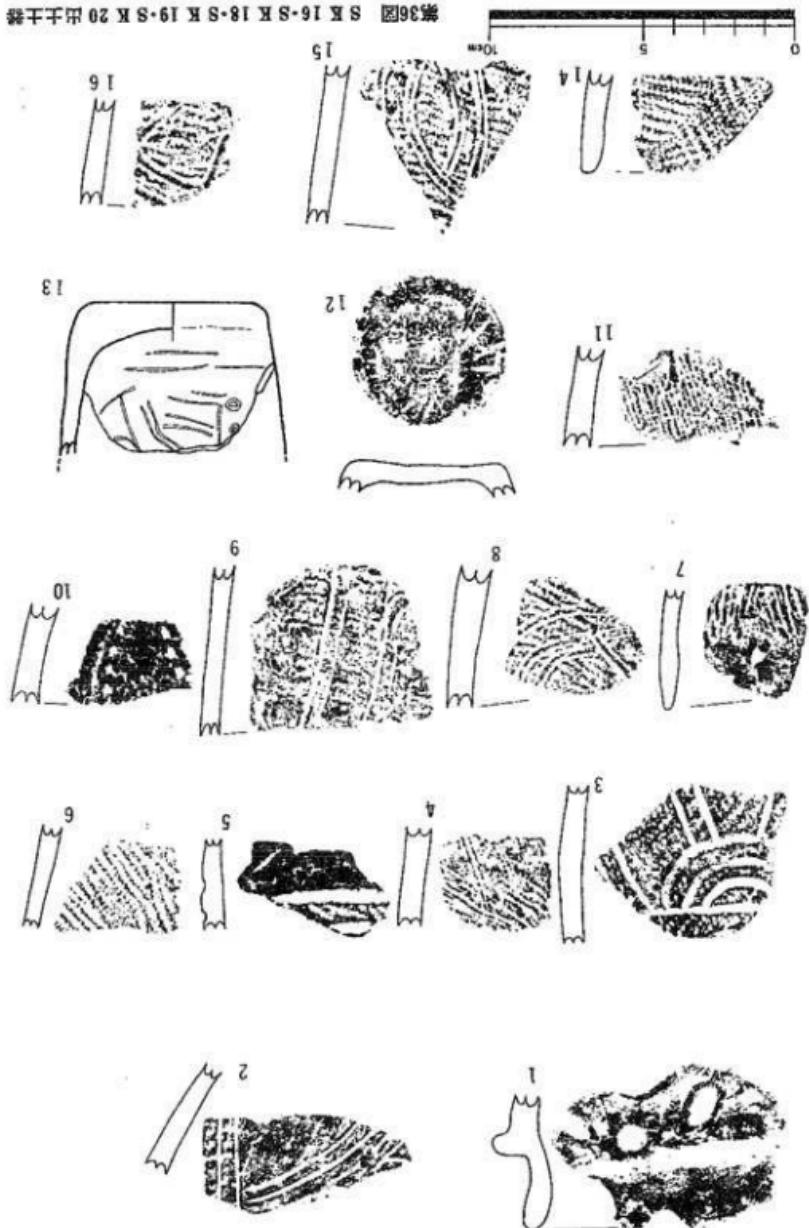


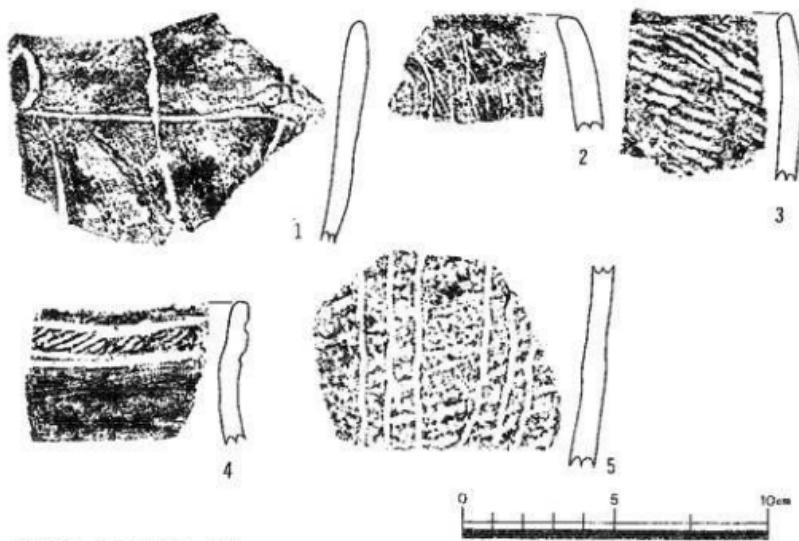
第34図 SK 14 出土土器



第35図 SK 15 出土土器

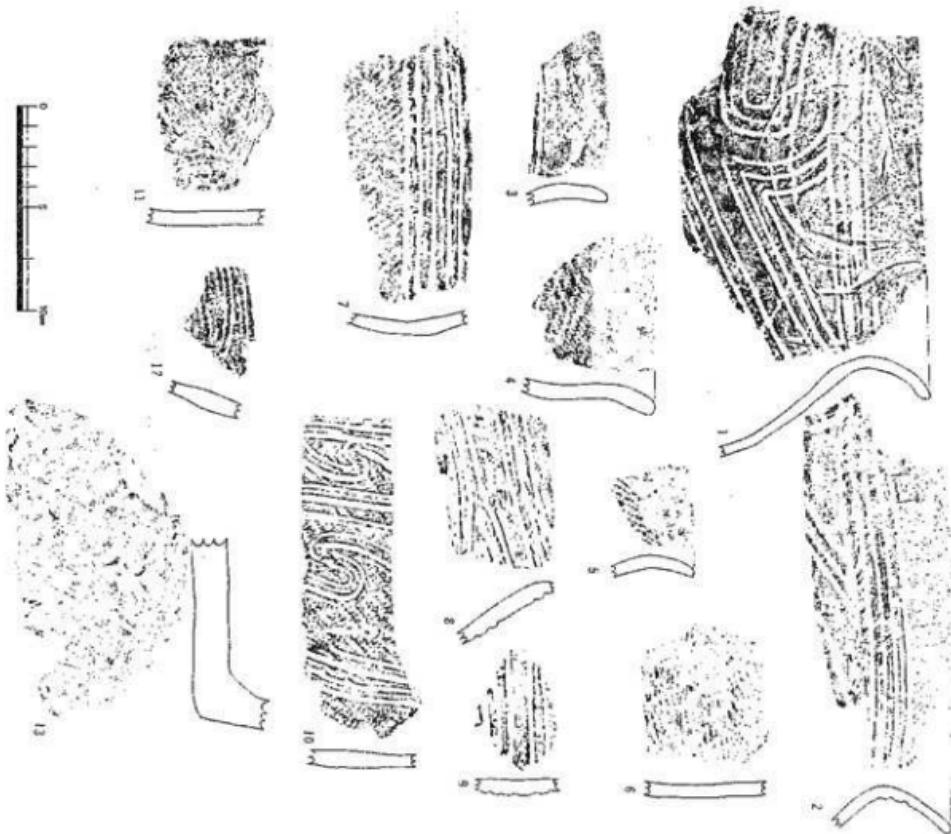
第36圖 SK 16-SK 18-SK 19-SK 20 出土土器

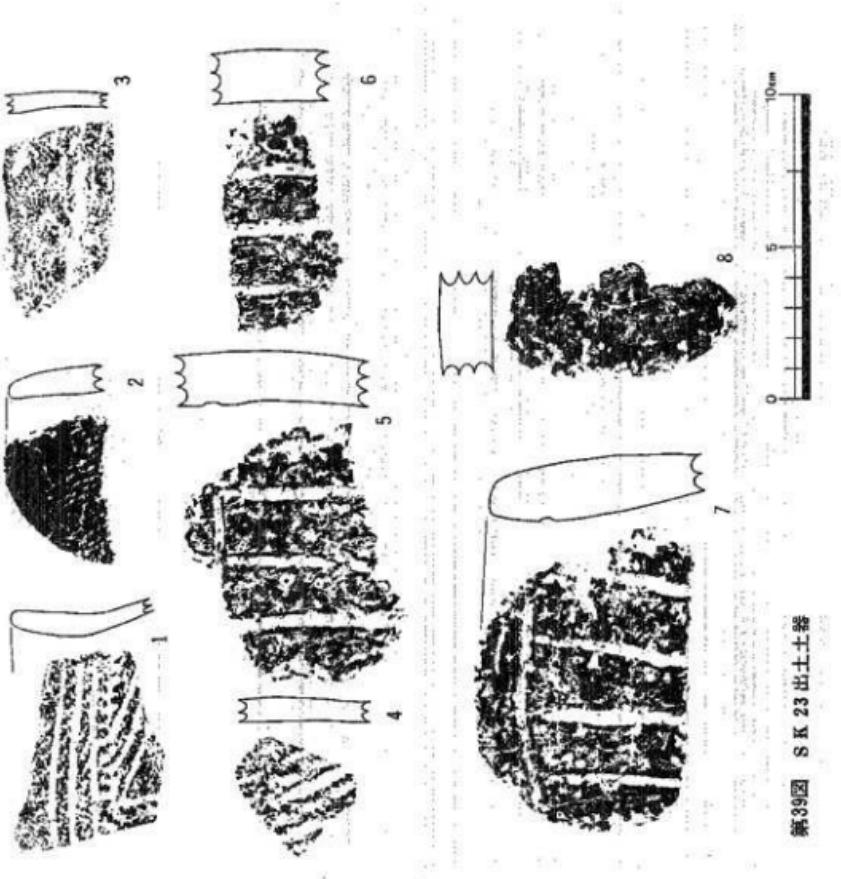




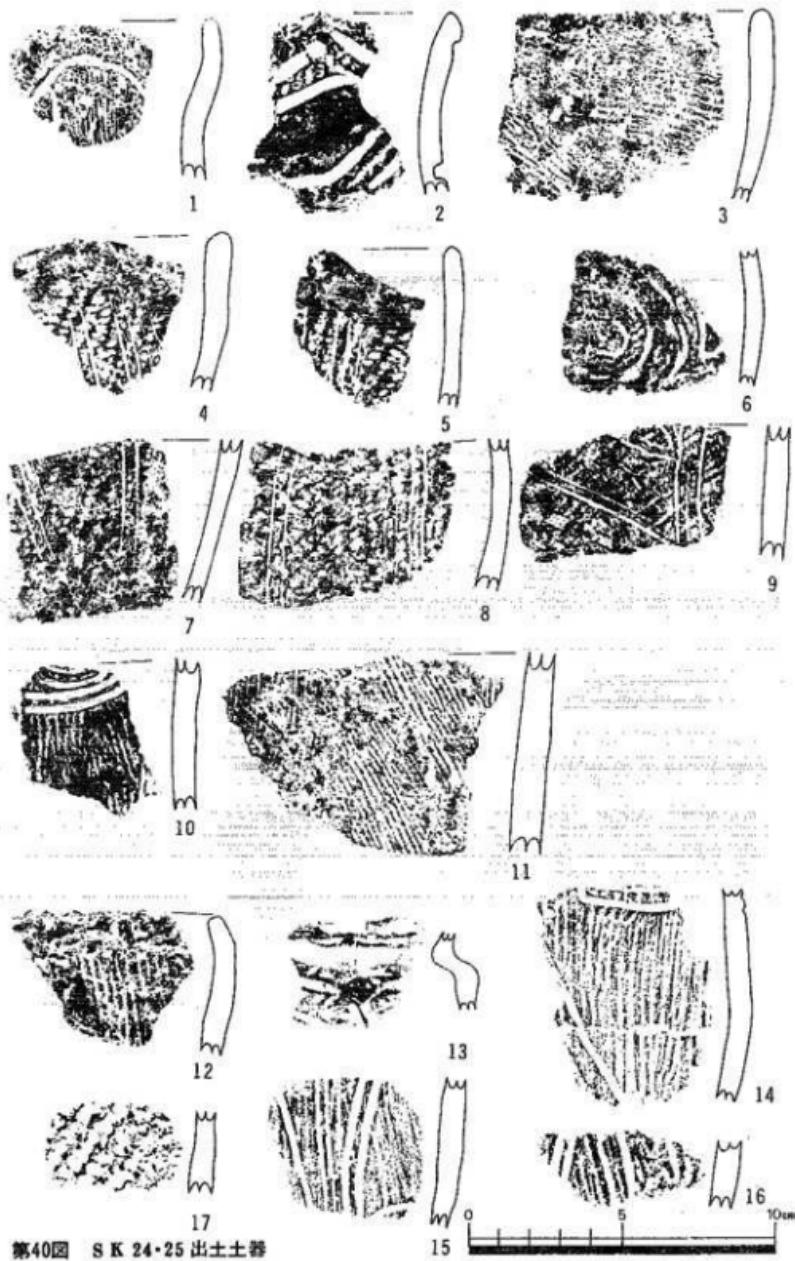
第37図 SK 17 出土土器

第38図 SK 22出土土器

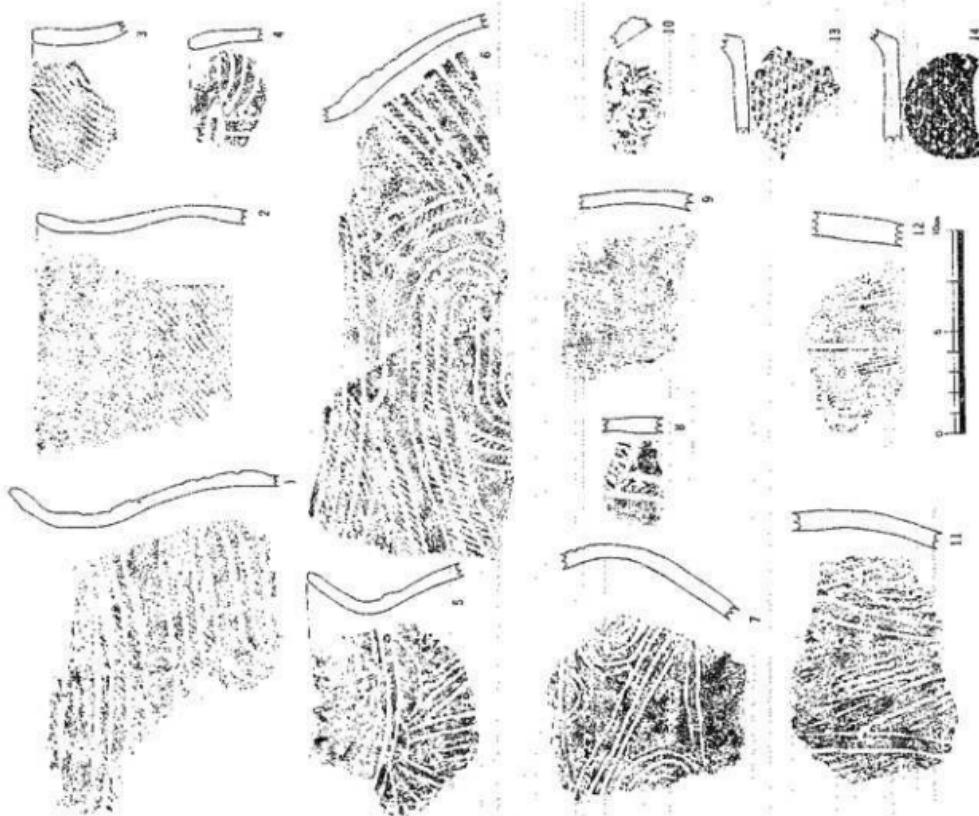




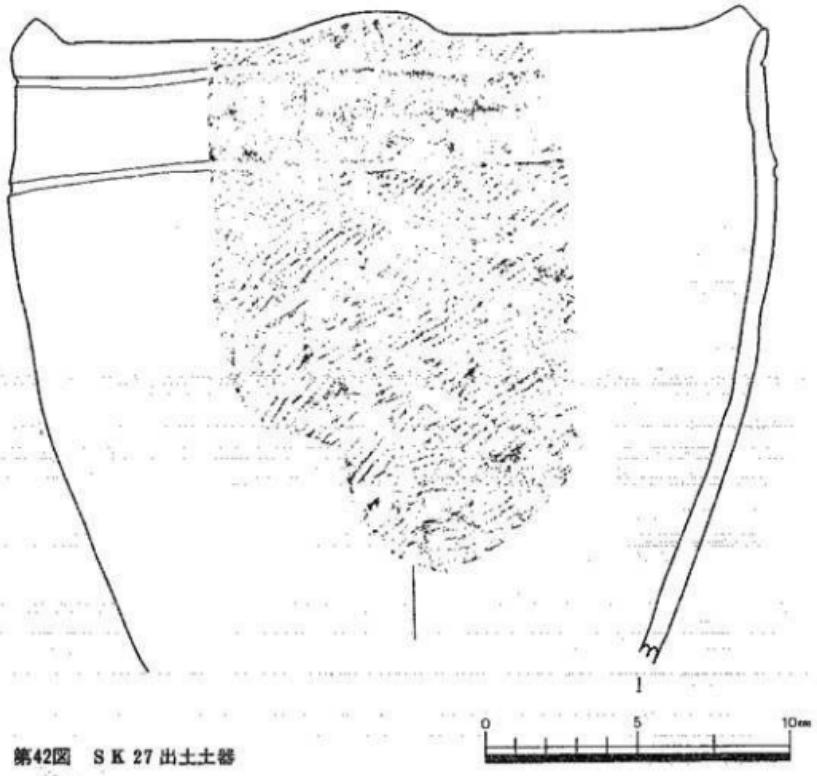
第39圖 SK 23出土土器



第40図 SK 24・25 出土土器

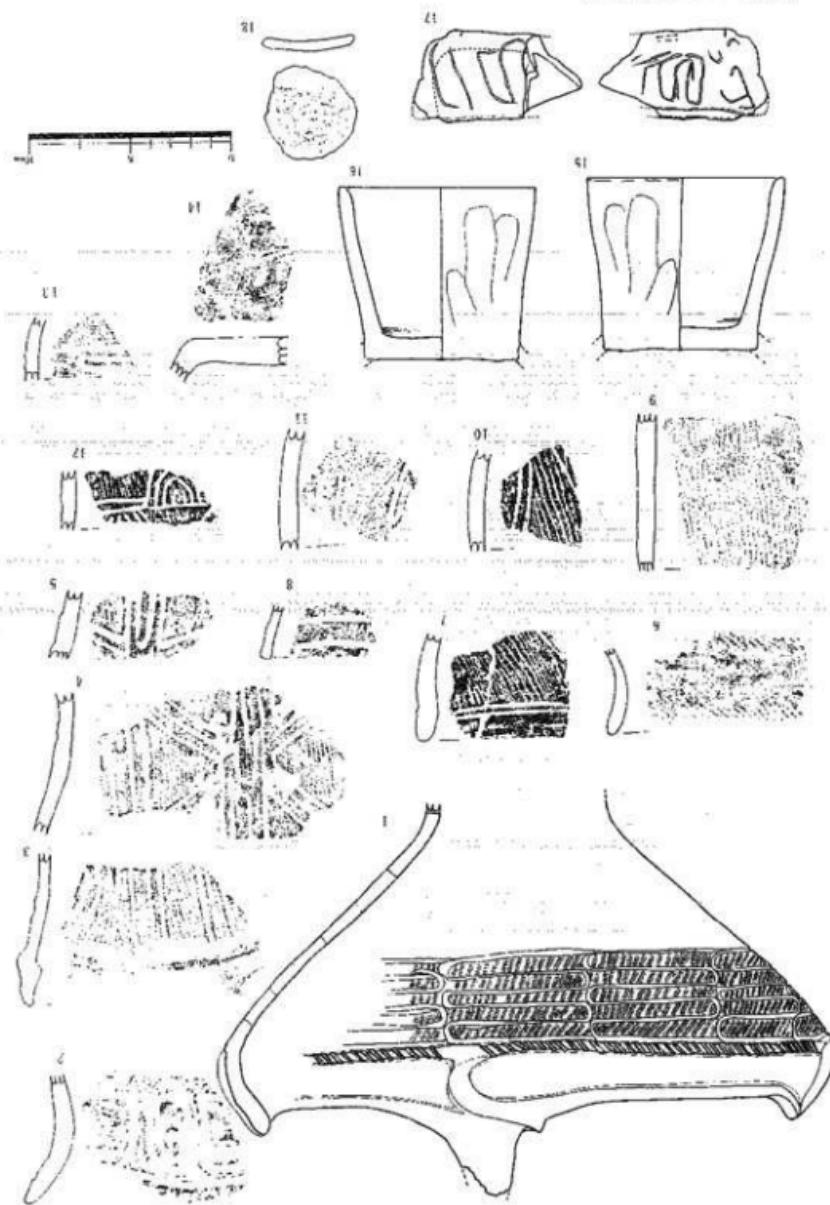


第41図 SK 26出土土器

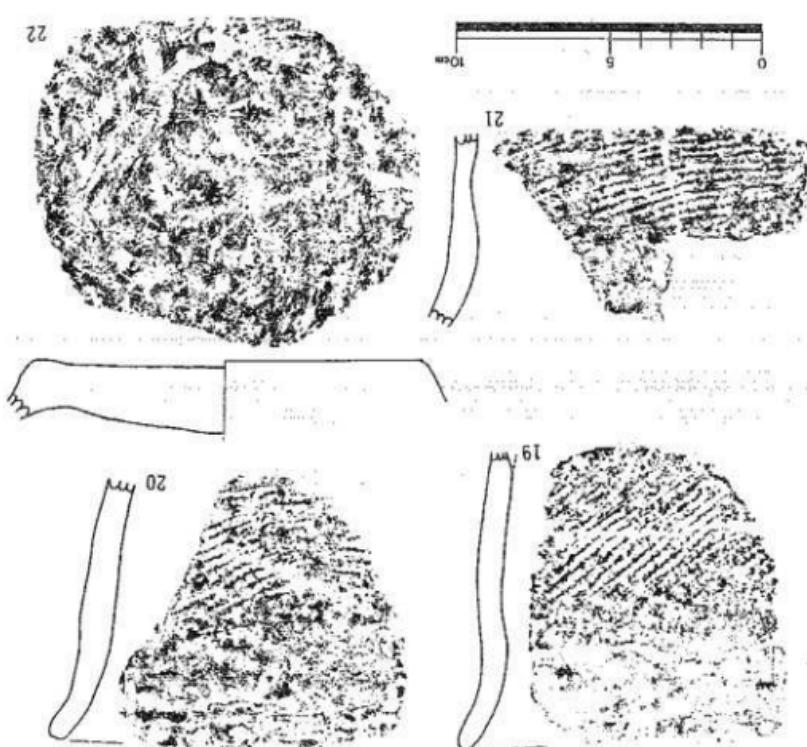


第42図 SK 27 出土土器

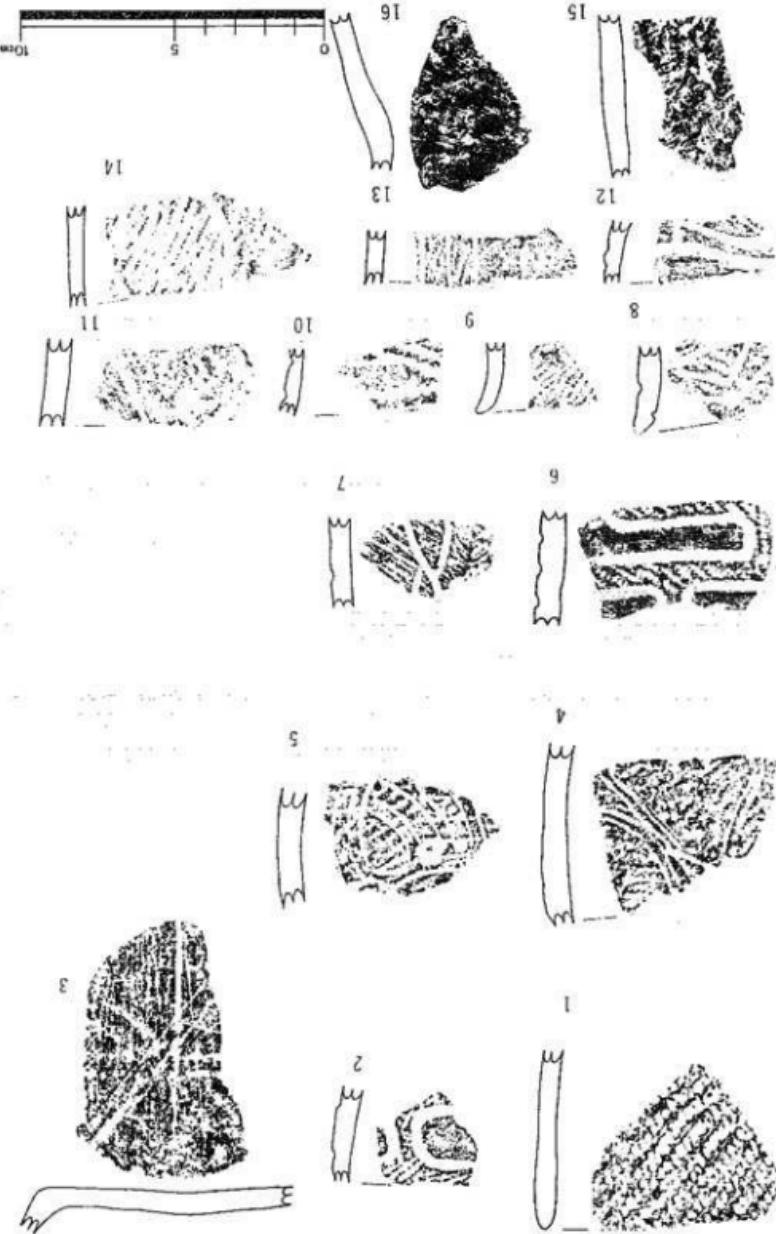
圖43 SK 28 出土玉器



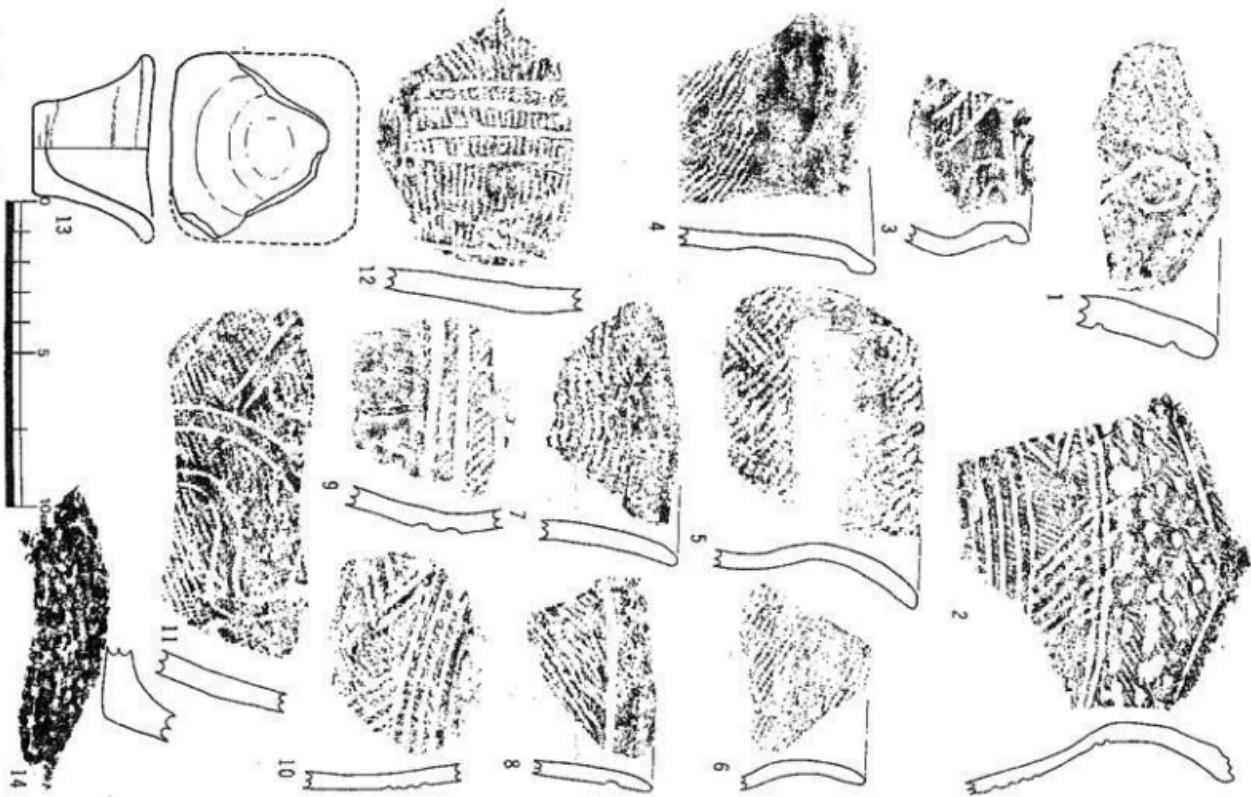
第44图 S区28出土土器

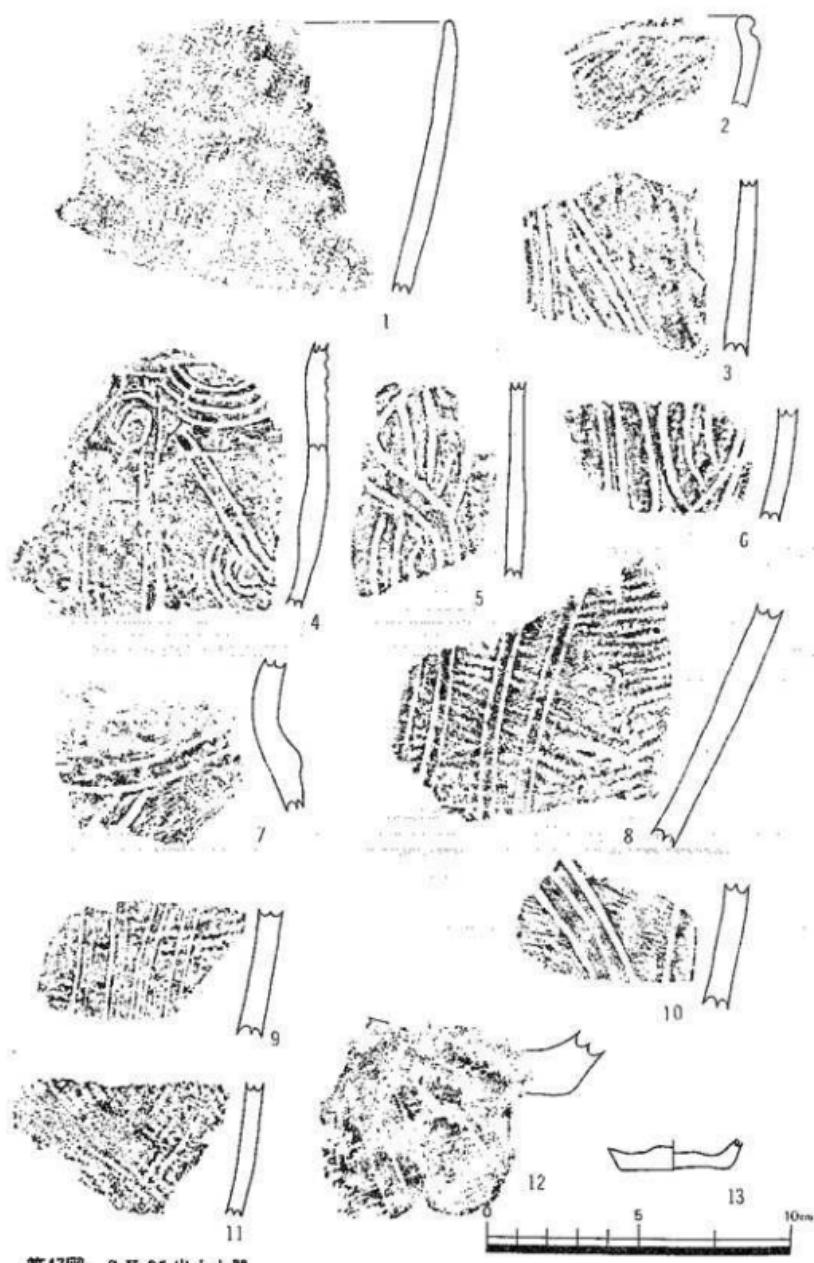


第45圖 SK 29-30-32-33出土土器

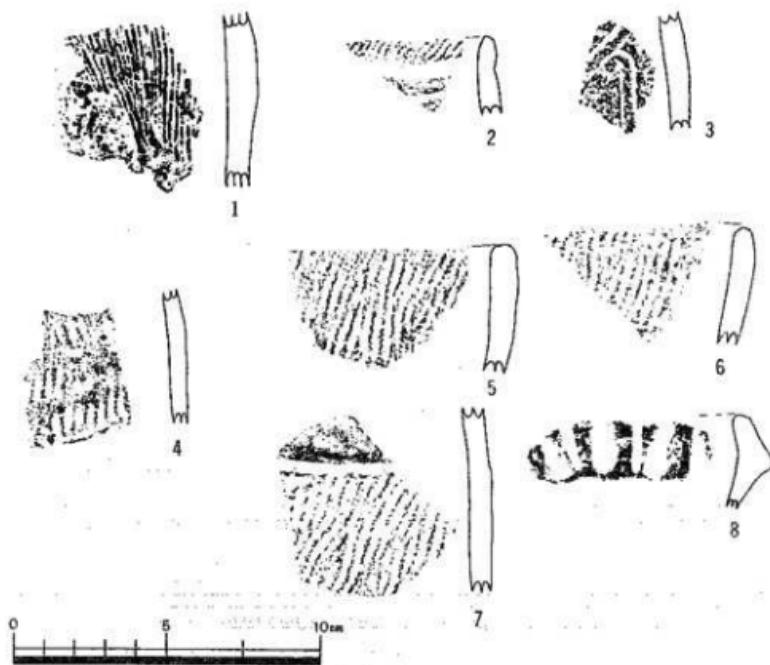


第46図 SK 31出土土器

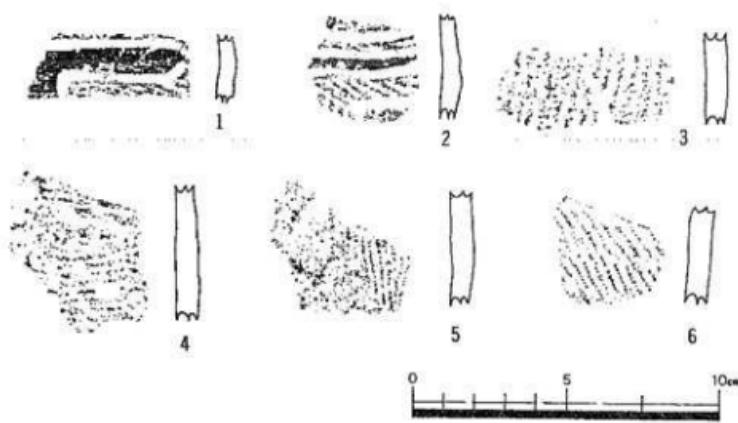




第47図 SK 35 出土土器

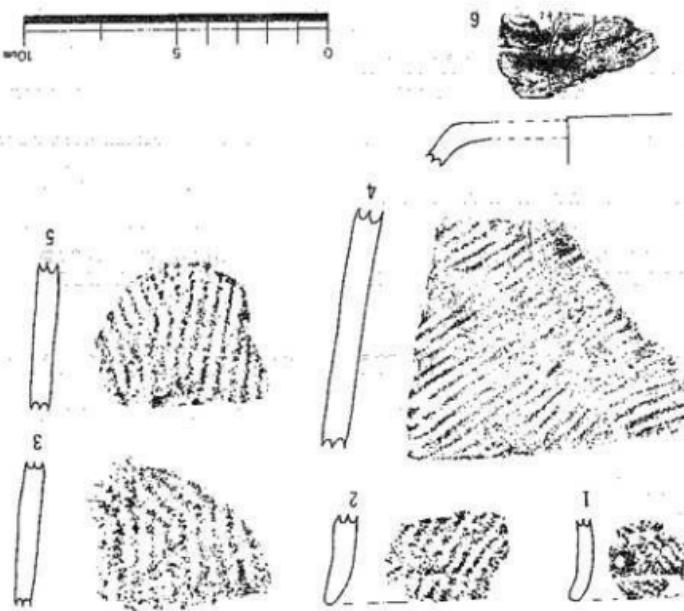


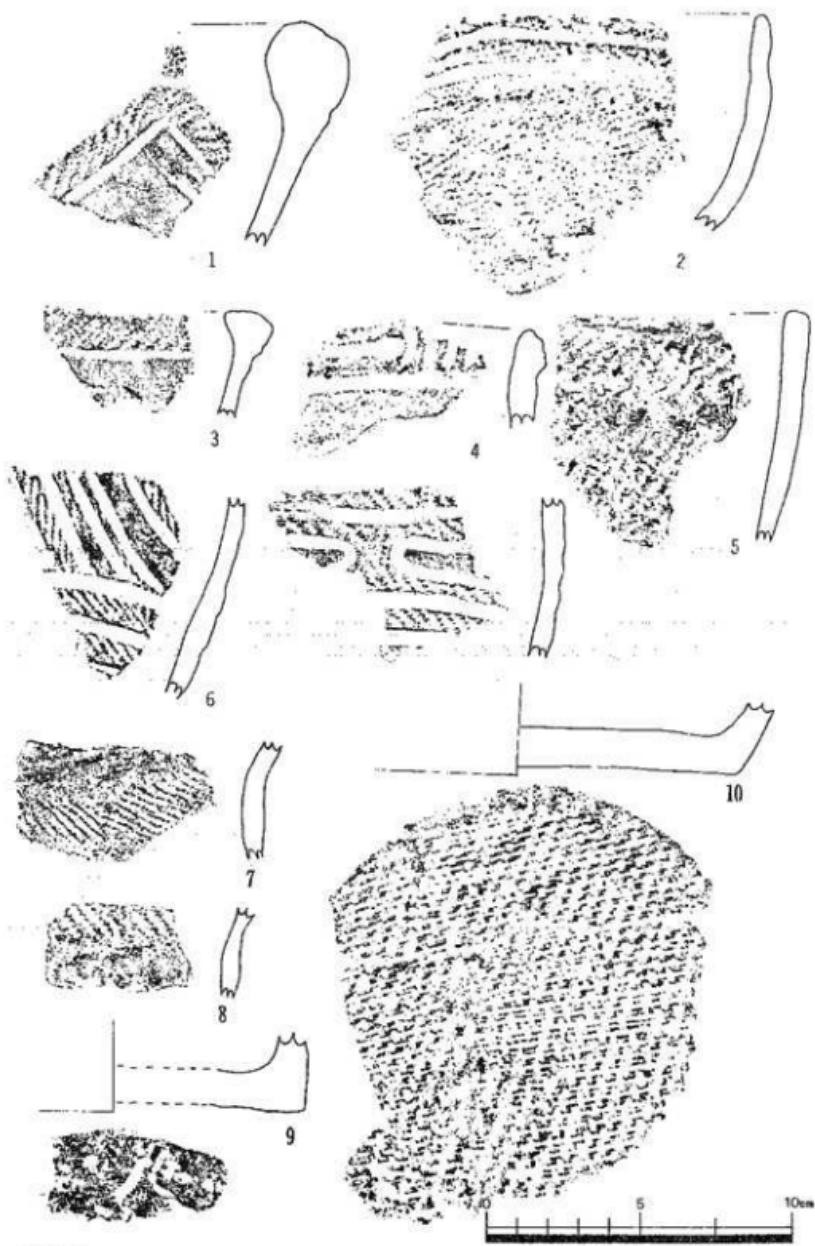
第48図 SK 36・37・39・40 出土土器



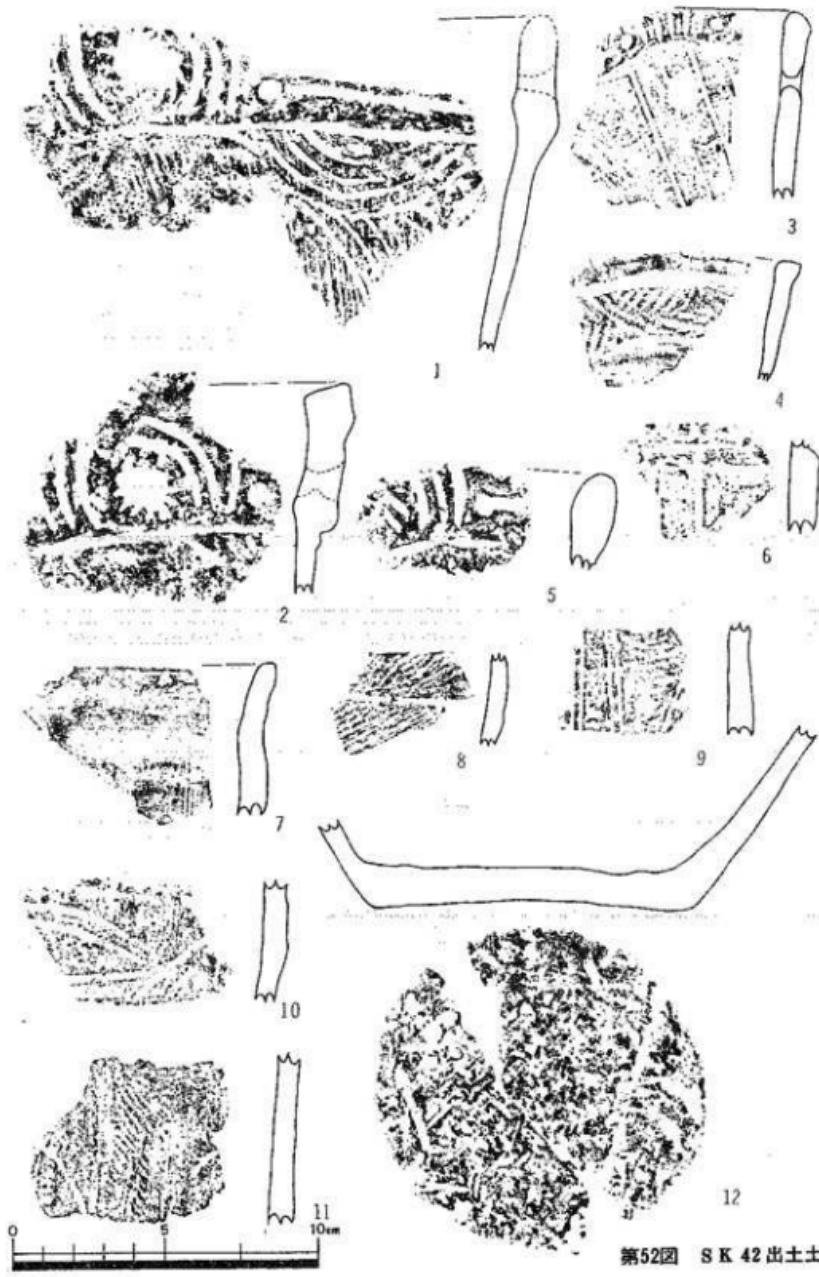
第49図 SK 43 出土土器

第50圖 S.K.38出土土器



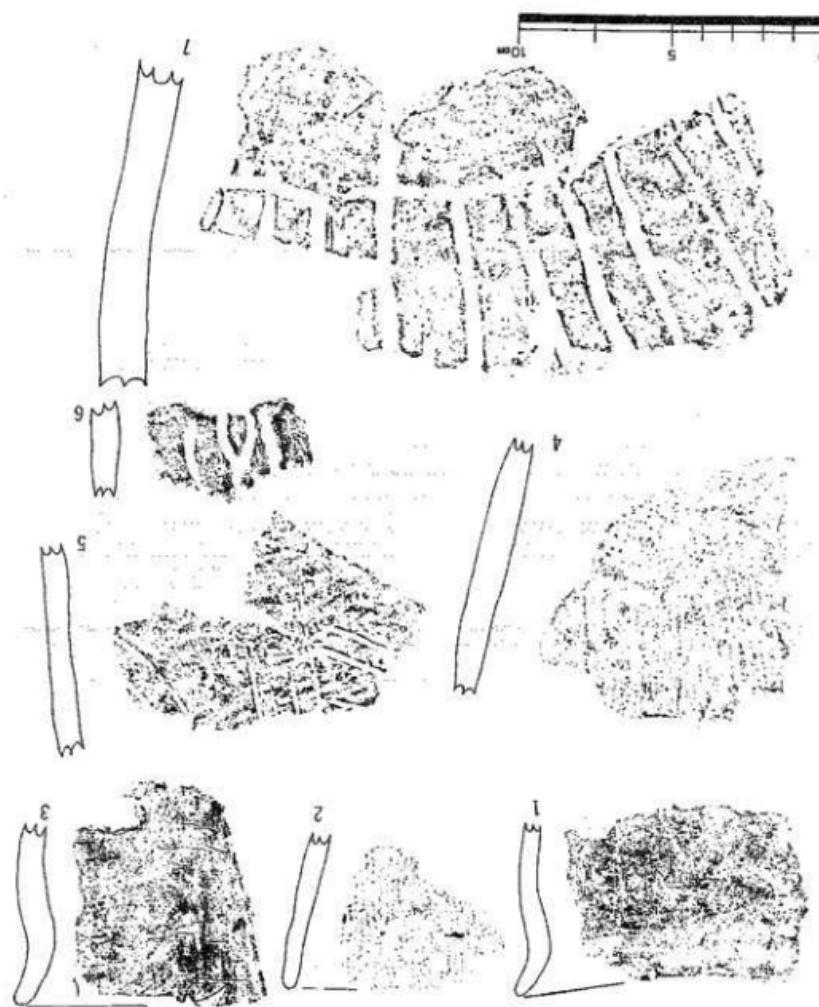


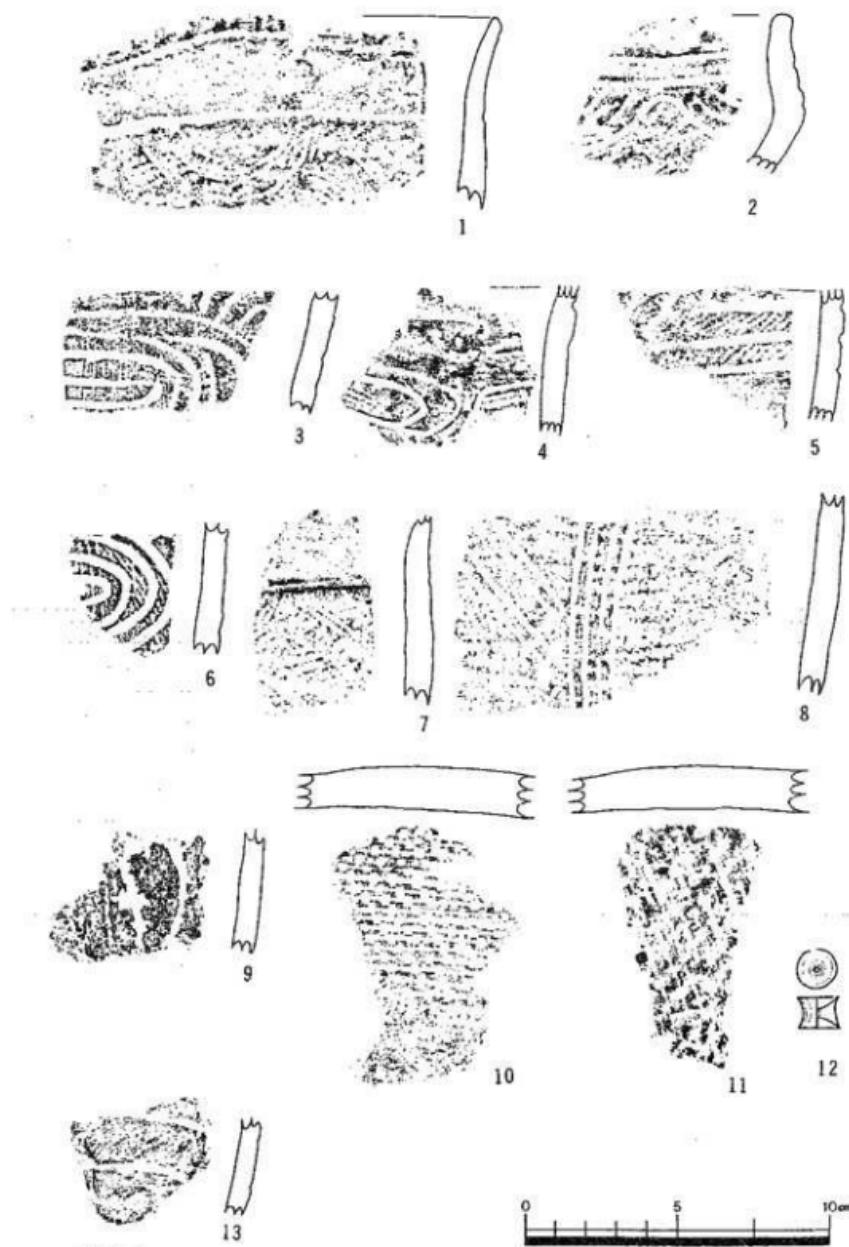
第51図 SK 41出土土器



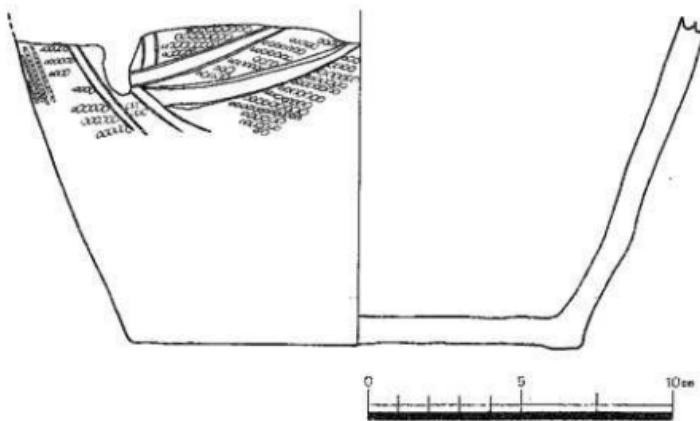
第52図 SK 42出土土器

第53圖 SH 47出土土器

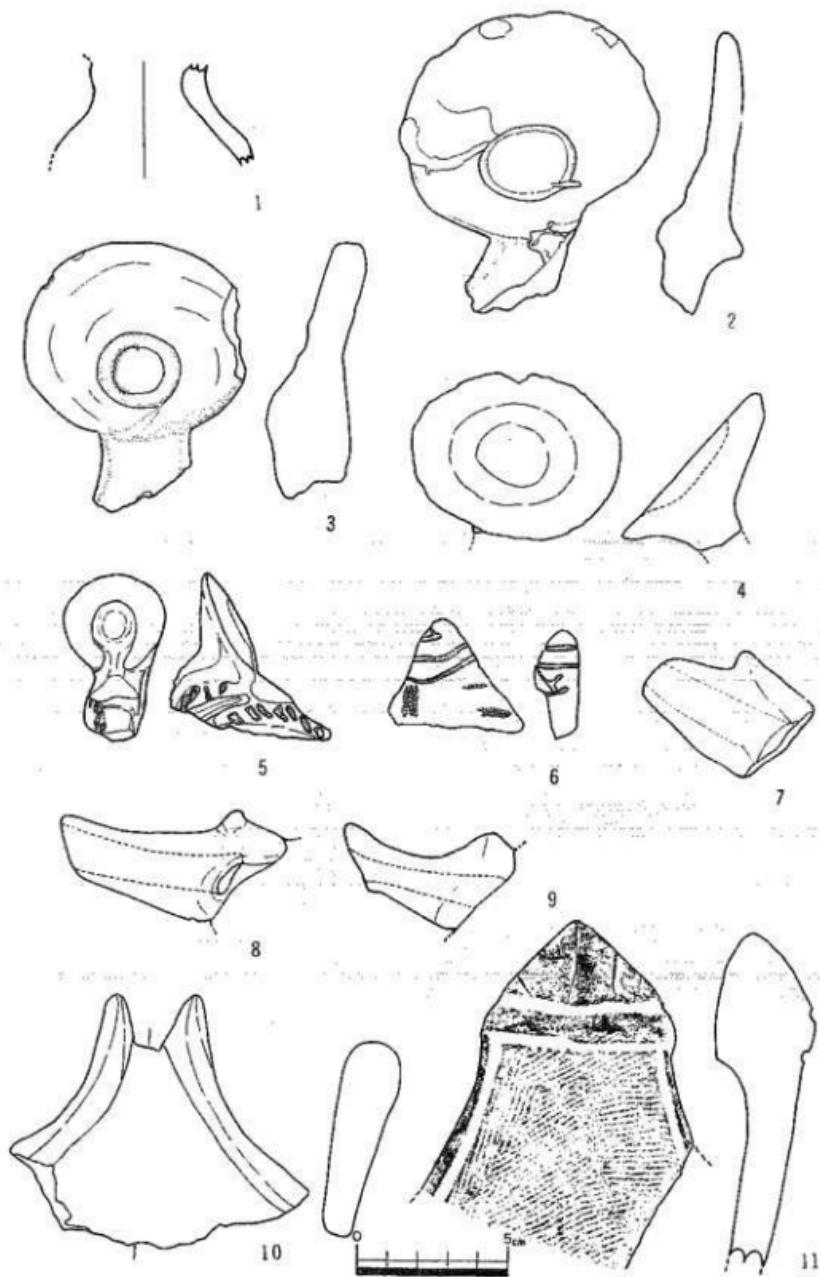




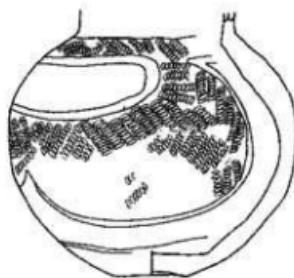
第54図 SK 101・106 出土土器



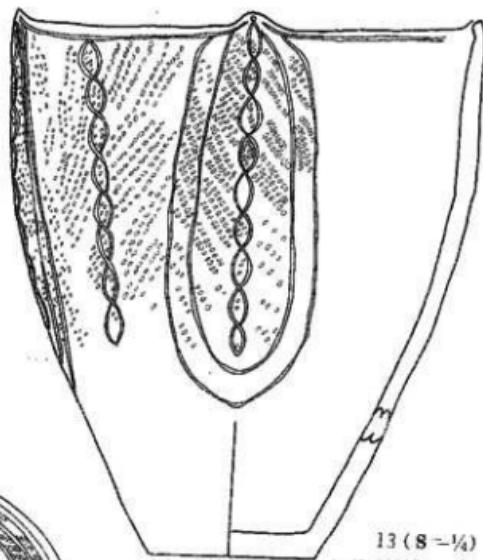
第55図 8×21実測図



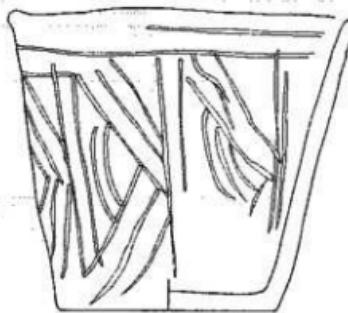
第56図 土器実測図



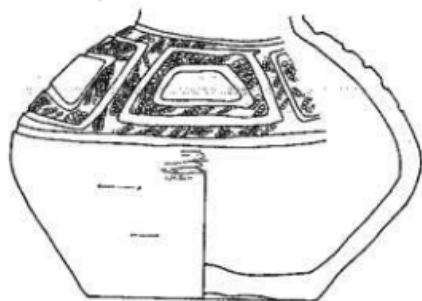
12



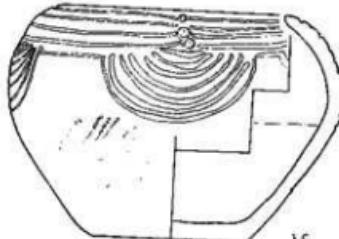
13 (S=1/4)



14



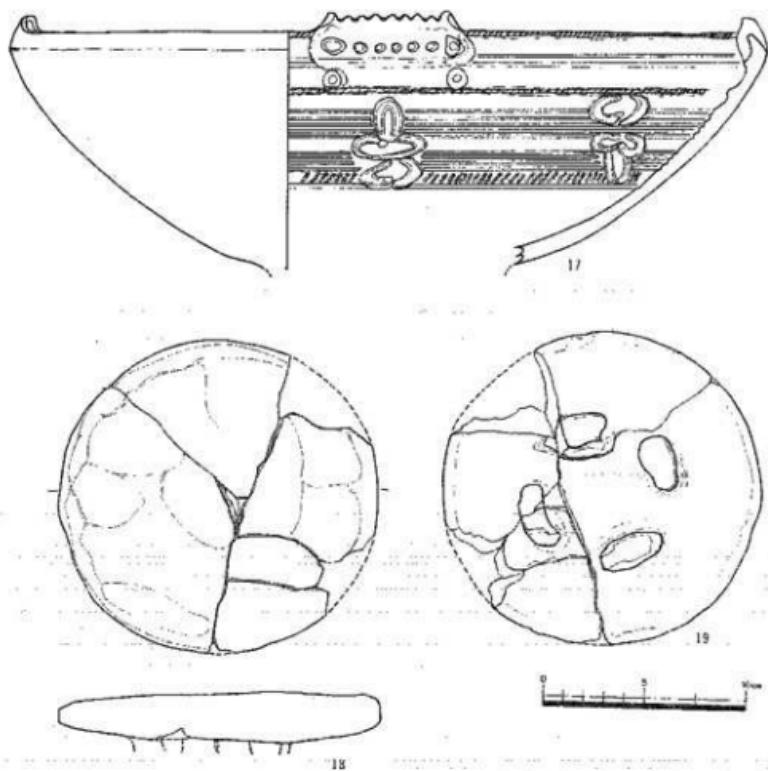
15



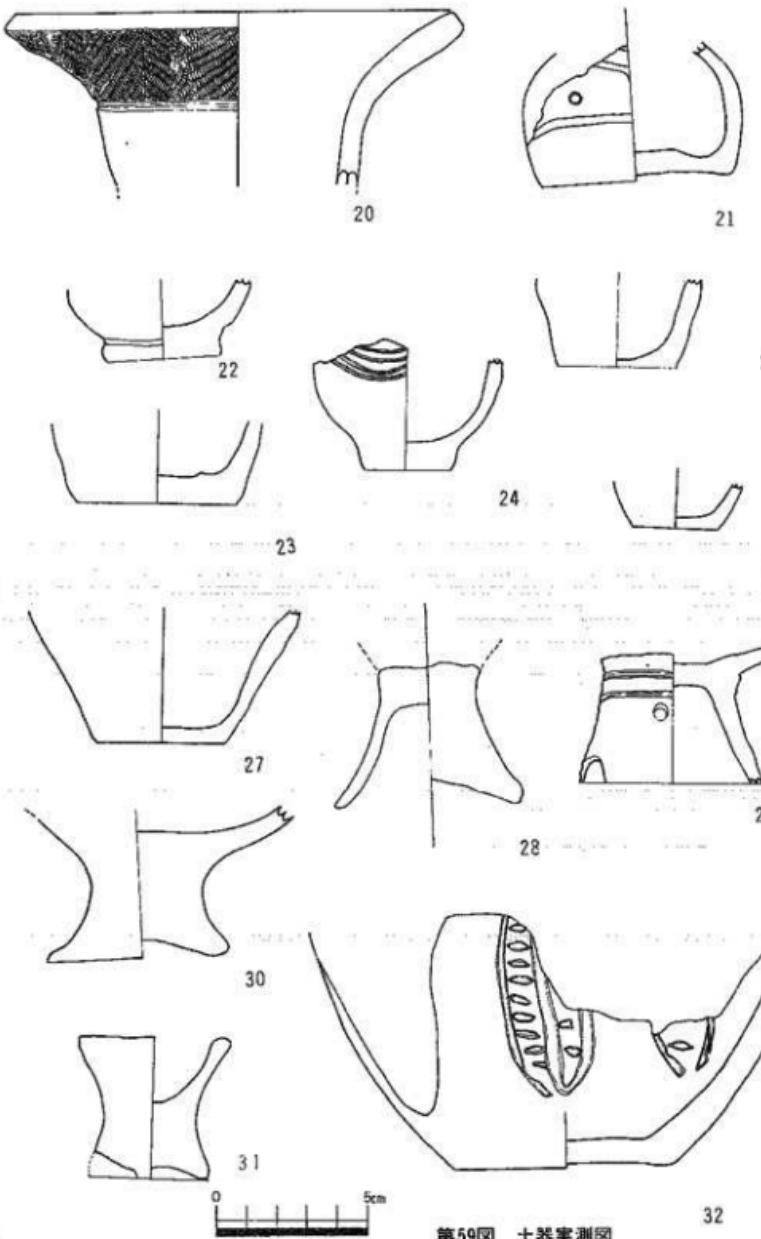
16

第57図 土器実測図

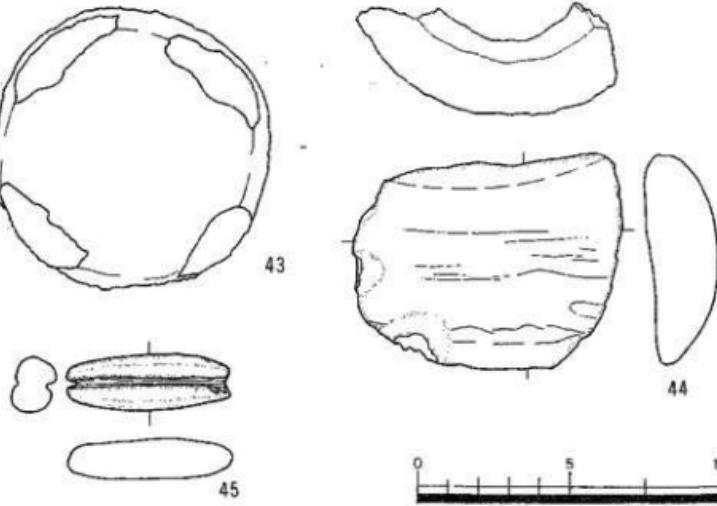
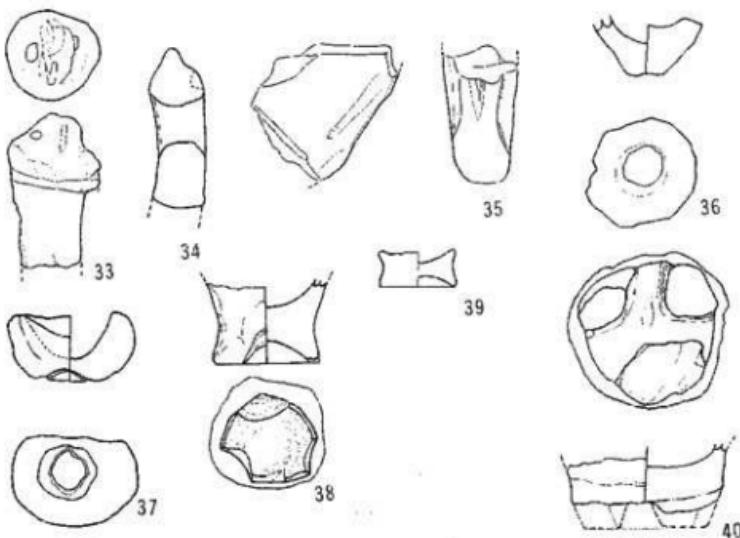




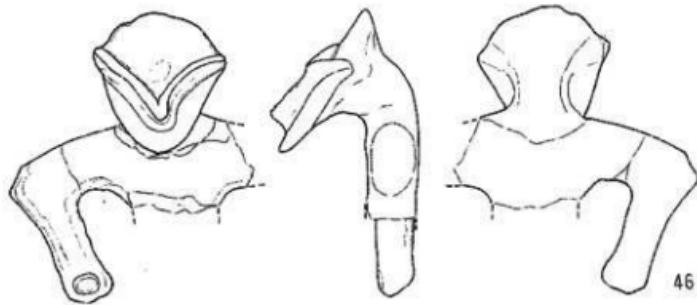
第58図 土器実測図



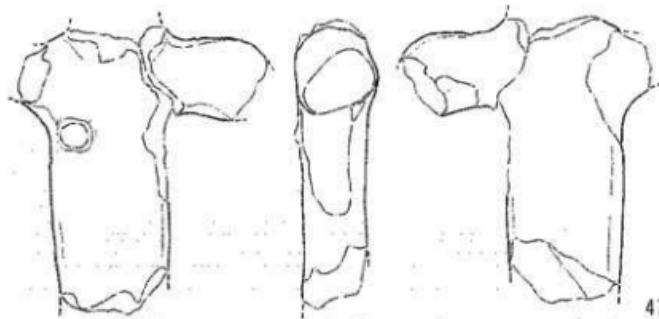
第59図 土器実測図



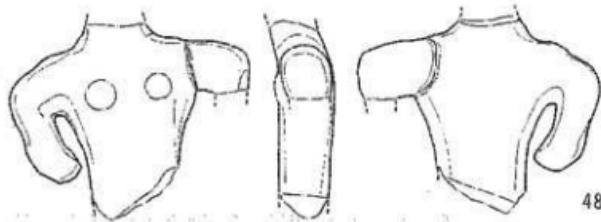
第60図 土製品実測図



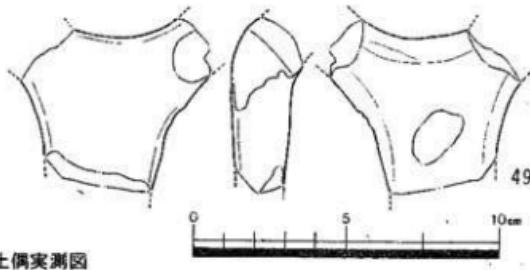
46



47

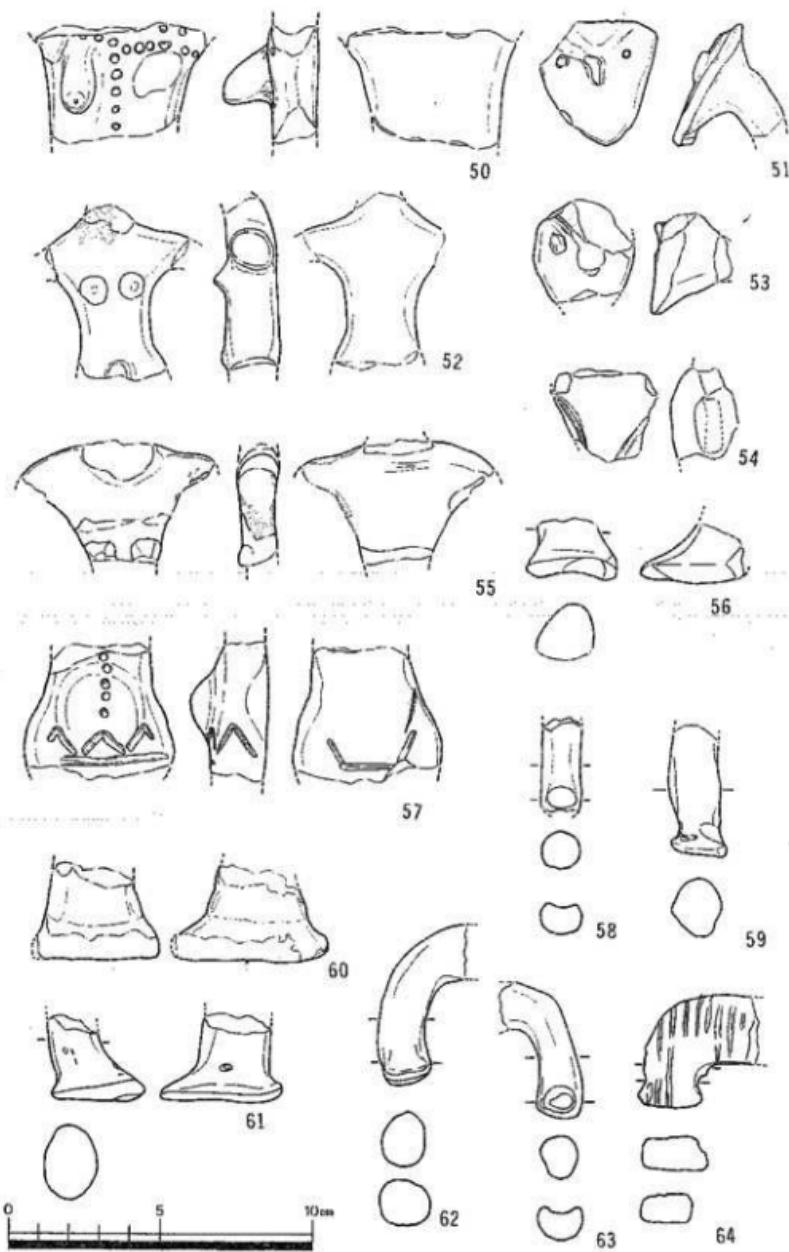


48

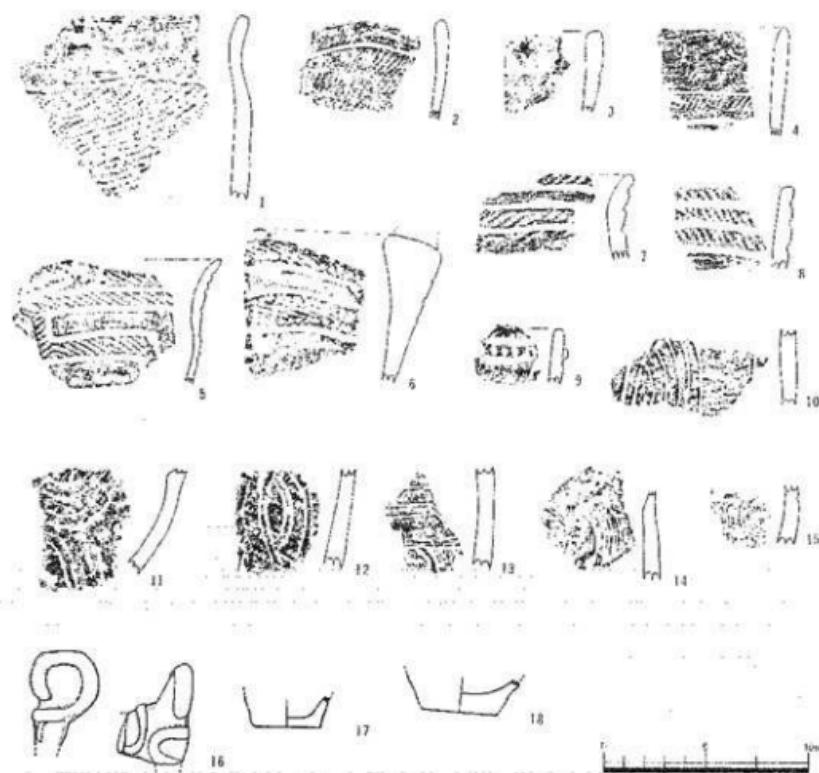


49

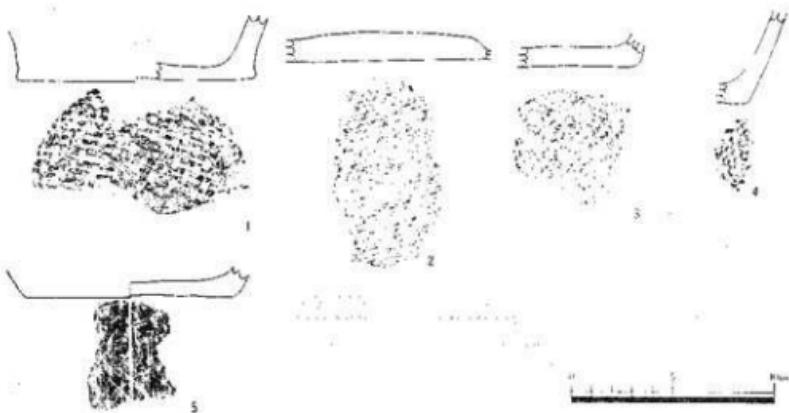
第61図 土偶実測図



第62図 土偶実測図



第63図 I区出土土器

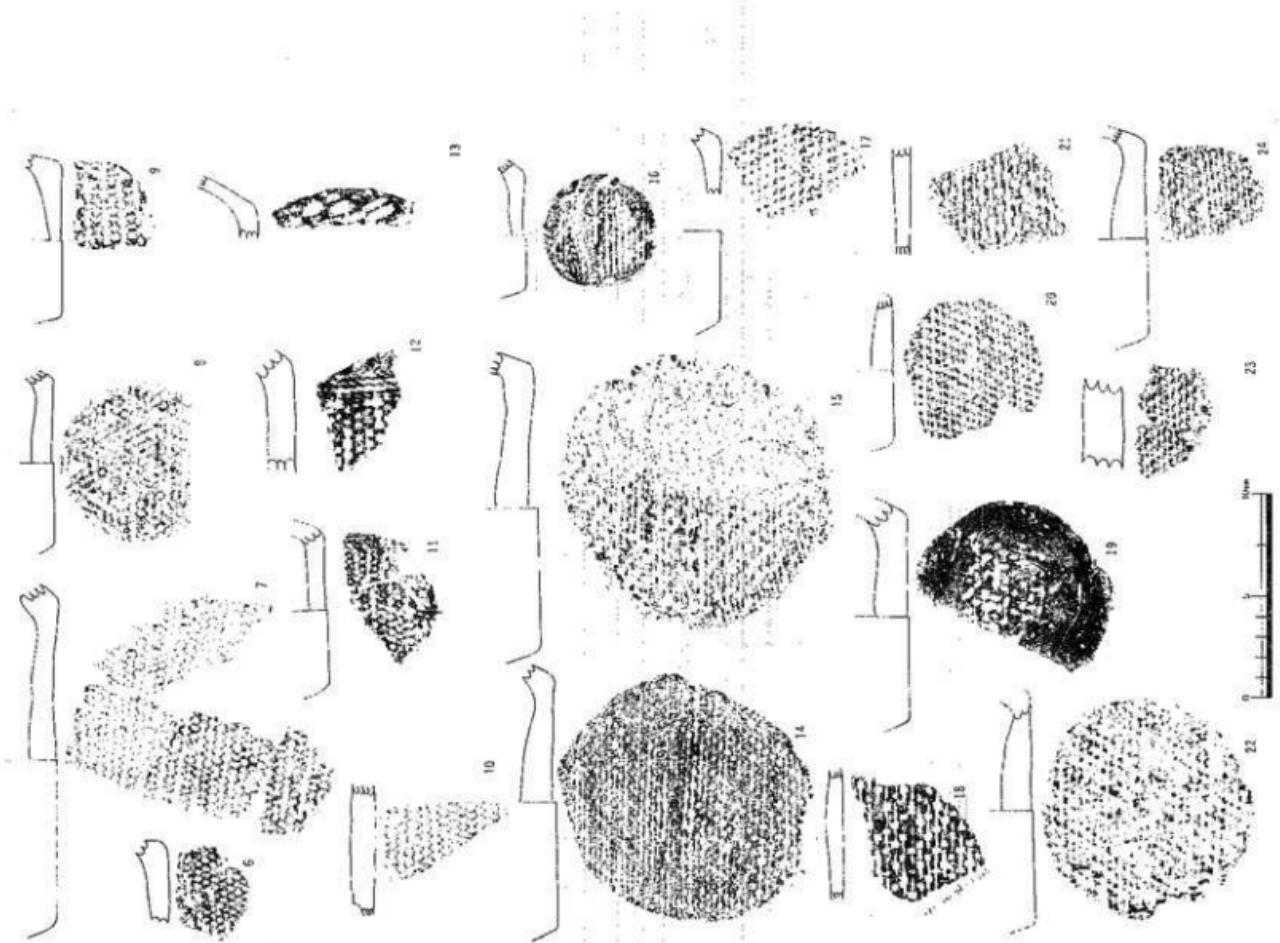


第64図 1区土器底部

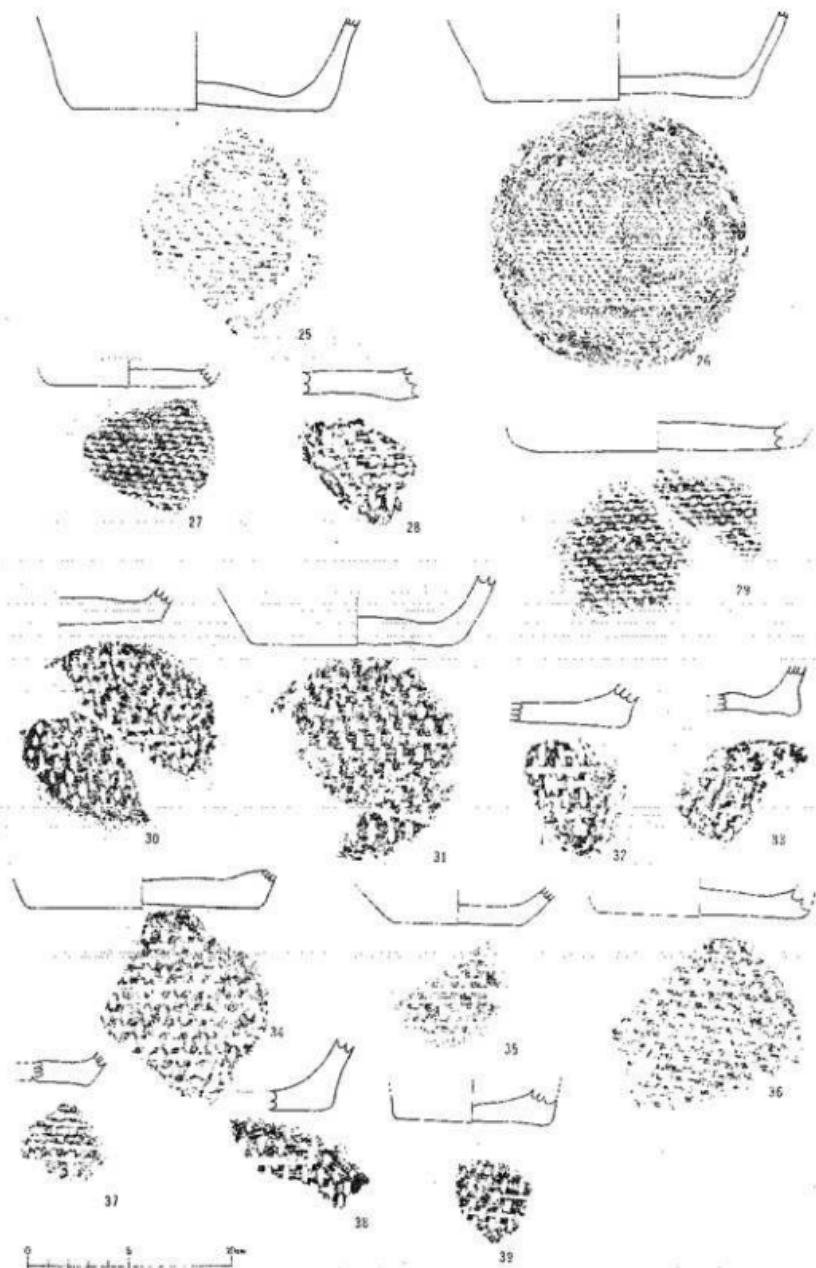
土器底部（第64図～68図） 土器の底部には所謂網代痕のあるもの、木葉痕のあるもの、籠の葉状の痕跡のあるものなどがある。中でも網代痕のあるものが最も多い。荒木氏の分類法により表現すると ① $\left\{ \begin{array}{l} A_1 + B_1 \\ B_1 + A_1 \end{array} \right\}$ (第65図1～13)、② $\left\{ \begin{array}{l} A_1 + B_2 \\ B_2 + A_1 \end{array} \right\}$ (第65図14～第66図29)
 ③ $\left\{ \begin{array}{l} A_2 + B_2 \\ AB_2 + A_2 \end{array} \right\}$ があり、②のものが一般的である。左へ1本送るものも、右に送るものもある。

第67図40～46のように紐を2～4本を一組にして編んだものもある。51は $\left\{ \begin{array}{l} A_2 + B_2 \\ B_2 + A_2 \end{array} \right\}$ の左1本
 送り、53は $\left\{ \begin{array}{l} A_2 + B_4 + A_2 + B_2 \\ B_4 + A_2 \end{array} \right\}$ と見える。その他の種類があるが数は多くなる。第67図48、51

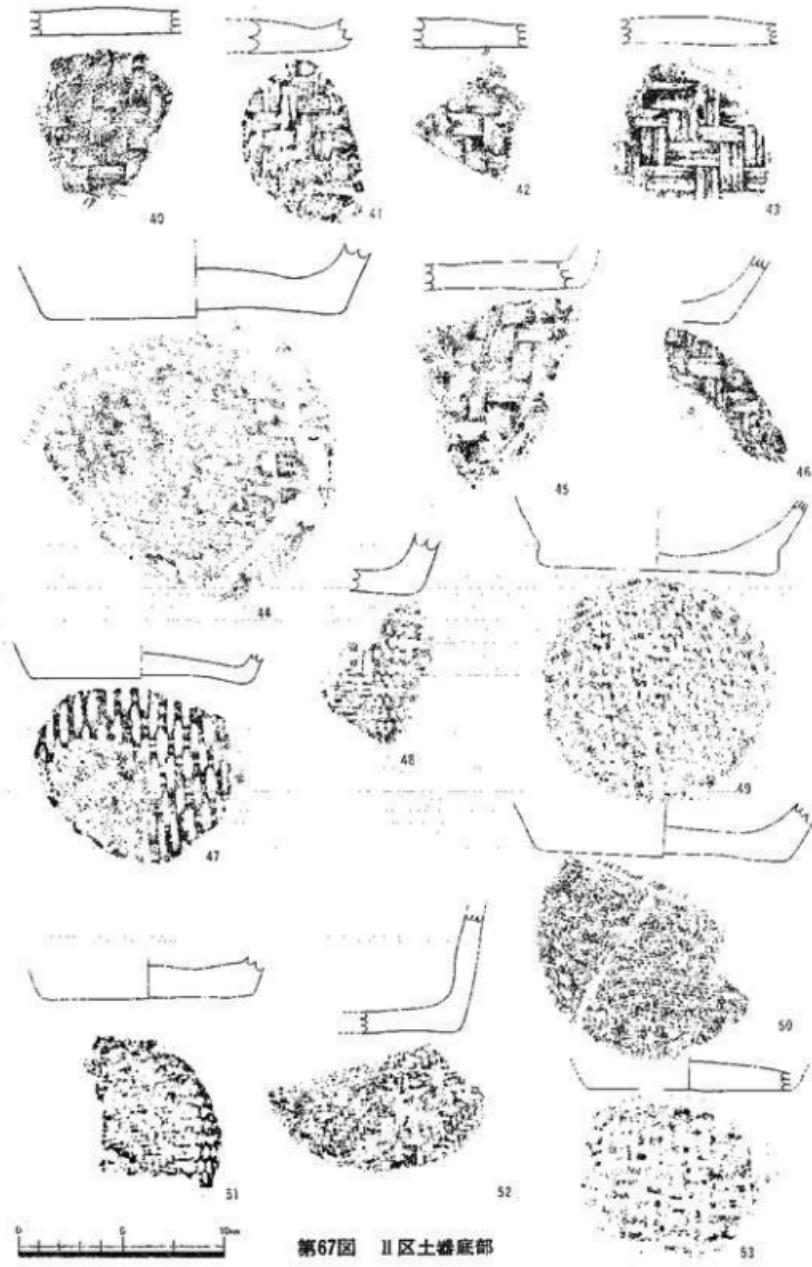
は底部の側線で編み方が変わる。これは何を意味するであろうか。このような例は少ないが、土器底部に網代をしく時、土器にあう網代をわざわざ編んだとは考えられないだろうか。②のように同種類の編み方が多いのに同一網代を用いたと考えられるものはない。



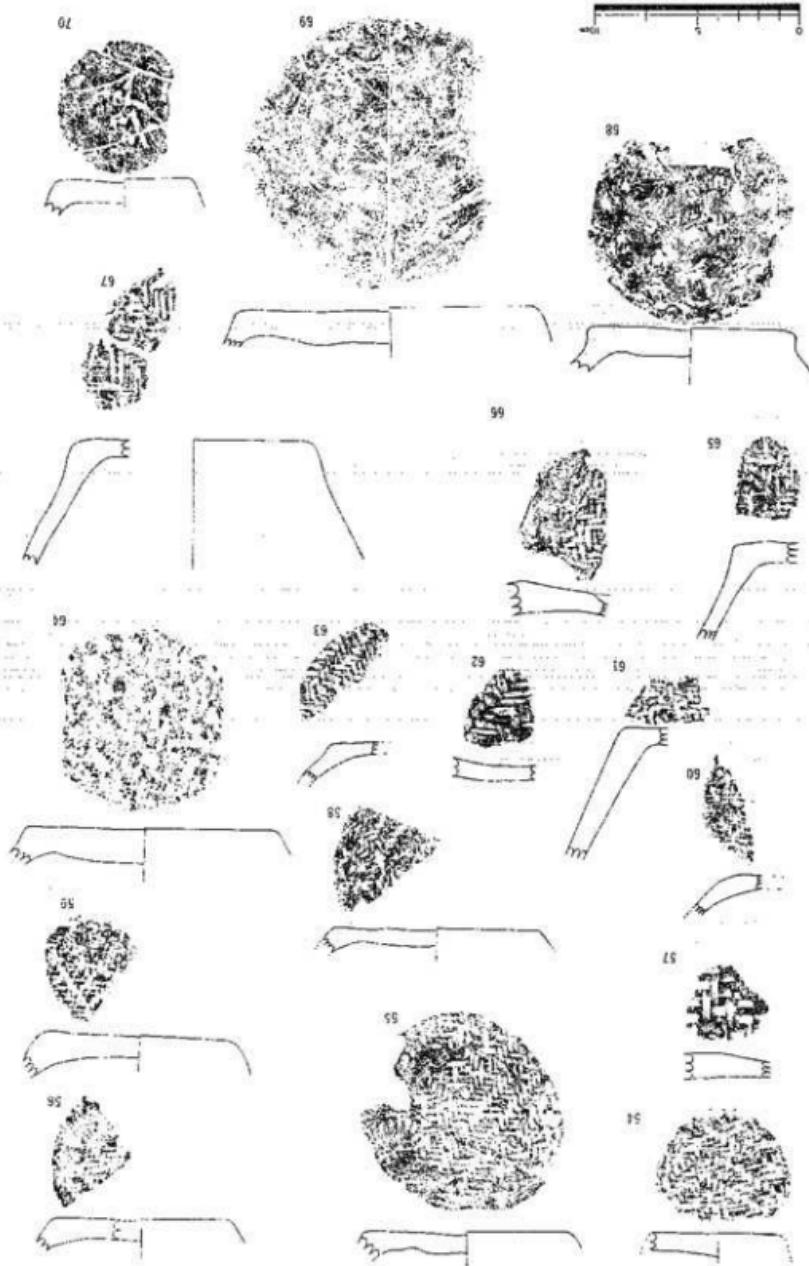
第65図 II区土器底部

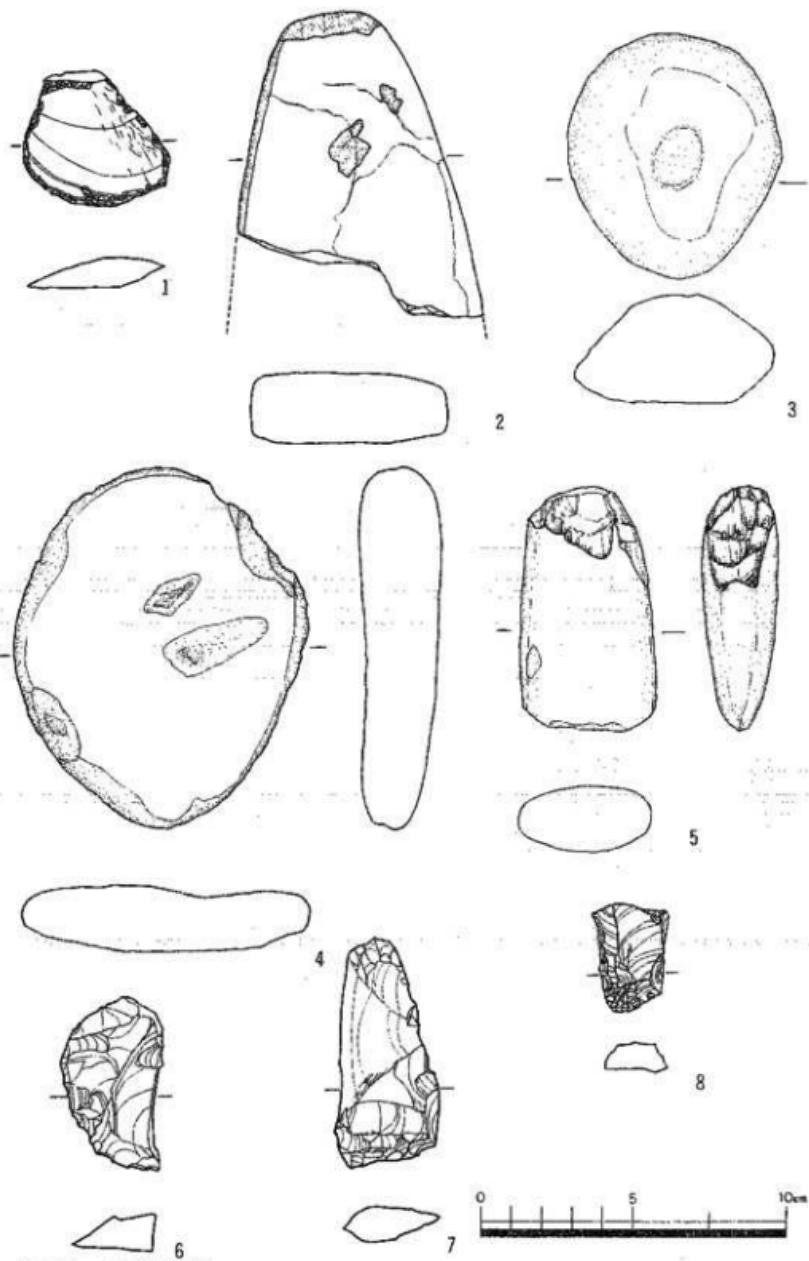


第66図 II区土器底部

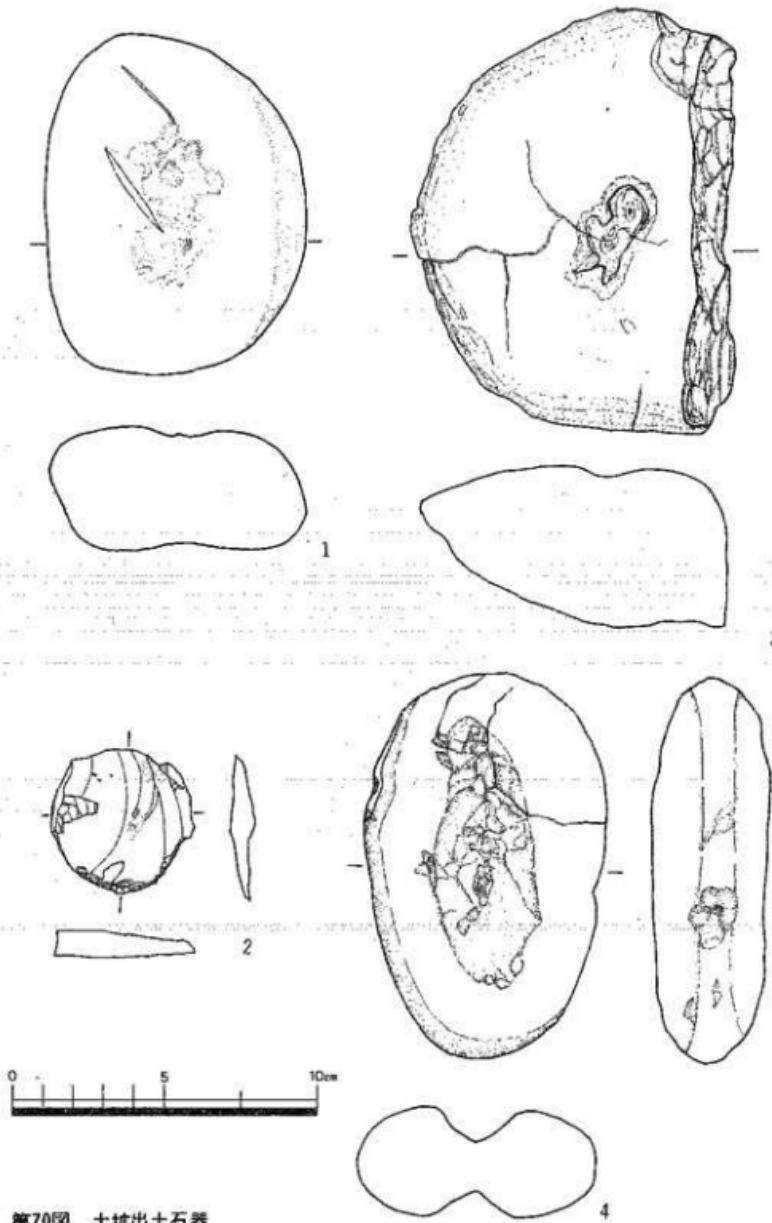


第67図 II区土壌底部





第69図 土塙出土石器



第70図 土塙出土石器

第5章 まとめ

由利郡東由利町田代字石高に所在する片符沢遺跡Ⅰは高瀬川と石高川に囲まれた台地上に位置する遺跡である。遺跡は高い所で標高151m、低い所で149mで北側に進むにつれて段々に低くなり高瀬川に迷している。台地は北側に延びている。台地の延びる方向は違っていても、昭和52年発掘調査し103基の土塁が発見された同町湯出野遺跡の土塁の占地している所と非常によく似ている。

今度の発掘調査の結果50基の土塁が発見された。土塁は大きく三つの群をなしている。これを全体的に見ると環状を呈すように見える。しかしそれぞれの土塁群の間隔は16m～20mほどあり、全体が一つの遺構を見るより、各群独立していると見た方がよいであろう。Ⅰ区4基Ⅲ区5基で、他の42基はⅡ区に属す。これら三群の土塁に共通する特徴はA、土塁の掘り方は楕円形、円形が主体をなす。B、土塁内にいろいろな遺物が入っていること。……土器の他にコブシ大から人頭大の石が入っているものが43基ある。……

他に注目されるのは、SK05土塁が一際めでたて大きいことである。断面は孤状をなし、外縁部が土手状にしっかり作られ、しかもこの周囲に5基の土塁が接して存在することである。現在までこのような例は聞かない。どのような意味をもつものか、今後の課題の一つである。

楕円形の土塁の方位を検討した結果、その方位に一定のまとまりはなく、ばらばらである。これも現在まで県内で発見されている上塁にはない特徴である。特色のある遺物・土偶を出土した土塁は03と09号土塁、四脚土器を出土した土塁は03と08号、他に器壁が厚く、内側に太い沈線で文様を施し、同一個体と考えられる土器片が23と47号から出土している。耳飾りは106号から、29号からは土塁底部に入っていた扁平な石に朱が付着していた。円盤状土製品・四脚・三脚土器、朱彩土器などが発見されている。土塁の配列を見るとⅡ区、Ⅲ区のそれは二列を意識しているように見える。これらのことを総合的に見ると墓と考えられる要素が多い。しかし前述したように方位等に規則性が認められず、積極的に裏付けるものも少ない。これらは他の遺跡の調査例をまって検討されなければならない問題である。

とにかくこれらの土塁は縄文時代後期前葉から中葉までの時期のものである。土塁の上には集石、土器が捨てられた状態で多数発見された。それらと土塁との関係も調査したが直接的な関係は認められない。このような例は秋田市坂の上遺跡に類似を見ることができる。



図版1 上 通路遺景（北▶南）

下 I区及びII区北部（南西▶北東）



圖版2 II區全景(南▶北)



圖版 3 上 II 区 南部 (北西►南東)

下 III 区 全景 (北西►南東)



圖版4 上 IV區全景(西→東)

下 發掘風景



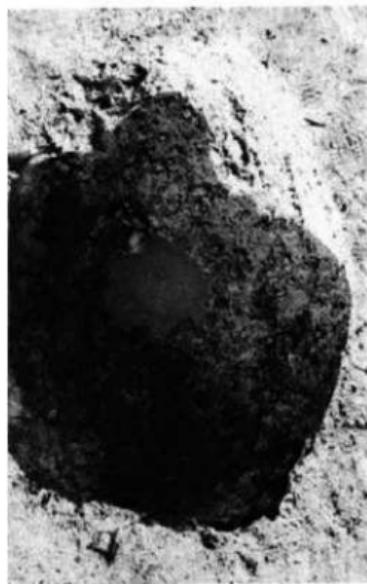
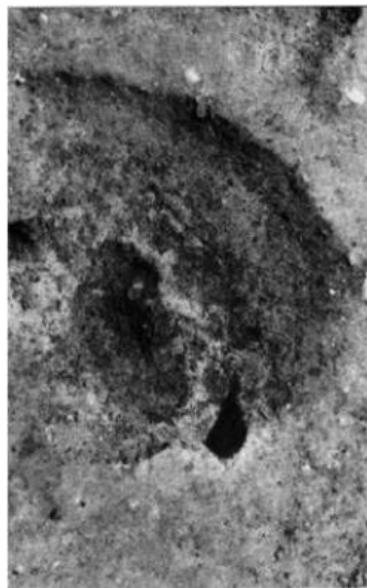
圖版5 上 SK41 土 塚
左下 SK40 土 塚
右下 SK39 土 塚



圖版 6 左上 SK44 土 塵
右上 SK43 土 塵
左下 SK42 土 塵
右下 SK38 土 塵

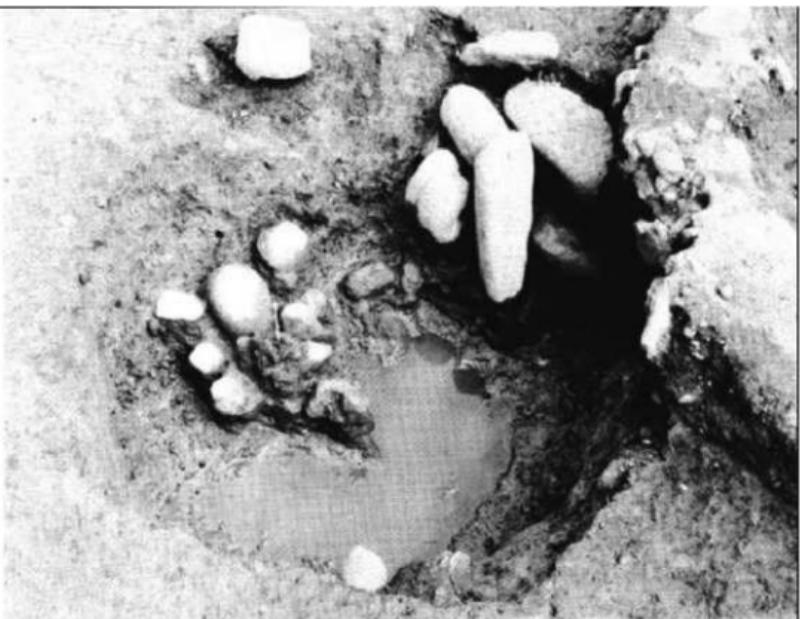


圖版7 上 SK46 土 塊
左下 SK28 土 塊
右下 SK32, 47 土 塊



圖版 8

左上 SK45 土 埴
右上 SK35 土 埴
左下 SK29 土 埴
右下 SK30 土 埴



圖版9 上 SK24 土 塚
左下 SK22 土 塚
右下 SK27 土 塚



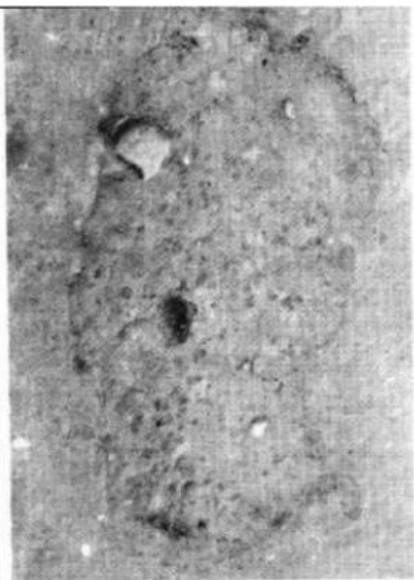
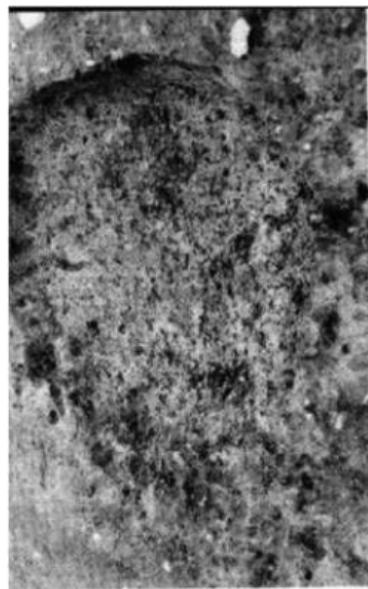
图版10 上 SK05 土 垒
左下 SK23 土 垒
右下 SK33 土 垒



圖版II 上 SK04 土 塚

左下 SK25 土 塚

右下 SK17 土 塚

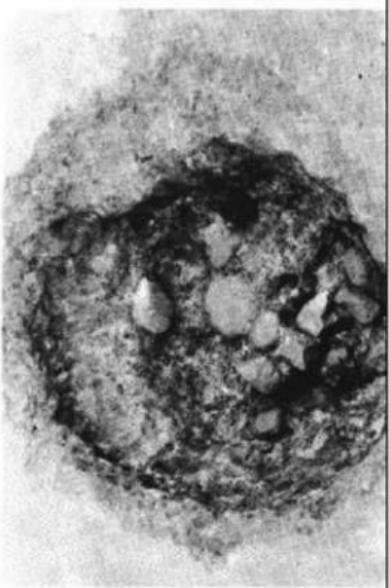
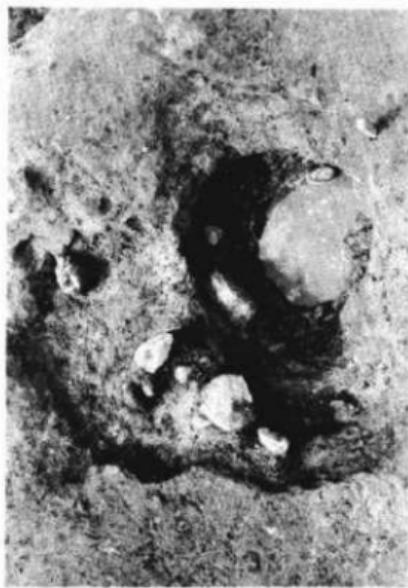
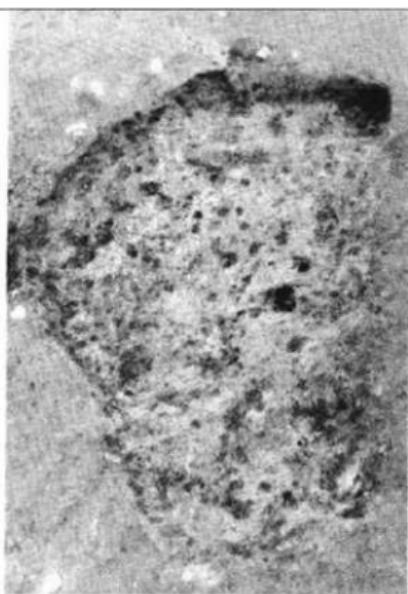


図版12 左上 SK16 土 塗

右上 SK15 土 塗

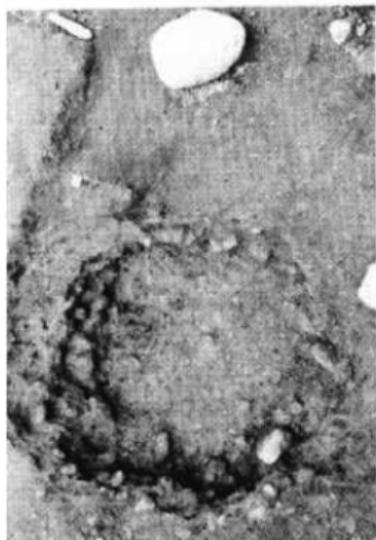
左下 SK34 土 塗

右下 SK31 土 塗



圖版13

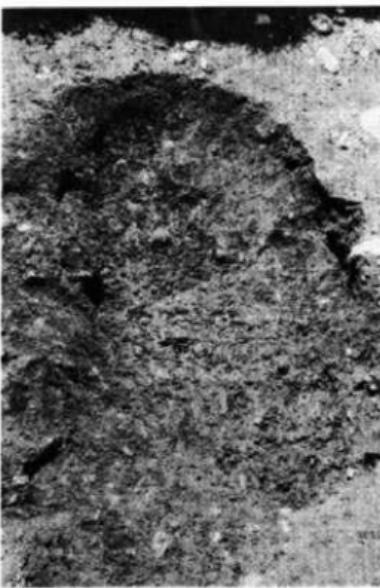
左上 SK19 土 塚
右上 SK07 土 塚
左下 SK06 土 塚
右下 SK03 土 塚



図版14 上 SK02,08 土 塚

左下 SK01 土 塚

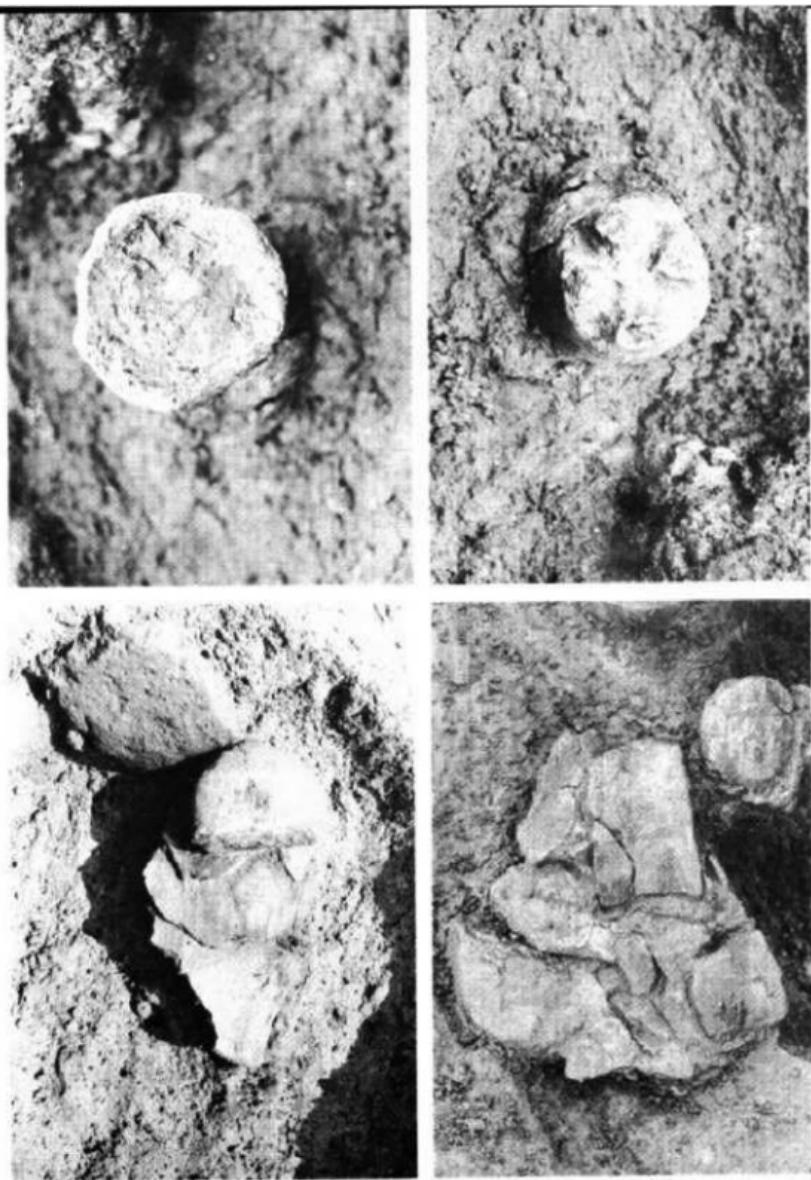
右下 SK11 土 塚



図版15 左上 SK14 土 塵
右上 SK12 土 塵
左下 SK13 土 塵
右下 SK09 土 塵

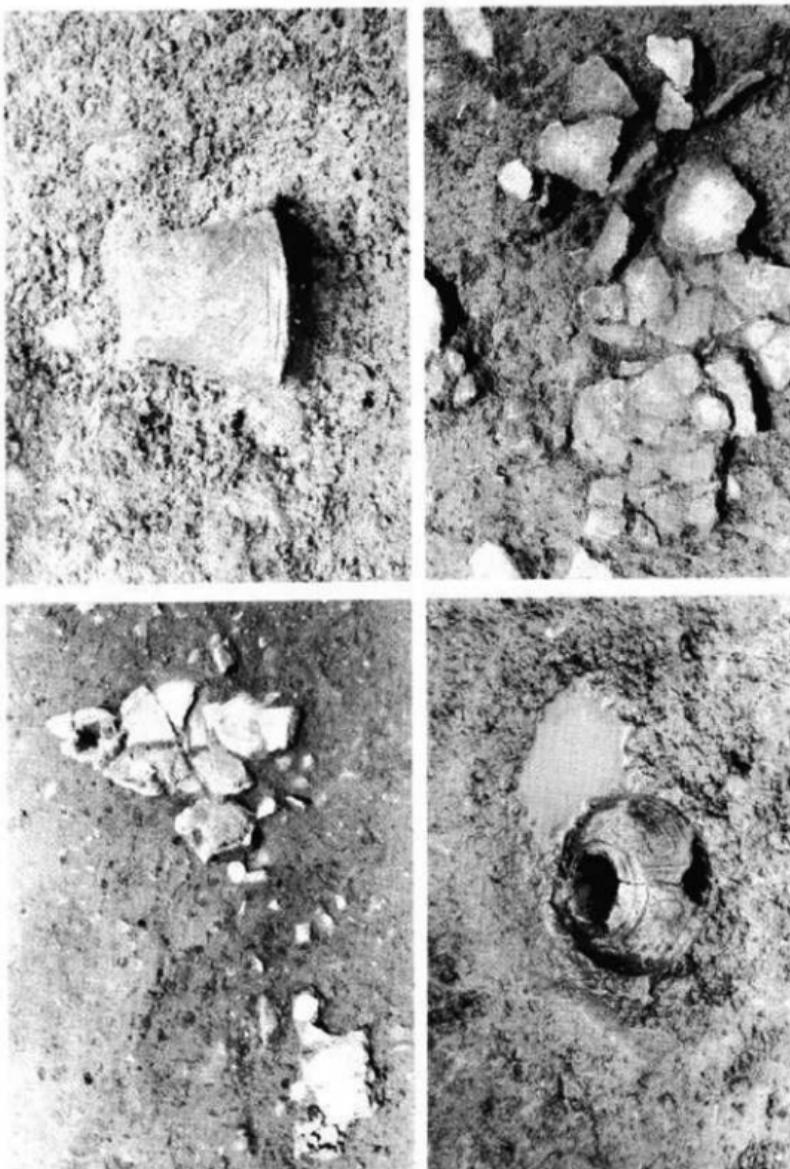


図版16 SX21 墓 置



图版17 土坡内遗物出土状况 左上 SK03
右上 SK08
左下 SK27
右下 SK28

图版18 II区北侧墓出土灰瓦
左上 MG55
右上 MG56
左下 MG55
右下 MF53





圖版19 II區南側遺物出土狀況 左上 MG50

右上 ME50

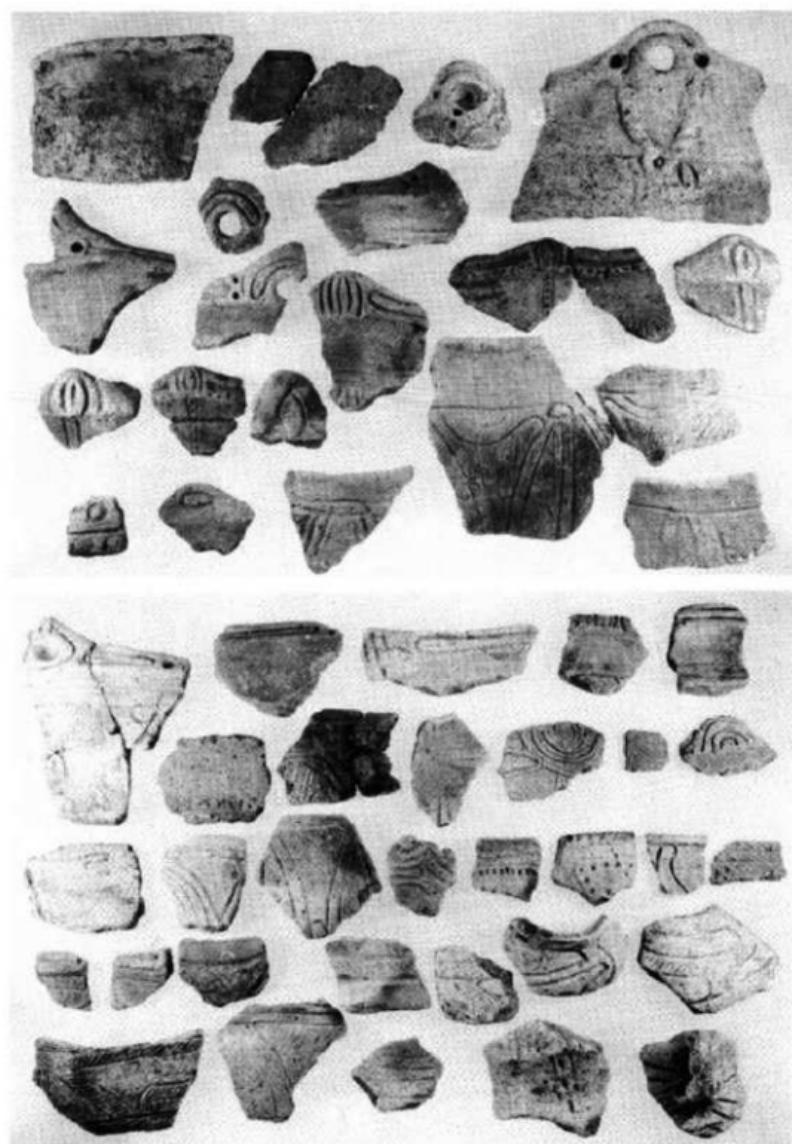
左下 MG49

右下 MG49

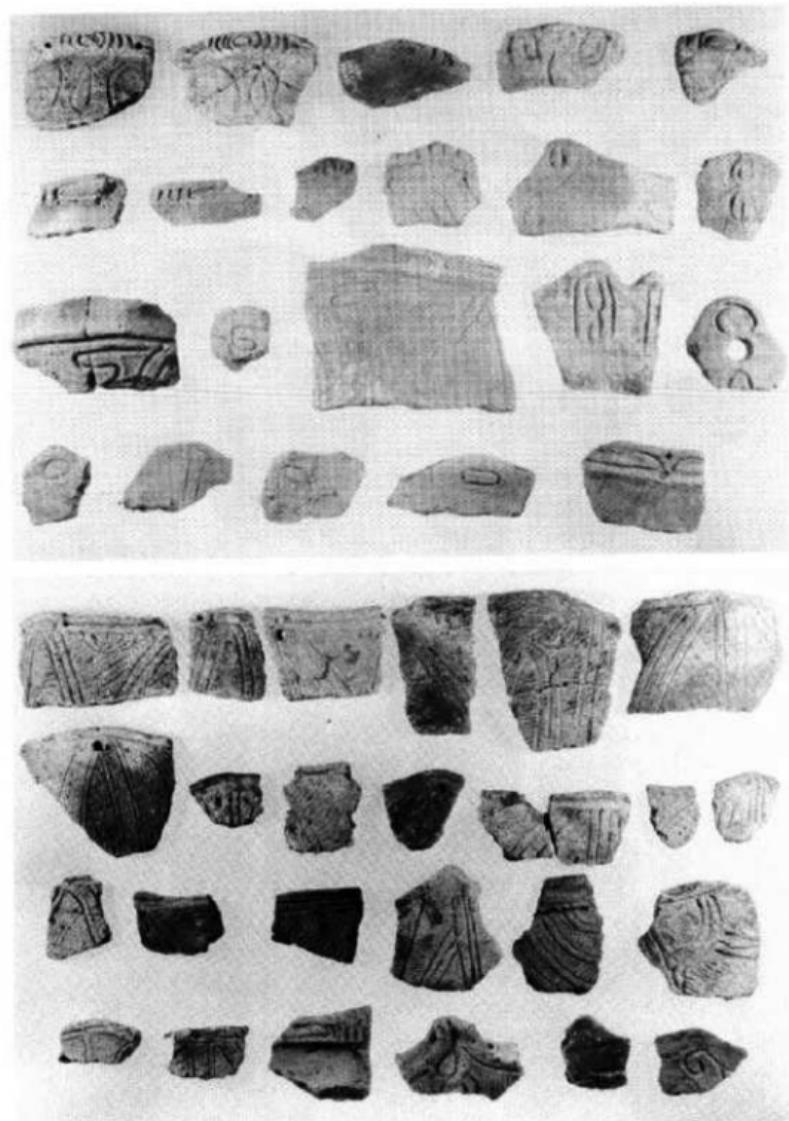


图版20 田区遗物出土状况 左上 MC44
右上 MC44
左下 MB43

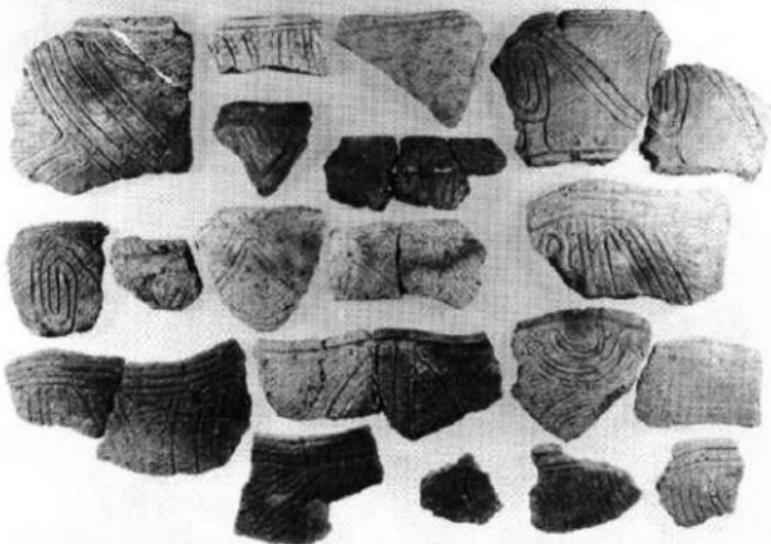
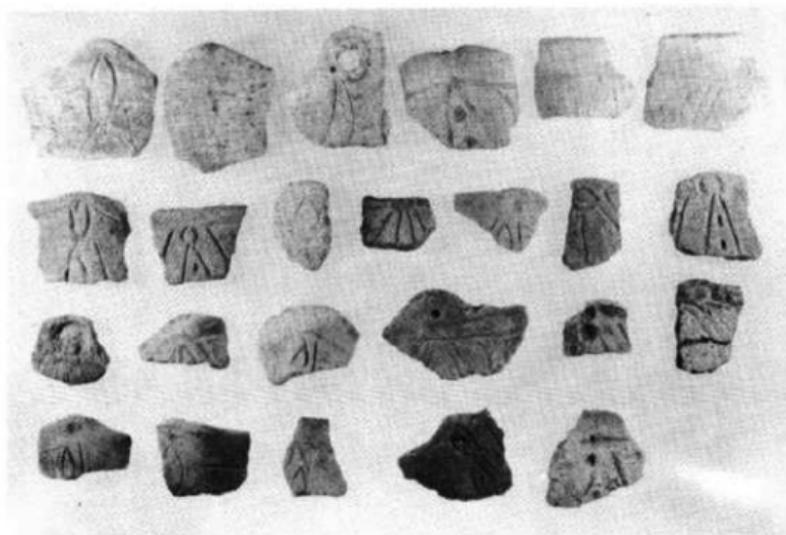
右下 MG49 土偶出土状况



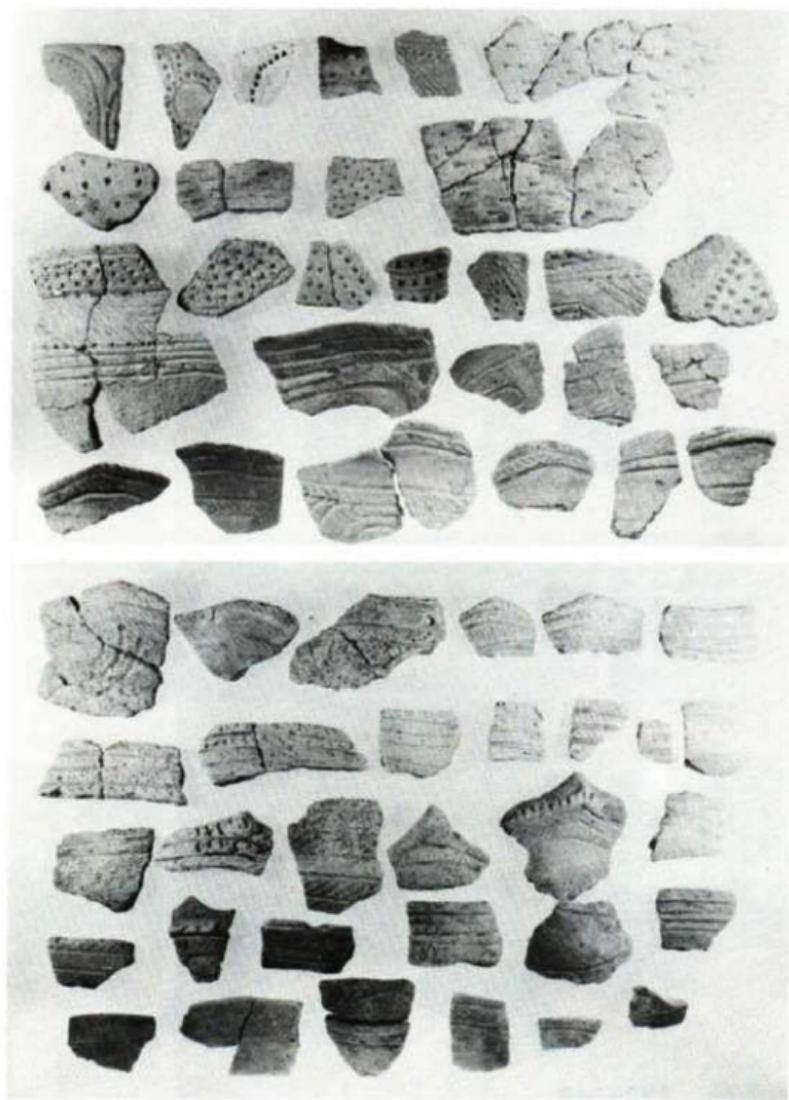
图版21 造桥外出土土器



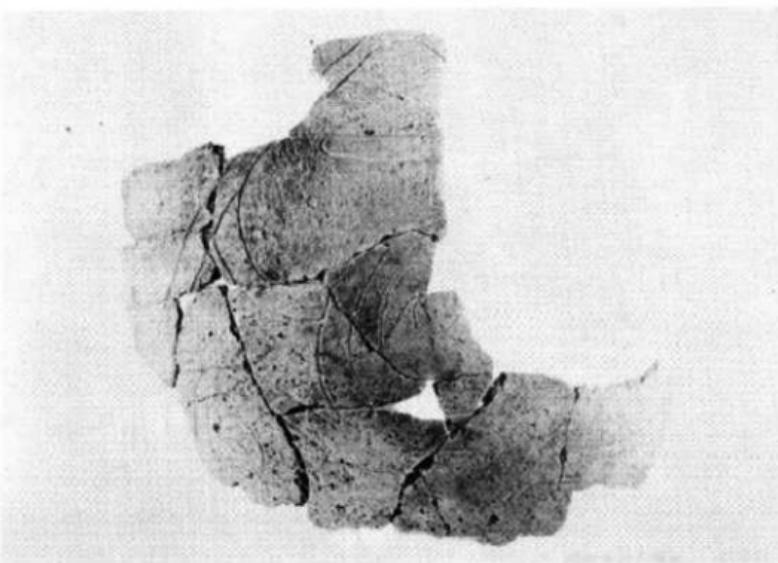
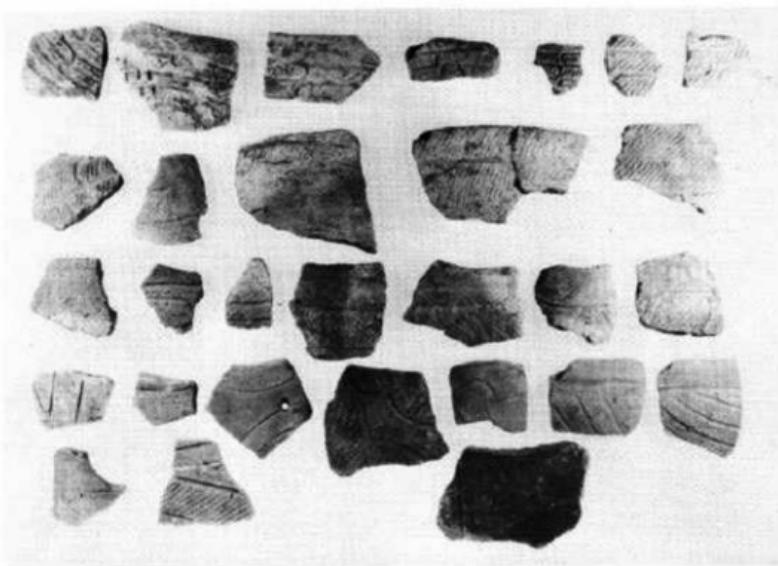
图版22 赵家堡出土土器



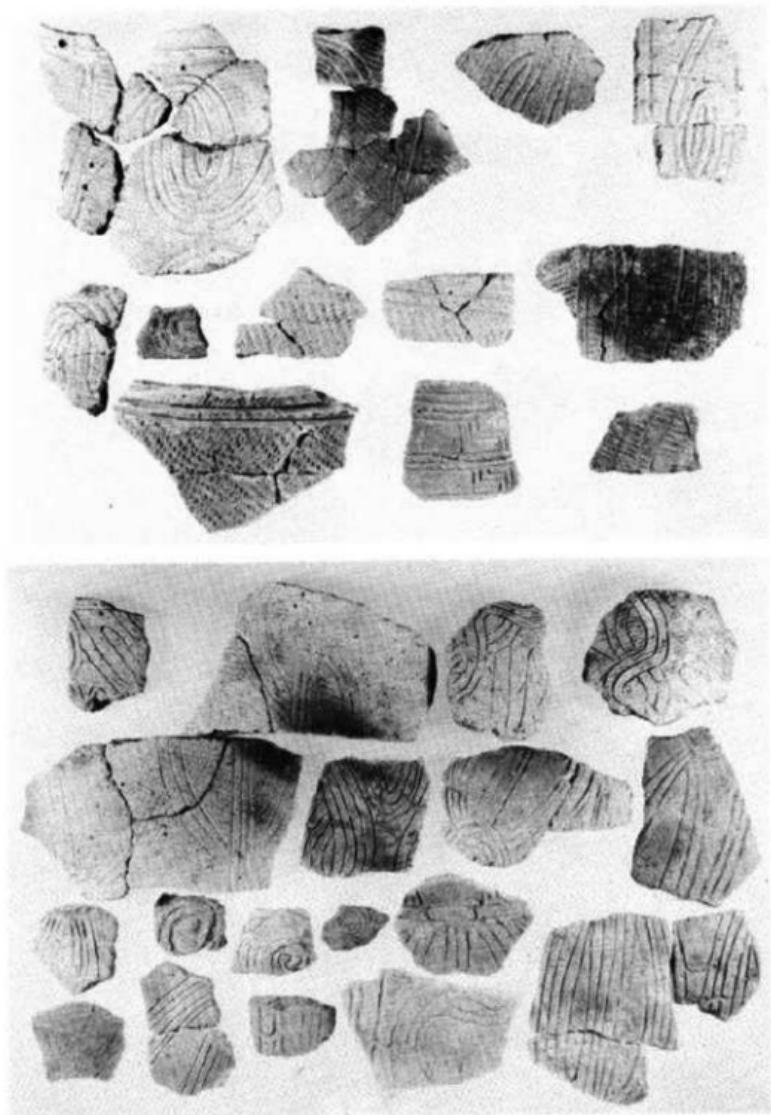
図版23 造橋外出土土器



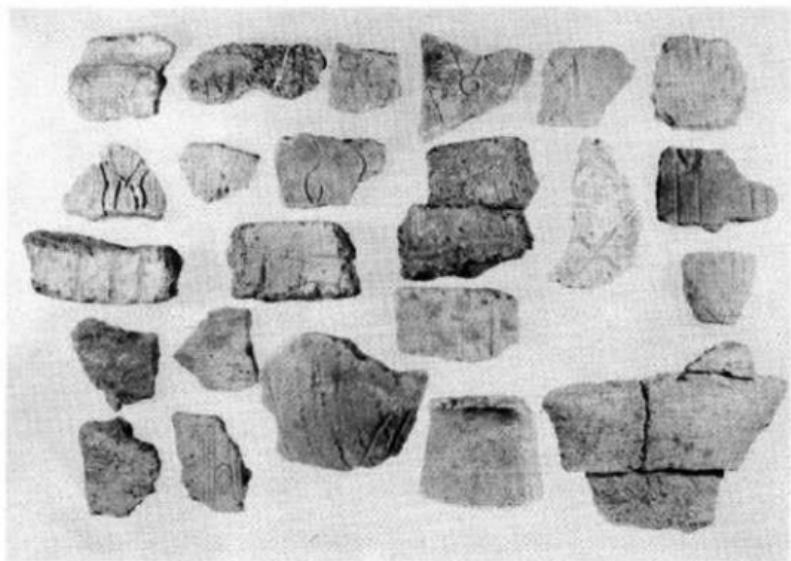
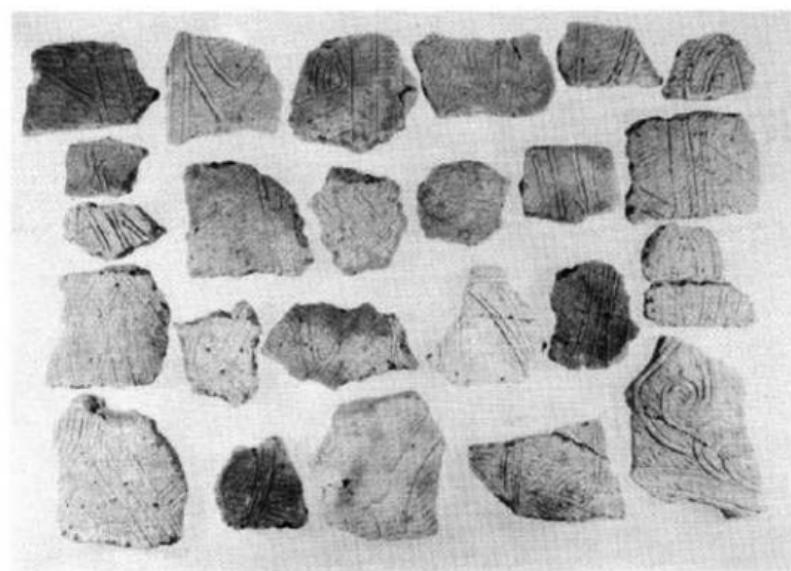
图版24 遗構外出土土器



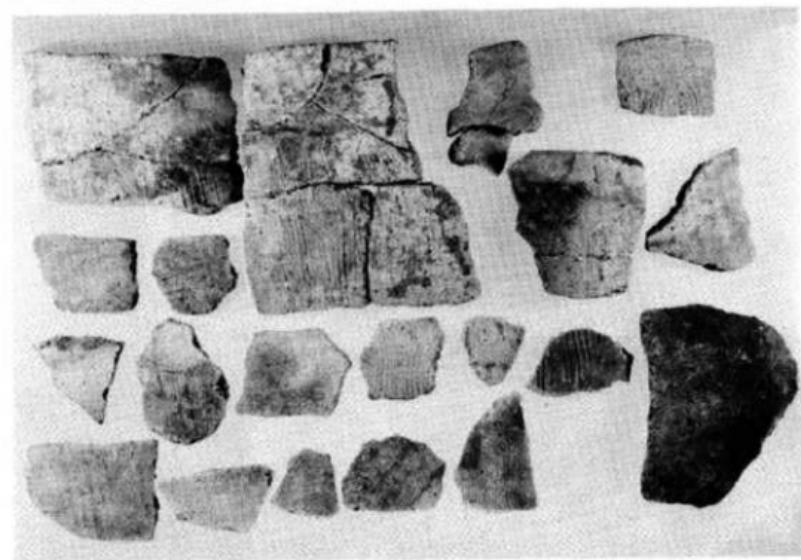
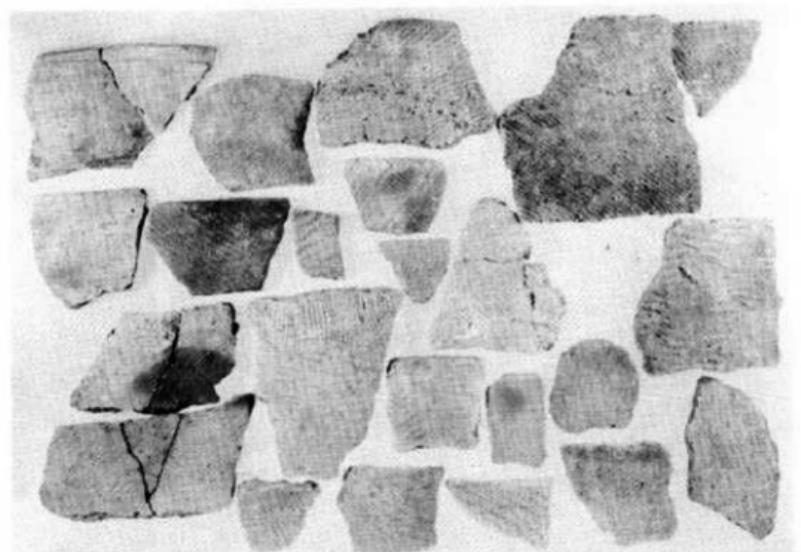
圖版25 造構外出土土器



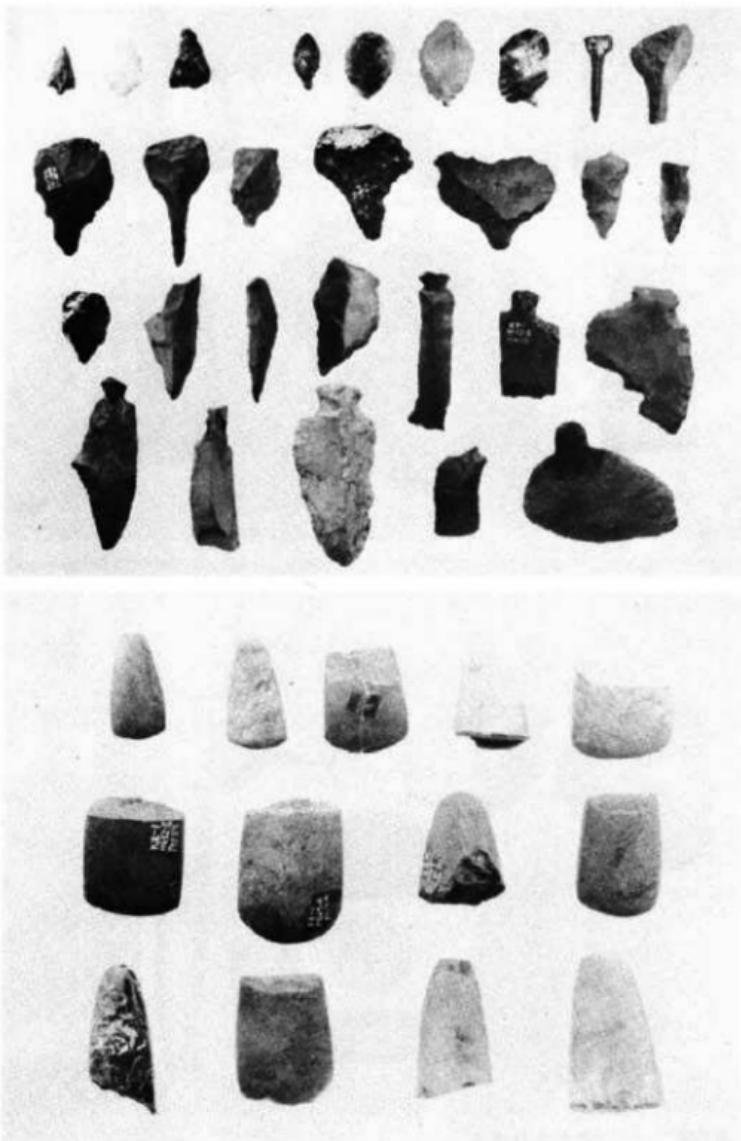
图版26 造精外出土土器



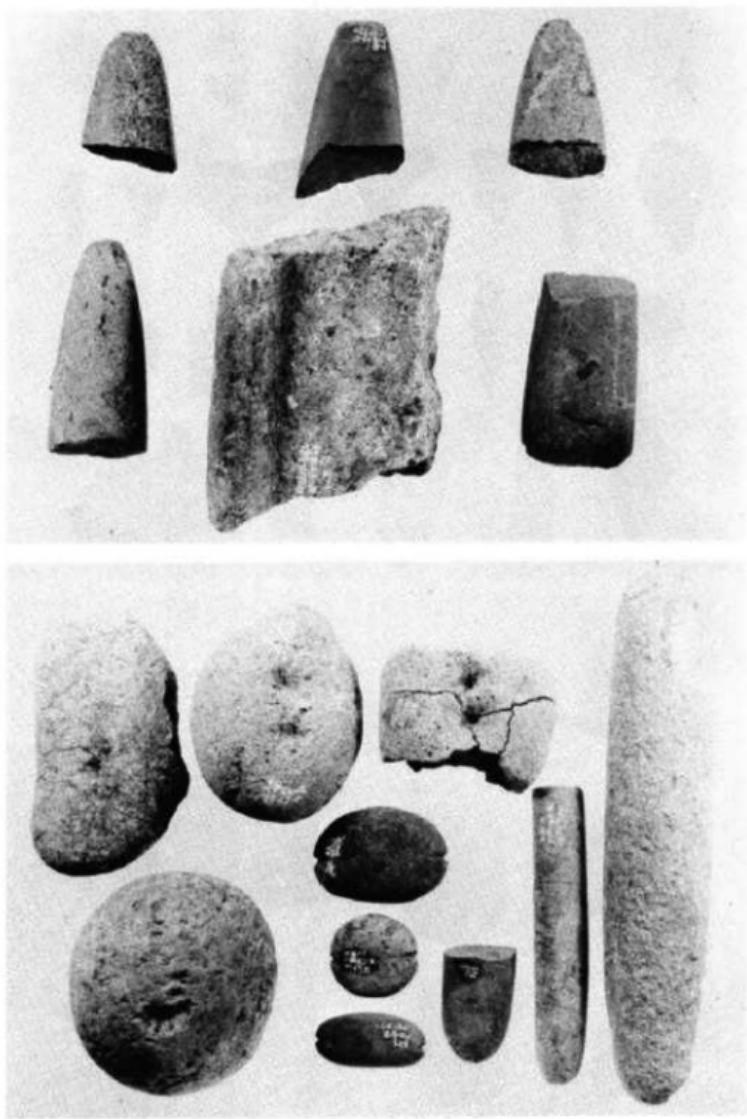
图版27 造桥外出土土器



图版28 造桥外出土土器



图版29 II区出土石器



图版30 上 III区出土石器
下 II区出土石器